

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート

弁天	．．．	P1
中央	．．．	P5
千葉寺	．．．	P9
松ヶ丘	．．．	P13
浜野	．．．	P17
こてはし台	．．．	P21
花見川	．．．	P25
さつきが丘	．．．	P29
にれの木台	．．．	P33
花園	．．．	P37
幕張	．．．	P41
山王	．．．	P45
園生	．．．	P49
天台	．．．	P53
小仲台	．．．	P57
稲毛	．．．	P61
みつわ台	．．．	P65
都賀	．．．	P69
桜木	．．．	P73
千城台	．．．	P77
大宮台	．．．	P81
鎌取	．．．	P85
誉田	．．．	P89
土気	．．．	P93
真砂	．．．	P97
磯辺	．．．	P103
高洲	．．．	P107
幸町	．．．	P111

自己評価（5段階選択式）の基準は、以下のとおりです。

- A 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を大幅に上回っている。
- B 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を上回っている。
- C 運営方針、目標や計画等で期待されている水準とほぼ同程度である。
- D 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を下回っている。
- E 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を著しく下回っている。

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター弁天		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>千葉市中央区の北部に位置して、JR千葉駅・西千葉駅・東千葉駅・京成千葉駅・京成新千葉駅・西登戸駅・モノレール千葉公園駅があり、都心部への利便性が高い地区である。JR西千葉駅エリアは、飲食店や商業店舗が多いが、中心地から一步入ると、閑静な戸建てやマンションが連なっている。一方、日常生活で利用する小売店がなく、買い物ニーズが高い地区でもある。周辺には大学や高校があることから文教地区の一部でもある。モノレール千葉公園駅エリアは企業や飲食店、生涯学習センター、千葉公園、公民館、病院などがあり、日中の人口が多い地区である。住宅地は戸建てとアパートが混在している。比較的坂道が多く、圏域内で高低差がある地区でもある。JR東千葉駅エリアは戸建てとマンションが立ち並び、同じ時期に同じ世代が一斉に移り住んだこともあり、中央区内で3番目に高齢化率が高く、住民組織の支え合い活動や交流の場が幅広く盛んな地区もある。一方、大通りに飲食店や娯楽施設が立ち並び、住宅街に一步入ると戸建てやアパートなど連なっていて、町内自治会毎に交流の場・通いの場や見守り活動を実施している地区もある。地域課題としては駅周辺の都市型であることや小売店の閉店が続き、全体的に買い物ニーズが高くなっている。令和4年度の総合相談では、近隣者等からの安否確認通報から孤立死を発見するケースが複数あり、地域や社会との孤立化が予測される。</p>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の身近な相談機関となるよう積極的に地域訪問する。</li> <li>・社会から孤立した高齢者等の早期発見や課題解決に取り組む。</li> <li>・課題が複合化・複雑化した相談を複数機関と協力して解決を目指す。</li> <li>・高齢者が活動的に過ごせるよう地域活動支援、普及啓発活動を継続していく。</li> <li>・地域やサービス事業所等と災害対策や事業継続対策に取り組む。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	<p>自己評価を選択した理由</p> <p>総合相談件数は前年度と比較して150件ほど増加した。複合化・複雑化した課題も懇切丁寧な対応や他機関協力を心掛けた。民児協や地域の会議等に参加して、センター移転・業務周知活動を実施した。福祉イベント開催、体操教室などの地域活動支援、地域住民や専門職に向けた講座や研修は計画を上回り開催する事が出来た。</p>
	次年度に向けた展望	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域の身近な相談機関となるよう、積極的な訪問で顔の見える関係作りを継続する。</li> <li>②社会から孤立した高齢者等の早期発見や課題解決に向けた取り組みを継続する。</li> <li>③複合化・複雑化した相談に対応するため、他機関協同、多職種連携等を継続する。</li> <li>④高齢者が活動的に過ごせるよう地域活動支援、普及啓発活動を継続する。</li> <li>⑤防災会議等の参加や勉強会開催など、有事に備えた対策を継続する。</li> </ol>	
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防、地域資源に関する最新情報を得た際は、ミーティングや会議の報告、資料回覧等で、包括3職種と生活支援コーディネーターが共有した。（適宜）</li> <li>・居宅ケアマネジャーからプラン作成等の問い合わせがあった際に、インフォーマルサービスを位置付けるよう周知・助言をした。（適宜）</li> <li>・民児協の定例会等で介護保険制度、インフォーマルサービス事業の活用方法を周知した。（6月～7月）</li> <li>・地域住民・地域団体等とサービス事業所のネットワーク構築、普及啓発活動の支援を目的とした福祉イベント開催に向けて打ち合わせを実施した。（6月・9月）</li> <li>・成年後見制度、防犯講座、高齢者虐待防止、消費者被害防止、歩行力測定会の広報誌を作成して、制度案内、各機関の紹介、サービス利用促進を目的として関係者や事業所等に配布した。（適宜）</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防、地域資源に関する最新情報を得た際は、ミーティングや会議での報告、資料回覧等で、包括3職種と生活支援コーディネーターが共有した。（適宜）</li> <li>・居宅ケアマネジャーからインフォーマルサービスの問い合わせがあり、情報提供や助言を行った。（3件）</li> <li>・地域住民・地域団体等と福祉イベント開催して、インフォーマルサービスの周知活動を実施した。（11月）</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	居宅ケアマネジャーや地域団体等とのネットワーク構築、情報や課題共有の継続が出来た。地域に向けた福祉イベント開催でセルフケア促進に関する取り組みが出来た。新型コロナウイルス感染対策を講じながら、利用者宅の訪問や課題把握・目標設定などケアマネジメントを実施する事が出来た。
	次年度に向けた展望	・介護予防・日常生活支援総合事業の利用者が、セルフケアに向けた取り組みや生活が出来るように環境整備を行う。		
3 総合相談支援				
年度 総括	前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規相談受付後は速やかに報告・検討・情報共有して円滑な支援を実施した。(新規相談556件)</li> <li>・3職種会議を開催して、ケースの進捗状況や終結等の協議、支援の方向性について検討・決定した。(毎月)</li> <li>・関係機関と連携を図り、適切な相談機関に繋ぐことでチームアプローチを実施した。(障害者基幹相談支援センター、認知症初期集中支援チーム、各行政関係機関など)</li> <li>・個別の地域ケア会議を2件開催して、地域住民やケアマネジャー等と支援方法について検討した。(5月・7月)</li> <li>・支援の質の向上を目的として、高齢者虐待、医療知識、身寄りのない方の支援についての外部研修や勉強会に参加した。(3件)</li> </ul>	
	後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規相談受付後は、速やかに報告・検討・情報共有して円滑な支援を実施した。(新規相談315件※令和6年2月末)</li> <li>・継続ケースの進捗報告を実施、支援の方法や終結等を毎月包括3職種で協議・決定した。(毎月)</li> <li>・介護予防教室や福祉イベントで、出張相談会を開催した。</li> <li>・複合的課題や支援困難ケースは、各種相談支援機関に繋ぎ、チームアプローチを実施した。(障害者基幹相談支援センター、福祉まるごとサポートセンター、各関係行政機関等)</li> <li>・個別地域ケア会議を1件実施し、地域住民・ケアマネジャー・行政機関等と支援方法について検討した。</li> <li>・相談援助の研修や勉強会に参加した。(後期合計9件)</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	ミーティングを活用した支援方法の検討・情報共有や出張相談は予定通り実施できた。利便性の高い場所に移転した結果、前年度後期に比べて来所相談が約2倍に増加した。年間を通してセンター移転の周知活動した効果があったとも考えられる。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の身近な相談機関として窓口機能の充実を図る。</li> <li>・高齢者機関のみに限らず、様々な関係機関とのネットワーク構築を図る。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉中央警察署生活安全課と連携して、108地区民生・児童委員に詐欺対策講座を開催した。(7月)</li> <li>・106地区民生・児童委員に暮らしの巡回講座を開催して、消費者被害の予防、対策の周知活動を実施した。(9月)</li> <li>・2団体より依頼を受けて、各々認知症サポーター養成講座を開催した。(8月)</li> <li>・地域住民より依頼を受けて、認知症サポーター養成講座を主催した。(9月)</li> <li>・千葉市成年後見支援センターと連携して、圏域の居宅介護支援事業所に成年後見制度の講座を開催した。(7月)</li> <li>・千葉県ふれあいプラザと連携して、千葉市内の介護サービス事業所に高齢者虐待防止研修を開催した。(8月)</li> <li>・認知症初期集中支援チームと情報共有する事で、支援方法の検討や同行訪問など実際の支援に繋がった。(1名)</li> </ul>	
	後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終活問題の勉強会を法人職員に実施した。(2回)</li> <li>・認知症サポーターキッズ養成講座を圏域内の中学校で実施した。(12月)</li> <li>・区内あんしんケアセンター社会福祉士・高齢障害支援課・中央警察署生活安全課が協同で、市民向けの特殊詐欺防止の講座を開催した。(2月)</li> <li>・認知症初期集中支援チームチーム員会議に参加した。(毎月)</li> <li>・千葉市成年後見支援センターと連携して、成年後見制度の利用に繋がることができた方がいる。(1名)</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	具体的な取り組みにあげていた市民向けの詐欺対策講座や認知症サポーターキッズ養成講座を計画通り開催できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や関係機関に、防犯や消費者被害等の普及啓発や周知活動を継続的に実施する。</li> <li>・高齢者虐待や消費者被害などの早期発見・課題解決に努める。</li> </ul>		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーから相談を受けて、支援困難ケースの対応や同行訪問を実施した。(10件)</li> <li>・個別ケースの地域ケア会議を開催して、ケアマネジャーの後方支援を実施した。(2件)</li> <li>・圏域の居宅介護支援事業所と協力して事例検討会を開催した。(6月)</li> <li>・あんしんケアセンター浜野と協同して、カスタマーハラスメントをテーマにした多職種連携会議を開催した。(8月)</li> <li>・中央区障害者基幹相談支援センター、障害サービス事業所と災害対策会議に参加した。(4月・5月・8月)</li> <li>・孤立死ケースを振り返り、担当者でデスクカンファレンスを開催した。(1件)</li> <li>・重点地域における介護・医療、学校、金融機関、飲食店など多職種のネットワーク構築を図るため、事業所訪問を実施した。(適宜)</li> <li>・地域密着型サービスの運営推進会議に参加した。(6月・9月)</li> </ul>		
		後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援困難ケースの相談や同行訪問、地域ケア会議の開催など、ケアマネジャーの後方支援を実施した。(合計10件)</li> <li>・圏域の居宅介護支援事業所と事例検討会を開催した。(10月)</li> <li>・千葉市薬剤師会と災害対策をテーマにした地域ケア会議を開催した。(1月)</li> <li>・居宅ケアマネジャーとインフォーマルサービス事業所のネットワーク構築のため、合同勉強会の開催準備をしたが、日程調整が困難となり開催が出来なかった。</li> <li>・重点地域における介護・医療、学校、飲食店等とセンター移転に関する周知活動、ネットワーク構築を実施した。(10月～2月)</li> <li>・地域住民、地域団体、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所等のネットワーク構築を目的に福祉イベントを開催した。(11月)</li> <li>・地域密着型サービス事業所の運営推進会議に出席した。(合計4事業所)</li> </ul>
年度 総括	自己評価			B
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関および関係者とのネットワーク構築や連携、情報共有を継続する。</li> <li>・地域の情報収集や実態把握を継続する。</li> <li>・地域ケア会議等を活用して、地域課題や支援困難ケースの解決に向けて関係機関と取り組む。</li> </ul>		

6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登戸・祐光・道場北では体操教室支援を継続している。(月2回)</li> <li>・道場北体操教室にA V 機器導入、参加者が自主使用出来るよう操作方法など支援継続している。(7月～)</li> <li>・各体操教室で熱中症講話を開催した。(6月)</li> <li>・中央区健康課と協働して、体操教室でオーラルフレイル講話を開催した。(4月・5月・7月)</li> <li>・道場北体操教室や松波公民館で歩行力測定会を実施した。(4月・9月)</li> <li>・地域の自主活動に赴き、いきいき活動手帳を交付した。(合計52部)</li> <li>・生活支援コーディネーターと椿森ポッチャ立ち上げ支援を実施し(5月)、その後は継続支援を実施した。(8月)</li> <li>・基本チェックリストを302部交付実施した。(介護予防ケアマネジメント250部・各イベント52部)</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登戸・祐光・道場北の体操教室支援を継続した。(月2回)</li> <li>・中央区・松波・椿森の地域活動に赴き、活動把握・継続支援を実施した。(10月・12月・3月)</li> <li>・椿森お達者クラブ、祐光元気会、椿森3丁目・祐光のいきいきサロンでフレイル講話を実施した。(10月・11月・1月・2月)</li> <li>・介護・民間企業と協働し、道場北体操教室で歩行力測定会を、院祐いきいきサロンで体組成・骨密度測定を、ふれあい食事サービス(中央東地区部会)で栄養講座を実施した。(11月・2月・3月)</li> <li>・道場北でポッチャ体験会を実施した。(2月)</li> <li>・地域活動にて基本チェックリスト実施・いきいき活動手帳を交付した。(合計63部)</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 介護予防活動・自主活動の継続支援を図り、従来の活動を継続できた。地域のニーズに合わせて、健康講話、歩行測定会、グループワーク等を実施できた。歩行測定や基本チェックリストを実施し、状態把握や意欲向上を図った。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的な健康づくり・フレイル予防を目指し、健康教室、測定会等の実施する。</li> <li>・関係者と協力して、介護予防のためのイベントを企画し、普及啓発や地域の力の向上を目指す。</li> <li>・地域活動が展開・継続できるよう、新たな活動の発掘や担い手の育成・支援を行う。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター中央		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>中央圏域は東西に細長い圏域で、生活圏域の異なる地域が混在している。転入者が多く人口は年々増加している。海側の千葉みなと地区では、この10年ほどの間に大型マンションが多数建設され、子育て世代の流入が多く高齢化率が低い。地域課題として上がってくるものの多くは子供に関することが多く、高齢者を対象とした地域活動が少ない地域でもある。スーパーマーケットは多いが一か所に集中しており、病院や美容院等、生活に必要な商店が少ない。足腰が弱い買い物難民になる地域であるが、それを知らずに転入してくる高齢者も多い。</p> <p>千葉中央駅から西側の新宿地区では、地価高騰に伴い古いアパートやマンションが取り壊され、退去せざるを得ない高齢者が増えている。それとは逆に、新しくできたマンションへ転入してくる高齢者も多い。また、経済的に余裕のある高齢者が多く、高齢になった親の相談で訪問して、未就労ひきこもりの子世代を発見する8050問題の相談が増えてきている。</p> <p>千葉中央駅から東側のちば中央地区では官公庁や商業施設、住宅街が混在している。ホームレスや行旅病人、触法高齢者支援等の特殊なケースが多いが、古くからある住宅街では認知症や身寄りの無い高齢者の問題等、他地域と共通する課題を抱える世帯も多い。</p> <p>都地区では40年以上前に宅地造成された住宅街が多く、高齢者世帯や独居世帯が増えてきている。認知症が原因の徘徊や安否確認が必要なケースも増えてきており、年々相談件数が増えてきている。解決に向け地域住民の協力が必要なケースも多いため、地域住民の理解を得ていく必要がある。</p>		
活動方針 (総合)	<p>この圏域では地域によって抱える課題が大きく異なるため、関係機関と連携しながらそれぞれの地域特性やニーズに合った支援を展開していくことで、高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定を目指す。</p> <p>地域包括支援センターだけでは解決できない課題を抱えたケースを解決するために、さまざまな関係機関と連携して世帯全体の支援を行う。</p>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	C	<p>自己評価を選択した理由</p> <p>さまざまな相談が寄せられる中、センターだけでは解決が難しいケースについても、地域ケア会議等を活用し、関係機関と連携して支援できるようになってきた。予定通りに開催できなかった出張相談会もあるが、打ち合わせをする中で、圏域が狭いので出張相談のニーズが無いこともわかった。それぞれの事業を展開しながら地域状況を把握し、適切な対応ができた。</p>
	次年度に向けた展望	<p>①この圏域では地域によって抱える課題が大きく異なるため、引き続き地域特性やニーズに合った支援を展開していく。</p> <p>②地域住民による介護予防活動が継続されるよう、各団体の状況に合った活動内容を提案していく。</p> <p>③ヤングケアラーや8050世帯等、地域包括支援センターだけでは解決できない課題を抱えた相談が増えているため、他分野の関係機関とのネットワークを構築することで、連携しながら対応できる体制を整える。</p>	
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターから入手した情報をもとに、地域のカフェやサークル等を訪問し、実情を把握した。</li> <li>・第1号介護予防支援事業対象者に、地域のサークル等を案内し、通所介護相当サービス以外の通いの場にも通えるよう支援した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に引き続き生活支援コーディネーターと地域のカフェやサークル等を訪問し実情を把握をしたが、インフォーマルサービスについて情報更新を行い整理することはできなかった。</li> <li>・第1号介護予防支援事業者のケアマネジャーに対し地域のサークルを便りで紹介した。また地域のサークル等について問い合わせがあった際には紹介した。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	D	自己評価を 選択した理 由	生活支援コーディネーターと地域のサークル等を訪問し、実情把握することができた。また第1号介護予防支援事業者のケアマネジャーに対して、インフォーマルサービスの活用を働きかけて行くことはできたが、情報整理をすることはできなかった。
	次年度に向けた展望	<p>①個々のニーズに合わせた住民主体の通いの場・交流の場、その他インフォーマルサービス等の利用を推進するために、介護支援専門員が作成したケアプランにインフォーマルサービスが位置づけられているか確認する。</p> <p>②生活支援コーディネーターと連携しインフォーマルサービス等の情報を整理し、社会資源情報としてまとめる。</p> <p>③介護予防に関する相談があった際には、介護保険や総合事業サービスの提案のみに留まらず、地域のインフォーマルサービスの利用も提案する。</p>		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取 り組み状況	<p>・都町地区の出張相談会開催にあたり、関係機関へ周知するため、地域の関係者と会議を複数回行った。</p> <p>・10/16都町地区出張相談会、ミニ講演会を開催した。開催にあたり、中央区障害者基幹相談支援センターと生活自立仕事相談センター中央にも協力してもらい、3 機関合同で開催した。</p> <p>・地域の相談状況を共有するため、民生委員等と地域ケア会議を開催した。</p>		
後期	具体的な取 り組み状況	<p>・複合的な課題を抱えた世帯の支援について個別ケースの地域ケア会議を開催し、関係機関と連携して支援した。</p> <p>・後期に計画していた広報誌の作成・回覧の実施が出来なかった。</p> <p>・都町地区での出張相談会は10月開催のみとなったが、障害や生活困窮分野の相談機関と合同開催できた。</p> <p>・2月に区内のあんしんケアセンターが共同で開催した市民向け講座で、あんしんケアセンターについて周知活動ができた。</p>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	ごみ屋敷、8050世帯やヤングケアラーなどの支援困難事例について、関係機関や民生委員等と地域ケア会議を開催し、その後の支援につながるネットワークを構築することができた。広報誌の回覧による周知活動は出来なかったが、計画になかった区内あんしんケアセンターが共同で実施した市民向け講座で、周知活動が出来た。
	次年度に向けた展望	<p>① 民児協定例会や社協地区部会等の会議に参加し、センター機能の周知や地域課題の共有を行う。</p> <p>② センター内ケース会議で総合相談事例の進捗状況を確認するとともに困難事例などの支援方法を協議し包括3職種で連携し問題解決を図る。センター内だけで解決が難しい場合は、地域のネットワーク等を活用する等、個々の状況に応じて関係機関と連携する。</p> <p>③センター内会議で地域診断を実施し定期的に社会資源情報を見直す。</p>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取 り組み状況	<p>・虐待ケースが発生した際に、区高齢障害支援課と連携し、役割分担しながら通報受理から処遇の決定までスムーズに対応することができた。</p> <p>・虐待とは言えないケースにおいても定期的に状況確認し、関係機関と連携しながら支援を行うことができた。</p> <p>・地域の老人会を訪問し、消費者被害のミニ講座を行った。</p>		
後期	具体的な取 り組み状況	<p>・11月に、圏域内の介護支援専門員を対象に高齢者虐待防止研修を実施した。</p> <p>・1月の民児協定例会に参加し、高齢者の特殊詐欺防止についての講話を実施した。</p> <p>・2月に区内あんしんケアセンターが共同で、中央警察署に講師を依頼し、特殊詐欺被害防止に関する市民向け講座を開催した。</p> <p>・虐待事案が発生した際に、事実確認から解決まで、高齢障害支援課と連携して適切に対応することができた。</p>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	おおむね計画通りに実施することができた。出張相談会は年1回しか開催できなかったが、民児協定例会や社協地区部会定例会等の機会を活用し、高齢者虐待防止や成年後見制度のパンフレットを配布し、啓発活動も行うことができた。虐待対応については、高齢障害支援課と連携し適切な対応ができた。
	次年度に向けた展望	<p>① 圏域内の介護支援専門員を対象に権利擁護についての研修会を開催する。(年1回)</p> <p>② 中央区のあんしんケアセンター5センターが協力し、権利擁護についての市民向け講座を開催する。(年1回)</p> <p>③虐待が疑われるケースでは高齢障害支援課と連携しながら、高齢者本人と養護者への支援を包括3職種で連携して行う。</p>		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の多職種連携会議を開催するのにあたり、主任介護支援専門員と協力して開催することができた。</li> <li>・介護支援専門員向け研修会を開催し、他分野連携について学ぶ機会を作ることができた。</li> <li>・関係機関と連携し8050支援の講演会を開催した。</li> <li>・基幹相談支援センターや生活自立仕事相談センターと連携して地域で講演会を開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度前半に行った研修会や主任介護支援専門員との会議の中から、障害福祉サービスと併用するケースを担当している介護支援専門員がいること、担当してはいないが併用する際の手続きについて詳しく知りたいと考えている人がいることがわかったため、障害福祉サービスとの併用について圏域内の介護支援専門員研修会を開催した。</li> <li>・地域ケア会議や民児協定例会を活用し、当センターが把握した地域課題について検討することができた。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	圏域内の主任介護支援専門員と一緒に、圏域内研修の計画や多職種連携会議の準備を行うことができた。事例研究では、8050や精神疾患等の他分野の機関と連携する必要があるケースが増えてきていることがわかり、その後の研修会に繋げることができた。民児協定例会で課題を共有したことがきっかけで地域ケア会議開催に繋がった。概ね計画通りに実施できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的な課題があり世帯全体の支援が必要なケースが増えてきていることから、高齢福祉分野に限らずさまざまな関係機関と連携がスムーズになるよう、会議やイベントを通じてネットワークを構築する。</li> <li>・介護支援専門員が抱える困難ケースの中にも、複合的な課題を抱える世帯が増えていることから、研修会の開催や後方支援を行い、介護支援専門員の資質向上を目指す。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の介護予防サークルへ訪問し、熱中症予防や食中毒について等、季節に応じてミニ講座を開催し、健康づくりや介護予防に関心を持ってもらえるよう働きかけた。</li> <li>・地域の町会長や民生委員と協力し、高齢者向けの茶話会サークルの活動支援を行い、定期的な開催に結び付けた。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の文化祭の際には、健康相談ブースを設置し、基本チェックリストの実施、握力や体組成計を使い筋力などの測定を実施した。また介護予防のパンフレットなども用いて、介護予防に関する啓発普及活動を行うことができた。</li> <li>・公民館と共催でイベントを実施し、地域のリハ職等と連携し地域住民向けの介護予防講座を実施することができた。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	今年度の目標や取り組み計画は計画通り実施することができた。 新規で立ち上げを行った茶話会や地域のサークルが定期的に開催できている。
	次年度に向けた展望	<ol style="list-style-type: none"> <li>①センター主催で地域住民向けのウォーキングの会や体操教室等を開催する。</li> <li>②公民館の文化祭で健康相談ブースを開設し、介護予防の普及啓発を行う。</li> <li>③生活支援コーディネーター等の関係機関と連携し、地域活動組織の支援を行う。</li> <li>④少人数の介護予防サークルに対して、活動が継続できるような取り組みを提案していく。</li> </ol>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター千葉寺		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>圏域北部には、千葉県庁をはじめとする行政機関が複数所在し、圏域の中心部には県内の急性期医療の要となっている医療機関や地域住民の社会教育の推進や福祉行政の拠点、憩いの場として公民館やハーモニープラザ、県立公園等がある。</p> <p>鉄道や路線バスが複数路線圏域内を通過しておりアクセスが良いため、閑静な住宅街が多い。また、漁師町の名残のある地区や寺社における伝統行事を通じて住民同士が繋がっている地区もある。また、大きな公営団地や集合住宅が点在していることや一部地域では区画整理が進んでいることもあり、若い世代や地域外からの移住者も増えている。</p> <p>一方で、高齢者のみで構成されている世帯が増えていることもあり、住宅地から主要な交通機関までの距離があること、坂道が多いことから、移動手段の確保が難しい場合、外出に不便が生じてしまう状況がある。移動販売も普及し始めているが、道幅の狭さや駐車スペースの問題等がある。</p> <p>総合相談対応や地域活動への支援を通して、複合的な課題を抱える世帯や身寄りがなく地域から孤立している人々の存在が浮き彫りになっている。また、地域活動の担い手不足の背景には、世代間交流の減少、単身世帯の増加があると考える。</p>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の介護予防についての意識を高め、主体的に健康づくりや介護予防に取り組めるよう働きかけていく。</li> <li>・地域住民や関係機関と連携し、地域住民同士の支え合いの輪が広がるよう働きかけていく。</li> <li>・課題が複合化・複雑化する前に解決に至れるよう、センターの機能の周知を積極的に行い、各相談機関と連携を深め、地域の様々な方々が相談しやすいセンター運営を目指す。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談が増え、社会資源の不足等がある中で、ケース課題の早期解決を目指し、多機関と連携しながら対応することができた。</li> <li>・地域活動の支援やセンター主催のイベントの再開、支援者向けの研修会の開催を通して、地域住民や関係機関にセンターの機能を周知することができた。</li> </ul>	
2 第1号介護予防支援事業			
年度 総 括	前期 具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な社会資源の情報収集、各種地域活動の継続支援、個別ケース支援等を生活支援コーディネーターと連携して行った。</li> <li>・適切に介護保険制度や介護予防・日常生活支援総合事業等を利用できるように、ケアマネジャーや行政機関等と連携しながら、対応した。</li> </ul>	
	後期 具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自センター（委託含む）で担当しているケースの分析については、総合相談業務等の対応の比重が大きく、実施に至らなかったため、センター内で個別ケースやセルフケアプランについての意見交換を行った。</li> <li>・ケアマネジャー向けの研修会を生活支援コーディネーターと企画し、インフォーマルサービスや地域の通いの場の活用について周知を行った。</li> </ul>	
年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーに対して、生活支援コーディネーターと連携し、社会資源の活用について情報発信を行ったことで、利用者と社会資源を繋ぐための支援や地域活動の紹介等に繋がった。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、ケアマネジャーや民生委員等にインフォーマルサービスや総合事業の活用について情報を発信していく。</li> <li>・地域に向けて、介護保険制度の現状について周知し、適切な介護保険制度利用を促していく。</li> </ul>	

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップの相談機関として、相談を受け止め、相談者に対し、介護保険サービスだけでなく、地域資源やインフォーマルサービス、保健福祉サービスの利用を検討し、多様なサービスを利用できるように働きかけた。</li> <li>・センター内でケース会議の定期開催と支援終了者の確認を行い、支援の優先度を確認した。</li> <li>・掲示板の活用、地域住民主催の会議等であんしんケアセンターの業務の紹介を行い、センターの活動周知を図った。</li> <li>・支援を行う中で、ハラスメントの課題を抱えているケースがあり、調整等を実施した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関に対して、センターの業務や役割についての周知を行った。</li> <li>・他機関と協働してケースの早期解決に向けた支援を行なった。</li> <li>・ハラスメントに関する研修等に積極的に参加し、ハラスメント対応についての理解を深めた。</li> <li>・掲示板や回覧板、生活支援コーディネーターとの連携を通して、地域に向けてあんしんケアセンターの周知を行った。</li> </ul>		
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なケースの早期解決を目指し、他機関と協働する中で、ワンストップの相談機関の機能維持を図ることができた。</li> <li>・他機関との協働や地域への周知活動を通して、センターの業務や役割についてさらなる周知の必要性を把握することに繋がった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	支援が必要な方に支援を届けるためにも、センターの業務や役割の周知を積極的に行い、早期解決を目指し、他機関と協働し、ワンストップの相談機関の機能維持を目指す。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の虐待相談や支援が長期化するケースが増えている。高齢障害支援課と連携を図りながら、ケース会議を随時開催し支援の方向性を相談しながら早期解決を目指した。</li> <li>・消費者被害防止に向けて、千葉中央警察署生活安全課や移動交番と圏域で起きている被害の実情と対応策について意見交換を行った。民生委員の定例会や公民館祭り、地域サロンにて注意喚起し、防止グッズなどを配布した。</li> <li>・金銭管理が不安な方や判断能力が低下されている方に対し、成年後見制度などの利用につながるよう支援した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに向けて、高齢者虐待防止についての研修会を開催した。</li> <li>・区内のあんしんケアセンターの社会福祉士と高齢障害支援課が協働で、特殊詐欺防止の講演会を開催した。</li> <li>・中学生や市民・企業を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、214名のサポーターを養成した。</li> <li>・高齢者虐待対応や成年後見制度の申立支援は、関係機関と連携しながら対応を行った。</li> </ul>		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止の研修においては、生活支援コーディネーターと連携して開催したことで、地域ぐるみでの虐待防止の必要性について、ケアマネジャーに理解いただくことができた。</li> <li>・消費者被害防止について、民生委員や市民等に積極的に周知することで、相談窓口の周知に繋げることができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	各関係機関と連携し、高齢者の尊厳ある生活の維持を妨げる各種課題（高齢者虐待、消費者被害、認知症に関する問題、身寄り問題等）の解決を目指す。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災をテーマとした多職種連携会議を開催し、圏域全体での会議に繋げるために多機関と防災の取り組みについて意見交換を行った。</li> <li>・複合的な課題を抱えるケースの地域ケア会議や事例検討会等を開催し、関係機関との連携の構築に努めた。</li> <li>・分野横断的な課題に対応できるセンター運営を目指し、多機関との各種会議への出席をした。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区障害者基幹相談支援センターと地域に暮らす医療的ケアが必要な方の避難行動についての意見交換を行った。</li> <li>・区内あんしんケアセンターと連携しケアマネジャー向けの研修会の企画・運営を行い、年間で3回開催した。</li> <li>・圏域内のケアマネジャーとの事例検討会や研修を計3回開催し、51名の参加があった。</li> <li>・個別ケースや防災をテーマにした地域ケア会議を開催し、民生委員や地域運営委員会等と意見交換を行った。</li> </ul>		

年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談対応等のため、防災対策についての企画運営については、中央区基幹相談支援センターや一部地域との意見交換にとどまった。</li> <li>・ケアマネジメント力の向上のため、個別ケースの支援や事例検討会、研修会の開催を通して、ケアマネジャーの後方支援を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	高齢者やその家族が、複合的な課題を抱えても、住み慣れた地域で生活が継続できるよう、ケアマネジャーや地域活動団体からの相談には積極的に対応し、圏域内の多機関ネットワークの維持または構築を目指す。		
6 一般介護予防事業				
前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課や他センターと定期的な会議を行い、介護予防の取り組みや他機関との連携について情報交換を行った。</li> <li>・圏域の医療機関と連携して、ウォーキングイベントを開催したり、健康課や生活支援コーディネーターと連携して、地域のサロンや老人会、サークル活動の継続支援及び活動再開支援を行った。</li> <li>・公民館まつりで、企業と連携して、骨密度測定や健康相談会を行った。</li> <li>・あんしんケアセンターだよりや地域のサロンの講話等で健康や介護予防、生活に関する情報の周知を行った。</li> </ul>		
後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーター、中央いきいきプラザと連携し、ウォーキング&amp;体力測定会を開催し、13名参加した。</li> <li>・既存の地域のサークル活動継続のために社会資源を繋げたり、意見交換会に参加したりし、地域の介護予防活動の実態把握や継続支援を行った。</li> <li>・基本チェックリストやいきいき活動手帳の総合相談や地域活動での活用方法について検討を行った。</li> </ul>		
年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや意見交換会を通して、圏域内の介護予防の取り組み状況や健康に対する意識を把握することができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	健康課や生活支援コーディネーターと連携し、健康意識の向上や健康寿命の延伸、介護予防活動等の取り組みに、地域住民が自ら参加できるよう働きかけていく。		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター松ケ丘		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【地区概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当圏域の高齢者人口は16,124人（R4.6.30現在）と他圏域と比べ最も多い。</li> <li>・駅前などの生活に便利な地域、バス以外に移動手段がない地域、またバス停までも遠くタクシーなどを利用しなければいけない地域がある。</li> <li>・地域によっては、高齢化率が40パーセントを超えるところもあり、地域によつての差が大きい。</li> <li>・地域活動は再開されるところが増えており、地域のニーズに応じて立ち上げ支援や継続支援を行っている。</li> </ul> <p>【地区課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単身世帯、高齢者世帯も多く、そのためあんしんケアセンターに相談が寄せられた時には問題が複雑化・深刻化しているケースも多い。</li> <li>・家族全体が多くの問題を抱えており、高齢者だけでなく家族全体への支援が必要で、あんしんケアセンター以外の多機関と共同して支援にあたらなければいけないケースも増えている。</li> </ul>		
活動方針 （総合）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係機関との連携を深め、多問題を抱える家族や、複雑化・深刻化するケースにも対応可能な環境を整える。</li> <li>・積極的に地域に出向き、ケースが複雑化・深刻化する前に相談に結びつくよう、あんしんケアセンターの周知を図っていく。高齢者以外の若い世代への周知も行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域のニーズに合った介護予防活動を展開する。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	<p>自己評価を選じた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蘇我、白旗、仁戸名町で定期的に地域ケア会議を開催したことで、地域の課題把握ができ、測定会等の実施につながった。</li> <li>・スーパーに、ポスターを貼りチラシを配架したことで、測定会の参加者増に繋がった。</li> <li>・ヤングケアラーに関する周知を学校関係者に行う中であんしんケアセンターの周知を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行にしたため、積極的に地域に出向き、通いの場へ支援や消費者被害に関する周知等を行った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に地域に出向き、様々な方法で、幅広い年代に向けて、あんしんケアセンターの周知を行い、早い段階で支援機関につながることを目指す。</li> <li>・地域ケア会議や個別ケース会議を開催し、多機関多職種との連携強化を図る。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域のニーズに応じた地域活動・介護予防活動の立ち上げや運営支援を継続する。</li> </ul>	
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本チェックリストを通し、利用者自身が心身や生活機能の状態を把握できるよう支援を行った。</li> <li>・介護保険サービスの紹介と併せて、地域のインフォーマルサービスの情報提供を行った。</li> <li>・委託先居宅介護支援事業所が適切なケアマネジメントを行えるよう、情報提供や助言、提出書類の適切な管理を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、基本チェックリストを通し、利用者自身が心身や生活機能の状態を把握できるよう支援を行った。</li> <li>・介護保険サービスの紹介と併せて、生活支援コーディネーターと連携し、地域のインフォーマルサービスの情報提供も引き続き行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症5類移行後の変更事項（担当者会議の照会等）を把握していないケースがあり、介護支援専門員に説明を行った。</li> <li>・委託先居宅介護支援事業所に適切なタイミングで書類提出などを促し、不足する書類がないよう管理を行った。また、介護認定が遅れた場合などの相談に対して、情報提供や助言を行い、柔軟に対応した。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者へ地域のインフォーマルサービスも含めた介護サービスの提案を実施した。また、委託先居宅介護支援事業所へ必要書類の提出を促し、書類管理を実施した。</li> <li>・介護保険の認定が遅れる事が多く見られていたが、委託先居宅介護支援事業所と連携し利用者が不利益を被らず担当介護支援専門員の負担が最小限になるよう対応を行なった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬改定内容の最新情報を把握し、必要事項は委託先居宅介護支援事業所に情報提供を行う。</li> <li>・基本チェックリストを活用した取組みや生活支援コーディネーターと連携したインフォーマルサービスの情報提供を継続する。</li> <li>・要支援者の委託先居宅介護支援事業所が見つからない問題や認定の遅れなどについては、利用者が不利益を被らず、担当介護支援専門員の負担が増えないように柔軟に対応する。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知活動として近隣スーパーでリーフレットの配布や設置を行った。</li> <li>・蘇我コミュニティーセンターで出張相談会を継続して行った。</li> <li>・毎朝のミーティングや月1回の総合相談ミーティングを実施した。困難ケースに関しては地域ケア会議を5回、個別ケース会議を9回開催して情報共有や対応方法の検討を行った。</li> <li>・民生委員児童委員協議会、松ヶ丘・川戸・星久喜地区の敬老会にて、あんしん便りを配布し、あんしんケアセンターの周知を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張相談会を4回開催、近隣スーパー等でポスターの掲示やパンフレットの配布を行い地域住民への周知を図った。</li> <li>・総合相談の事例に対して、朝礼や総合相談ミーティング（月1回開催）で包括3職種が情報共有・支援方法の検討を行い、終結に向けて支援を行った。</li> <li>・複合的な課題を抱える困難ケースに対して、地域ケア会議を8回 個別ケース会議を10回開催し、各関係機関と協働して課題解決に取り組んだ。特に法律的な課題を抱える方に対して、法テラスや弁護士などの専門職との連携を図ることができた。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張相談会の開催、ポスターの掲示、パンフレットの配布などの方法を用いてあんしんケアセンターの周知を図った。</li> <li>・包括3職種が情報共有を行いケースの支援を進めた。</li> <li>・困難ケースの課題解決のために、関係機関と連携し、積極的に地域ケア会議等を開催することができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者だけでなく、介護をする側などの幅広い年代の方に対してあんしんケアセンターの周知を図る。</li> <li>・総合相談の事例は、終結に向けて包括3職種が進捗を確認しながら支援を行う。</li> <li>・困難ケースや地域での課題が見えた際には、積極的に個別ケース会議や地域ケア会議を開催して、各機関と連携し解決に取り組む。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣スーパーや介護予防教室にて、詐欺被害防止のためのパンフレットやリーフレットを配布して啓発活動を行った。</li> <li>・千葉中央警察署と共同して詐欺被害、交通安全のミニ講座を行った。</li> <li>・成年後見制度の活用が必要な方へ、成年後見支援センターと訪問し利用を勧めた。</li> <li>・虐待が疑われるケースに対し、高齢障害支援課と相談しながら介護支援専門員とともにケース対応や支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の早期発見・予防のため、介護支援専門員・サービス事業者に向けて研修を開催した。</li> <li>・シニアリーダー体操教室に出向き、13教室141人に詐欺被害の注意喚起を行った。</li> <li>・老人クラブでエンディング講座を開催した。</li> <li>・区内あんしんケアセンターの社会福祉士が協働して、特殊詐欺防止の市民向け講座を開催した。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を3回(142名参加)、認知症キッズサポーター養成講座を4回(392名参加)を開催した。また、認知症関連のイベントに参加をして、認知症の理解促進に取り組んだ。</li> <li>・圏域内施設の介護支援専門員向けに、成年後見制度についての基礎講座を開催した。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待が疑われるケースに対して、関係機関や高齢障害支援課と連携して対応を行った。</li> <li>・市民講座の開催やシニアリーダー体操教室で消費者被害の注意喚起、啓発活動を行った。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の開催や、RUN伴に参加をした。</li> <li>・成年後見制度・高齢者虐待防止について介護事業者向けの研修会を開催した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の早期発見と予防のための研修会の開催、虐待が疑われるケースでは関係機関や高齢障害支援課と連携して対応にあたる。</li> <li>・生活支援コーディネーターと共同し、地域の集まりの場等に出向き、消費者被害の周知活動に継続して取り組む。</li> <li>・地域住民、圏域内の介護事業所向けに、分かりやすく親しみやすい成年後見制度に関する講座を開催する。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の開催や、認知症関連イベントに参加をして理解促進、啓発活動に取り組む。</li> </ul>
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンター浜野と合同で、両圏域内居宅介護支援事業所向け研修会を1回（ケアマネジメントに役立つ、薬剤師との連携について）を実施し、修了証を発行した。</li> <li>・中央区あんしんケアセンター5センターで、新人ケアマネ研修を開催した。予防プラン作成時の注意点・ポイントなどが周知できた。</li> <li>・コロナで中断していた居宅介護支援事業所個別訪問を再開した。事業所の状況や課題の把握、今後開催予定の圏域内研修に向けてアンケートを実施した。</li> <li>・介護支援専門員からの支援困難ケース等の相談対応を行った。</li> </ul>
後期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内多職種連携会議（複雑な背景や多様な問題を抱えるケースの対応について：参加者69名）を開催し、身寄りのない方への支援について参加者と一緒に検討することができた。</li> <li>・中央区多職種連携会議（消防の現状と平時の連携について）を開催した。今まで取り上げていなかった適正な救急車の利用について支援者側が学び、利用者への対応を考えたり、消防との連携のきっかけとなった。</li> <li>・特定事業所加算を算定している圏域内居宅介護支援事業所の主催する事例検討会（参加者29名）の後方支援を行った。</li> <li>・介護支援専門員からの相談に対しては、情報提供や助言、同行訪問、地域ケア会議での検討等を行った。</li> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所13箇所を訪問し、課題等の聞き取り調査を行った。</li> <li>・8050部会や中央区相談支援機関連携会議など、多世代が抱える問題に対し、多機関で検討する会議に参加した。</li> </ul>
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた研修会や事例検討を計画通り実施することができた。</li> <li>・圏域内の多職種連携会議をオンラインから対面に切り替え実施したことで、参加者も多く、顔の見える関係づくりに役立った。</li> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所に聞き取り調査を行ったことで、インフォーマルサービスの利用について課題があることがわかった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内居宅介護支援事業所の個別訪問において、それぞれの事業所が抱える課題等を把握する。</li> <li>・介護支援専門員の相談に応じ、支援していく。相談内容に応じて、地域ケア会議の開催を促す。</li> <li>・研修会（修了書発行・中央区開催含む）、事例検討会、多職種連携会議を開催する。オンラインで開催していたものを対面で行い、参加者が顔を合わせる機会を持ち意見交換等を行えるようにする。</li> </ul>

6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南町、白旗、星久喜町、仁戸名町の自治会、松ヶ丘地区、星久喜地区、蘇我地区の社協、中央いきいきプラザ、淑徳大学看護栄養学部、近隣の診療所や薬局と連携し、認知症予防やフレイル予防に資する講座を開催した。（計22回）</li> <li>・市営仁戸名町団地、星久喜町南部町内会にて、中央いきいきプラザと連携し体力測定会を実施した。</li> <li>・マミーマーケット仁戸名店前、スーパーベルクス仁戸名店内で介護予防普及啓発（チラシの配布・相談等）を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、大蔵寺、エステスクエア青葉の森ポートハウスでシニアリーダー体操を立ち上げた。</li> <li>・蘇我中、星久喜中の教職員にあんしんケアセンターがヤングケアラーの相談機関の一つであることを、職員会議への出席やパンフレットの配布を通じて周知した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁戸名町自治会、各民生委員児童委員協議会、社協地区部会、淑徳大学看護栄養学部、中央いきいきプラザ等と連携し、介護予防・フレイル予防に資する講座を開催した。</li> <li>・市営仁戸名町団地、川戸地区部会で、中央いきいきプラザと連携し体力測定会を実施した。松ヶ丘地区部会が開催した電動車いす試乗会で、千葉中央警察署と連携し測定会・相談会を実施した。蘇我コミュニティセンターで蘇我地区部会・福祉用具事業所と連携し歩行測定会を実施し、70名の方の測定を行った。</li> <li>・リハ・パートナーに依頼し、通いの場でフレイル予防講座を2回開催した。</li> <li>・マミーマーケット仁戸名店、ベルクス仁戸名店において、介護予防普及啓発のためのパンフレットを配布した。</li> <li>・通いの場で基本チェックリストを実施し、いきいき活動手帳を活用したセルフケアの充実のための具体的な方法を伝えた。</li> <li>・松ヶ丘中学校、川戸中学校で、ヤングケアラーの家庭支援におけるあんしんケアセンターの役割について、学校関係者に周知した。</li> <li>・川戸町で、生活支援コーディネーターと連携し、シニアリーダー体操の新規立ち上げ支援を行った。また、白旗町内会ではデモ開催を行った。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区部会、町内自治会、各関係機関と連携し、フレイル予防等の介護予防普及啓発を行った。相談会やパンフレット配布等を行うことで、広い世代を対象に周知できた。</li> <li>・定期的な基本チェックリストの実施により、高齢者自らセルフケアできるように支援することができた。</li> <li>・ヤングケアラーの問題をセンター内で取り上げたことで、意識的に圏域内中学校に関わることができ、あんしんケアセンターが支援する際の連携機関の一つであることを周知することができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内自治会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会（地区部会）、リハ・パートナー、医師会等と連携し、フレイル予防に関する介護予防普及啓発、災害や心の悩みに関する情報発信を行う。</li> <li>・ヤングケアラー、ビジネスケアラーの視点を持ちながら現状や課題を把握し、各支援機関と連携しながら高齢者支援にあたる。</li> <li>・通いの場において基本チェックリストの実施、いきいき活動手帳を活用したセルフケアの具体的な方法を伝える。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、通いの場の立ち上げや自主化に向けて継続的な運営支援を行う。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター浜野			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>（地区概況）区内他のあんしんケアセンターと比べ、高齢者人口は少なく、高齢化率は一番高いが、介護保険認定率は低いのが特徴である。緑区隣接の山側は農業が主産業だった地域のため、介護は家族が担うものという考えが根強い。市原市隣接の海側は、農業だけでなく漁業関連に従事していた高齢者も多い。また、鉄鋼関係への出稼ぎ労働者が高齢となって独居となることが増えている一方で、浜野駅近隣では昭和40～50年代に開発された新興住宅地も多く、高齢化が深刻化している。マンション等の建設により人口は増加しているが自治会加入率は低下している。</p> <p>（地区課題）内科・整形外科疾患等で入院できる病院がなく、医療機関の数も少ない。銀行や大型スーパーも浜野駅近隣にしかなく、バスの本数も減便されている状況で、車を運転しなくなった高齢者には日常生活を継続するための課題も多くなっている。民生委員や社協地区部会等の地域活動を担う人材の高齢化も進み、担い手不足も課題となっている。コロナ禍で休止されていた民生委員による高齢者実態調査が再開されたり、社協地区部会のいきいきサロンが試験的に再開されたりと、少しずつ地域活動が動きだしたが、元通りになるまではもう少し時間がかかる。昨年度はセンター開所後、最大の相談件数となっており、コロナ感染予防による外出自粛等の影響があると考え。</p>			
活動方針 （総合）	<p>高齢者が周囲の支援を受けながらも、住み慣れた地域でできる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を深化するために、生活支援コーディネーターや関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。また、地域共生社会の足がかりになるよう、高齢者以外の方にもセンターの周知活動を行い、地域活動にも積極的に参加する。</p>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再開された地域活動に積極的に参加し、地域との顔の見える関係性を再構築できた。</li> <li>・SDGsイベントの継続開催を通じ、若い世代の方への周知活動を実施することができた。</li> <li>・全世代に共通する「貧困」という地域課題に多職種協働で取り組むことができた。</li> <li>・「生浜地区緊急捜索ネットワーク」を活用し、徘徊者を発見することができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談が増える中、千葉市における「2025年問題として介護人材が4000人不足する。」という課題の弊害が既に始まっており、介護予防サービスを利用できない高齢者が増えている。住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、おたがいきまの気持ちで住民同士が支えられる地域づくりを関係機関と連携して検討し推進していく。</li> <li>・様々な相談や状況に対応できるように、職員の資質向上に努め、チームケアを実践する。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前 期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターに同行し、老人会等の活動状況について情報収集を実施した。</li> <li>・センター作成のケアプランには、インフォーマルサービスを積極的に位置づけている。</li> <li>・相談で来所された比較的元気な方には、会議室開催の体操教室や歩こう会を積極的に案内している。</li> <li>・居宅介護支援事業所へ委託している利用者の書類を管理し、不足についてはすぐに連絡調整を実施した。</li> </ul>		
後 期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域居宅介護支援事業所への個別訪問でインフォーマルサービスの利用状況を聞き取り、どのようにケアプランに位置付けするか助言を行った。聞き取りの中で、ゴミ出しが課題でインフォーマルサービスを切望する声を多く確認した。また、生活支援コーディネーターが作成している「生浜地区社会資源ガイドブック」を更新し、圏域事業所へ提供した。</li> <li>・ケアマネジャー不足でサービス利用を待機している方に、積極的に地域の体操教室等を案内し、参加を促している。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業所が作成するケアプランにインフォーマルサービスの位置づけが少ないことを確認することができた。理由として、必要とされているゴミ捨て等のサービスの不足が課題であることが明確になった。地域活動を掲載した「生浜地区社会資源ガイドブック」を更新し配布できた。</li> <li>・ケアマネジャー不足で介護保険サービスを利用できない方には、地域活動を提案できた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー不足が深刻で、必要なサービスを受けることができなくなっている。介護保険サービスに頼らず、地域のインフォーマルサービス等で解決が図れるよう住民主体の通いの場やインフォーマルサービスの情報収集に努め案内する。</li> <li>・町内自治会に対し、高齢者を取り巻く環境等について説明し、地域でできる活動等の提案を行う。</li> <li>・介護予防・日常生活支援総合事業の利用者にもインフォーマルサービスを提案する。</li> <li>・委託に出している支援者の書類管理を適切に行う。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
年度 総括	前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2カ月に1回広報紙を発行し、あんしんケアセンターの活動内容等の周知活動を行った。</li> <li>・総合相談事例の進捗をセンター内で共有・検討し、終結を意識して進めた。ケース内容に応じ、高齢障害支援課や中央区障害者基幹相談支援センター、法テラス等の関係機関と連携を図った。</li> <li>・民生委員向けに「あんしんケアセンター活用術講座」を4月に開催し、7月に町別意見交換会を実施した。</li> </ul>	
	後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2カ月に1回の広報紙発行を継続し、あんしんケアセンターの周知活動を行った。</li> <li>・民生委員向けに「あんしんおしごと通信」を1月から毎月発行し、定例会にも参加してセンターの役割等を周知した。</li> <li>・総合相談事例の進捗は、会議や朝礼等で随時共有して、方向性を確認して進めた。</li> <li>・困難事例には高齢障害支援課と連携し、特養への措置入所と成年後見本人申立の支援を行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙の定期発行や地域に積極的に出向いた効果もあり、総合相談件数は昨年度を上回ってセンター開設以降一番となり、周知活動が進んだことを実感した。</li> <li>・困難事例の支援については、高齢障害支援課と連携して対応することが出来た。</li> <li>・成年後見制度が必要な方に対し、市長申立てだけでなく法テラスや司法書士とも連携出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談件数は毎年増加傾向にあるため、迅速に対応できるよう関係機関との連携強化を図っていく。</li> <li>・今年度は民生委員との連携強化を目標にあげており、定例会参加やおしごと通信を通じてセンターの役割や業務についての理解は進んだと思われるが、相談件数には反映されていない。支援を必要とする高齢者の早期発見のためには、民生委員との連携は不可欠であるため、民生委員町別意見交換会の開催を継続する。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/5、6に千葉銀行新入社員、6/7に地域住民、8/7に専門学校で認知症サポーター養成講座を開催した。</li> <li>・千葉市消費生活センターを訪問し最新情報を収集し、7/13に老人会で消費者被害防止の周知活動を行った。</li> <li>・6/4に「生浜地区緊急捜索ネットワーク」を活用した徘徊模擬訓練を実施した。9/21に生浜地区で発生した徘徊事故で生浜地区緊急捜索ネットワークを発動し、近隣の福祉事業所の協力を得て、早期発見することができた。</li> </ul>	
	後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11/17に生浜中学校で認知症キッズサポーター養成講座を開催し、先生と生徒199名が参加した。</li> <li>・11/29に新任民生委員に向け認知症サポーター養成講座を開催し、認知症と気づくためのポイントについて説明した。</li> <li>・12/5に、高齢障害支援課の協力を得て、圏域内福祉事業所に向けた高齢者虐待防止研修を開催した。</li> <li>・2/8に区内あんしんケアセンターと協働で特殊詐欺防止の講演会を開催し、聴覚障害者を含む38名の参加があった。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の協力を得て、消費者被害や特殊詐欺の講座を開催することができた。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症について普及啓発することができた。</li> <li>・「生浜地区緊急捜索ネットワーク」を活用し、行方不明になった認知症の方を早期発見することができた。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの一役を担うことができたと思う。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する相談が増えているため、認知症に関する普及啓発や認知症サポーター養成講座を積極的に行う。また、生浜地区緊急捜索ネットワークを活用した徘徊模擬訓練を実施する。</li> <li>・関係機関と連携して、消費者被害や成年後見制度等の権利擁護に関する普及啓発活動を行う。</li> <li>・虐待支援では高齢障害支援課と連携して対応する。早期発見のため事業所向けの研修を開催する。</li> </ul>		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に南部圏域ケアマネ研修、7月に新人ケアマネ向け研修とガイドブック更新、圏域内事例検討会を実施した。</li> <li>・6/30に自立促進ケア会議を開催し、多職種で地域課題の明確化を図った。8/28にあんしん弁天と協働で多職種連携会議を開催した。困難ケースに対しては、必要に応じて個別地域ケア会議を開催した。</li> <li>・7/15に地域運営委員会や他機関、民児協等の協力を得て「2023SDGs イベント」を生浜西小で開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10/17、1/11に圏域事例検討会、2/6、3/15に区内合同ケアマネ研修（修了証発行）を実施した。</li> <li>・自立促進ケア会議で明確化した課題に対し、周知活動を目的として、防災体力をテーマに介護予防教室を開催した。</li> <li>・フードドライブ活動と食糧支援の周知啓発を継続し、14件の食糧難（貧困）の相談に対応した。</li> <li>・圏域居宅介護支援事業所を個別訪問（訪問、オンライン）し、意見交換を実施して事業所の状況把握を行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りにケアマネ研修や事例検討会を実施しただけでなく、区内あんしんケアセンターと協働で新人ケアマネ研修と修了書発行の3時間研修を開催することができた。</li> <li>・SDGsイベントを地域の関係機関や他機関と協力して、継続開催することができた。</li> <li>・自立促進ケア会議で地域課題を明らかにし、頂いた助言をもとに介護予防教室を開催した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内居宅介護支援事業所、主任介護支援専門員と連携し、事例検討会や研修会を定期開催する。また、区内あんしんケアセンターと協働で研修会等を開催する。</li> <li>・支援困難ケースや地域課題解決のために、地域を支える支援者や関係機関と連携して地域ケア会議を開催する。</li> <li>・「貧困」という地域課題解決を目標としたSDGsイベントを、地域と他機関と連携して継続開催する。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンの全面再開に向け話し合いを重ね、コロナ以前よりもスタッフの負担を軽減する形で再開できた。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携して、村田町シニアリーダー体操の10月開講に向け支援している。</li> <li>・センター会議室でのいきいき100歳体操、生浜歩こう会は継続している。孤食予防、食育推進等SDGsの取り組みにあたり、地域高齢者の協力を得るなど新たな生きがいや活躍の場を持つことができた。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場が少ない地域でも、外出のきっかけとなり楽しく散歩が出来るピンゴラリーを作成し、1月より隔月で配布した。</li> <li>・自身の体力を把握し体力づくりが出来るよう「防災」をテーマに、介護予防教室を2箇所にて開催した。</li> <li>・10/31孤食予防を目的に「濱野食堂」を開催した。地域の方に野菜提供頂き、当日も参加頂いて交流の場となった。</li> <li>・認サポステップアップ講座修了者と検討を重ね、「カフェ濱野館」を1月に再開し、毎月第3金曜に定期開催している。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケアマネジメントの必要性を伝えるため、防災士や地域リハビリテーション事業の理学療法士と連携し、新たな介護予防教室を開催することができた。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携して、村田町シニアリーダー体操を開講することができた。また、いきいきサロンの後方支援やピンゴラリー等で活動のきっかけ作りを提案できた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンや出張講座の機会を活用し、介護保険の現状について周知して、介護申請を必要としない身体作りやセルフマネジメントを提案し、介護予防の推進を図っていく。そのために基本チェックリストやいきいき活動手帳を活用する。</li> <li>・通いの場が少ない地域でも積極的に介護予防に取り組めるように、歩こう会やピンゴラリー等の企画を継続する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、既存の住民主体の活動が継続できるように後方支援を行う。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンターこてはし台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>・花見川区の最北端で八千代市、佐倉市、四街道市、稲毛区と隣接し戸建住宅が多く、圏域の高齢化率37.2%（令和4年12月末）の少子高齢化地域である。</p> <p>・み春野地域（平成12年に宇那谷町から区画整理）については、他の地域と比べ低い高齢化率（10%～13%）ではあるが年々高齢化率が上昇している。徒歩圏内の買い物先はコンビニのみ。今後、高齢化が進んでいくと、通院や買い物に支障をきたす方が増えると考えられる。</p> <p>対照的にこてはし台地域では、高齢化率50%前後であり、独居・高齢世帯が多く住んでおり千葉市内でも屈指の高齢化率エリアである。ボランティア団体などの支援者も高齢化が進んでおり今後の支援体制に不安がある。同様に横戸台地域も高齢化率55%と高い。後期高齢化率（25.9%）よりも前期高齢化率（29.2%）の方が高く高齢化率が上昇すると予測される。</p> <p>・複合的な問題（8050問題、生活困窮者、身寄りがいない等）を抱えた相談が増加傾向であり他機関と連携し長期的に支援を行っている。</p>			
活動方針 (総合)	<p>・民生委員児童委員など関係機関と連携し、支援が必要な高齢者に対し早期に支援が行える体制を構築する。</p> <p>・地域住民に対して、介護予防に意識を向けられるよう生活支援コーディネーターと連携し地域活動を行う。</p> <p>・地域ケア会議を開催し、地域課題を把握し地域づくり・資源開発に向けた取り組みを行う。</p> <p>・社会資源が少ない地域に対しては、生活支援コーディネーターと連携し新たな社会資源の発掘や情報収集や集いの場等新たな活動の場を開拓する。</p>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<p>・関係機関等と共催し、認知症高齢者声かけ訓練や認知症カフェを定期開催する事ができた。</p> <p>・地域活動が再開した事で、生活支援コーディネーターがサロン等に参加し、地域とのつながりや講座等の依頼が増えた。それに伴い、あんしんケアセンターの周知など広く行うことができた。</p>
	次年度に向 けた展望	<p>・地域ケア会議等を活用し、自治会、民生委員児童委員など関係機関と連携し、支援が必要な高齢者に対し、早期に支援が行える体制を強化する。併せて、地域課題を把握し、地域づくり・資源開発に向けて、取り組みを行う。</p> <p>・生活支援コーディネーターと連携し、介護予防の取り組みや自治会等で開催している通いの場等への支援を行う。</p>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 組み状況	<p>・第2層生活支援コーディネーターの資源調査等活用し、地域のサービス等の情報提供を行うことが出来た。</p> <p>・いきいきプラザ健康フェスタに参加し、基本チェックリストの活用による介護予防等の取り組みを行った。</p>		
後期	具体的な取 組み状況	<p>・相談者に対して、第2層生活支援コーディネーターの資源調査結果等を活用し、インフォーマルサービス等の情報提供を行った。</p> <p>・前期同様、いきいきプラザ健康フェスタに参加し、基本チェックリストの活用による介護予防等の取り組みを行った。</p>		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	生活支援コーディネーターと連携し、個々のニーズ合わせて支援を行えたが、見守り支援情報等の地域資源について、まとめる事ができなかった。
	次年度に向 けた展望	<p>・適切なサービス選択ができるように、生活支援コーディネーターの情報等を共に整理し、包括3職種間で連携して支援を行う。</p> <p>・高齢者自身が介護予防について意識を高め、地域の中で生きがいや役割を持って生活が出来るよう、援助を行う。</p>		

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1～2回、保留ケース（相談ケース）について、包括3職種で協議と振り返りを行い、対応した。</li> <li>・地域における支援対象者や地域課題に関しての地域ケア会議（鷹の台、こてはし台）の開催を行った。</li> <li>・複合的な課題に対して、他機関（障害者機関相談支援センター等）と連携をし、支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の課題を持つ世帯に対し、あんしんケアセンターのみで対応するのではなく、各関係機関と連携をとりながら支援にあたることが出来た。</li> <li>・昨年度から引き続き行っている鷹の台地域ケア会議では、民生委員児童委員等と情報を共有し、支援対象者の早期発見・早期対応を行う事が出来た。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議を通じ、支援を必要としている方への早期対応が可能となった事により、状態の悪化を予防することが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種の専門性を活かし、且つ職員皆が様々な課題に対応することが出来るようスキルアップを図り、チームアプローチをめざす。</li> <li>・本来は支援が必要な状態であるにも関わらず、積極的な相談が難しい方や、自らの課題を把握することが難しい方等へアプローチし、状態悪化の予防を図る。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長申立てについて、決定までの間、金銭管理や介護サービスの利用契約などに関し、ケアマネや成年後見支援センター、高齢障害支援課、地域包括ケア推進課等と連携しながら支援を行った。</li> <li>・消費者被害に関する出前講座を消費生活センターに依頼し、地域にて普及啓発活動を行った。</li> <li>・消費者被害に関する情報をセンター前に掲示した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活自立支援事業の必要性のある方について、成年後見支援センター他関係機関と連携しながら支援を行った。</li> <li>・高齢者虐待対応について、センター内で研修を実施した。対応事例の振り返りを行った。</li> <li>・消費者被害に関する情報をセンター前に掲示した。消費生活センターと連携し、悪質商法の講座を開催した。</li> <li>・高齢者虐待の疑いのあるケースについて、高齢障害支援課・関係機関と連携し、支援を行った。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後見人が選任された後、早期に意志決定支援の関係者会議を開催し、本人にとって最善の生活を検討し施設入所につなげる事ができた。</li> <li>・関係機関と連携し、消費者被害防止のための講座を地域で開催し、情報をセンター前に掲示した。</li> <li>・高齢者虐待対応について、過去の対応ケース振り返りを行い、対応力強化を図った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・判断力の低下がみられる場合には、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明、必要に応じて成年後見支援センター等と連携し、制度利用に向けた支援を行う。</li> <li>・高齢者の権利を守るよう、被害の防止に向け、地域や支援者等に対し、情報提供・注意喚起を行う。</li> </ul>		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見川区あんしんケアセンターの主任ケアマネジャーと2か月に1回、勉強会等を行った。</li> <li>・花見川区居宅介護支援事業所（主任ケアマネジャー）および花見川区あんしんケアセンターと2か月に1回、班活動（①ケアマネジメント班②社会資源班③研修企画班）を行った。</li> <li>・困難事例等について、地域の介護支援専門員と同行訪問し、支援内容を検討した上で、支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見会川居宅介護支援事業所（主任ケアマネジャー）の研修企画班メンバーと共に、研修会（介護サービス・障害サービス併用のポイントと連携について）を開催することが出来た。</li> <li>・花見川区6センターで共催し、多職種連携会議（救急医療との平時の連携について）を開催することが出来た。</li> <li>・地域ケア会議を行い、地域の課題の抽出・解決に向けての活動など、地域住民と共に行う事が出来た。</li> </ul>		

年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携会議や地域ケア会議を計画通りに実施することが出来た。</li> <li>・地域の主任ケアマネジャーと共に研修会を開催したことにより、主任ケアマネジャーの役割の一つである「地域のケアマネジャー支援・多職種のネットワークづくり等」を共に行う事が出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して、地域の主任ケアマネジャーと共に研修会の企画等を行い、地域のケアマネジャーの質の向上を目指す。</li> <li>・地域ケア会議を通じ、ケアマネジャーと地域との連携の取り方などの課題解決に向けて、活動を継続する。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治安田生命と共同し、あんしんケアセンター主催での健康測定会（ベジチェック測定、血管年齢測定）を行うことが出来た。</li> <li>・第二層生活支援コーディネーターと情報共有し、内山町地域において、介護保険やあんしんケアセンターについての講義を実施した。また、いきいきプラザ出張講座等の依頼も行き、活動が不足している地域へのアプローチができた。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域の活動団体に対し、講座等の開催や相談対応を行う事が出来た。</li> <li>・あんしんケアセンター主体で認知症カフェの立ち上げをすることが出来た。</li> <li>・コミュニティスペース「そよ風」を活用し、体力測定会を開催した。介護予防に対しての意識付けを行う事が出来た。</li> <li>・いきいきプラザ・柏井子ども会連絡会と共同し、認知症高齢者声かけ訓練を開催することが出来た。</li> </ul>		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力測定会の開催などで、介護予防に対しての意識付けを行う事が出来た。</li> <li>・認知症カフェを始めたことで、当事者や家族などが相談や活動ができる場所を作ることが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して認知症カフェを開催し、地域へ認知症への理解を深めるとともに、当事者・家族の居場所づくりを行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、各地域の課題や傾向を把握することで、早期に適した介護予防へつなげる事が出来るよう支援する。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター花見川		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>①地区概要：花見川団地を中心に隣接する作新台、柏井1丁目、長作台地区では、圏域総人口の約7割が居住している。花島町、天戸町、長作町地区では3地区共に田畑が多く、代々住んでいる地域であり、地域間での差も見られるが、高齢化が進んでいる。作新台、長作町は転出入が比較的多い地域。</p> <p>②地区課題：花見川団地は、圏域の中でも一番高い高齢化率（平均で44.0%※令和4年12月末状況）で、相談件数も圏域の約半数以上を占める。身寄りのない方、経済的困窮、認知症や精神疾患、家族問題、権利擁護等、複合的な問題を抱えるケースが増えており、安否確認や成年後見制度につなげる相談が多い。地域を支える支援団体、民生委員等も高齢化が進み、後任探しや欠員状況が続いている。また、団地以外でも同様の課題を抱えている。</p> <p>地域資源に関しては、花見川団地やその周辺の地域では商業施設・交通機関も発展し、生活しやすい環境にある。その一方田畑が多く代々住んでいる地域では、団地に比べ家族の支援は期待できるが、福祉サービスを好まない風土もあり、相談が少ない傾向にある。地域資源に関しても商業施設が少なく交通手段も限られており、車を手放すと買い物にも不便きたす地域である。</p>		
活動方針 (総合)	<p>関係機関と連携を図りながら、課題の解決を図りつつ、生活支援コーディネーターが収集した社会資源情報を共有しながら地域包括ケアシステムのさらなる深化を図る。</p> <p>地域支援者との関係性を維持し、定期的なアプローチから地域関係者とのネットワーク作りを推進する。</p>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選じた理由
	次年度に向けた展望	<p>花見川区高齢障害支援課をはじめ他の専門機関と連携し、相談等の課題に対応しつつ、地域活動を進めた。その中で生活支援コーディネーターと連携し、必要な社会資源の把握や情報提供、発掘にむけて取組みを行った。また、今年度はコロナが5類に移行した事もあり地域活動や地域行事が再開された地域が増え、地域活動・参加実績も伸びた。</p> <p>認知症や精神疾患・家族や社会と疎遠・孤独・貧困など、多様で複合的な問題を抱えた相談への対応や課題解決のため、引き続き、地域活動に参加し、圏域内の地域課題や地域性を把握する。また、把握した地域課題の解決に向けて、地域住民やサービス事業所と地域ケア会議を開催する。「ひとりにしない」を目的とした地域の集まりの場などの拠点づくりを図るなど、住民・関係機関と連携した街づくりを目指す。</p>	
2 第1号介護予防支援事業			
前期 後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきセンター主催の健康相談フェスティバルや地域のサロンに参加し、基本チェックリストを活用して、介護予防につながる生活習慣のアドバイス等を行った。また、その他総合相談時にも基本チェックリストを適宜活用した。</li> <li>・圏域居宅介護支援事業所7箇所へ生活支援サイトに関するアンケートを実施し、6事業所10名のケアマネジャーより回答があった。その結果、生活支援サイトを知らないケアマネジャーが8名いたため情報提供を行いインフォーマルサービスの活用を促した。</li> <li>・委託介護予防ケアプランの点検は、更新および計画期間終了時の書類提出の際に実施した。家族によるインフォーマルサービスや配食等自費サービスの位置づけは見られたが、生活支援サイトの周知状況のとおり、地域の社会資源に関する情報は少なかった。</li> </ul>	
	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期取り組みと同様に実施した。いきいきセンター主催の健康相談フェスティバルや地域のサロン、依頼を受けて実施した介護予防の講演会を機会に、各団体や参加者に向け、基本チェックリストを用いて、介護予防につながる生活習慣のアドバイスを行った。また、総合相談時にも、必要に応じ、基本チェックリストを活用した。</li> <li>・前期に実施した圏域内居宅介護支援事業所対象のアンケートの結果、生活支援サイトの理解・浸透度が低かったため、後期も「生活支援サイト」の活用促進を意識した情報提供を行った。また、居宅介護支援事業所から社会資源の相談を受けた際は、生活支援コーディネーターへ相談し、適宜、情報提供を行った。</li> <li>・委託介護予防ケアプランの点検は、前期と同様の対応を図っている。介護認定の遅れが原因で、プラン内容以外の相談も多く受けた。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	概ね計画通り実行できた。
	次年度に向け た展望	支援を必要とされる方が、要介護認定の遅延からタイムロスが生じている事に対して、地域で元気な高齢者が買い物や家の掃除など「ちょっとしたお手伝い」ができる仕組みを作ることで、生きがいや自己決定にも繋がると感じている。住民運営型のインフォーマルサービスの可能性を各地域毎に模索していきたい。		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者の話を中立・公平に傾聴し、総合相談の対象とならない方については必要な機関へ繋げた。</li> <li>・重点地区の東急町内会に向け、毎月自治会長と会い、町内会回覧板でオリジナル広報誌の回覧を依頼した。その結果、東急町内会との関係構築ができ、敬老会において、あんしんケアセンターの業務紹介、および、介護保険制度の説明をする機会を得ることができた。その機会をきっかけとして、相談に繋げることができた。</li> <li>・地域や活動拠点へオリジナル広報誌の配架を継続し、サロン等において、随時相談対応を行った。</li> <li>・213地区民児協定例会へ定期的に参加し、地域の相談傾向などを共有し、民生委員からの質問や相談に対応した。障害、生活困窮、外国人に関する相談が多い傾向にある地域であると把握ができた。211地区、212地区は、実態調査に併せ年度初めに参加し、令和4年度活動実績と併せて、地区の相談傾向について伝えた。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談では、「まずは聞く」を徹底した。相談内容に応じて専門機関へ繋げ、緊急性や終結等についての判断は、毎日の朝夕礼にて職員間で共有し、進捗管理を行った。</li> <li>・重点地域の東急町内会では、前期の敬老会参加後も、継続して広報誌を持参した。自治会より、地域で不足している社会資源（体操教室やサロン）等の立ち上げの相談を受けた。地域の高齢者へ、シニアリーダー養成講座の受講や集いの場立ち上げの検討を勧め、関心を引いた。</li> <li>・地域や活動拠点へ、あんしんケアセンター作成の広報誌の配架を継続し、サロン等において、随時、相談対応を行った。</li> <li>・213地区民児協定例会へ定期的に参加し、把握した課題（障害、生活困窮、外国人等）を地域ケア会議で共有した。地域ケア会議の結果、11月と3月にUR主催にて、花見川団地を対象に障害事業、生活困窮事業の専門機関と合同相談会を開催した。相談件数は、11月が予約3件（4件中1件当日キャンセル）と当日エントリー1件であった。3月は予約1件、当日エントリー3件であった。民生委員や地域支援者の協力も得ることができ、合同相談初年度としては、まずまずの参加数であった。また、相談を受けた8件中4件について、あんしんケアセンターが、支援を継続した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	概ね計画通りに実行できた。
	次年度に向け た展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の多い圏域でもあるため、引き続き、ワンストップサービス機能を意識した相談支援を実践する。</li> <li>・合同相談会については、回を重ねるごとに相談が増える傾向にある事と、213地区民児協、自治会などでも継続の要望があるため、次年度も6月と11月に開催を企画、継続する。</li> <li>・東急町内会のシニアリーダー養成、および集いの場の検討と立ち上げを進める。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉北警察署、および千葉市消費生活センターへ行き、詐欺被害等の実情や注意喚起・啓発資料の活用について、情報共有と相談を実施した。消費生活センターの了解を得て、当該センターHPなどに掲載されている資料をあんしんケアセンターの掲示板に掲示することで、注意喚起を行った。</li> <li>・虐待ケースを5件把握、高齢障害支援課と連携し、終結に向けて対応することができたが、虐待の疑いや可能性がある方の対応で、進まないケースなどもあった。</li> <li>・区社会福祉士会議にて、6月NPO法人なのはな「成年後見申し立てから後見業務の内容について」、8月ソニー生命「お一人様支援（終活）」の研修会を実施した（各センターが当番で企画開催）。</li> <li>・作新小学校、花見川小学校よりキッズ認知症サポーター養成講座の依頼を受け、10月11月に向けて取組みを進めた。</li> </ul>		

後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉北警察署、および市提供の詐欺被害防止リーフレットやポスターを地域の民生委員や自治会へ配布した。また、毎月発行するオリジナル広報誌でも特殊詐欺の内容や予防対策、実例被害等を記事にし、あんしんケアセンター掲示板に掲示することで、注意喚起を行った。</li> <li>・虐待（疑い含め）ケースの相談については、高齢障害支援課と連携し対応する中、あんしんケアセンターと行政間での見解、見立ての違い等はあったが、状況を共に確認、共有しながら対応できた。</li> <li>・区の社会福祉士会議を偶数月に開催し、権利擁護に関する研修や次年度の取り組みを含めて話あった。</li> <li>・作新小学校、花見川小学校でキッズ認知症サポーター養成講座を開催した。</li> <li>・3月に認知症カフェを開催し、認知症高齢者とその家族、近隣のグループホーム入居者も参加された。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 概ね計画通りに実行できた。また、2月にあんしんラジオ体操参加者が、オレオレ詐欺の電話を受けたが、他のラジオ体操参加者らに相談をしたことで、被害を未然に防ぐことができた。高齢者が集う場所の重要性を改めて感じた。
	次年度に向けた展望	<p>虐待（疑い含む）の相談を受ける事が多いと感じている事から、虐待研修や社会福祉士会議等を通じて理解を深め、センター全体で虐待防止に取り組む。また、認知症状があっても自己決定の元、地域で暮らしていける取組みとして、以下の事を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①虐待（疑い）の相談時の早期対応・解消に向けての取組み</li> <li>②認知症の理解促進のため、認知症サポーター、キッズ認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェの定期開催</li> <li>③詐欺被害防止の注意喚起</li> </ol>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域居宅介護支援事業所7箇所へアンケートを実施した。アンケートの結果から、ゴミ出し支援、独居高齢者の安否確認、地域コミュニティの場が少ないことなどに関する地域課題が挙がった。ゴミ出し支援については、自治会と検討を行った。また、総合相談支援での安否確認業務や地域の活動拠点増加を主とした、介護予防に取り組むための環境整備について、課題の共有が図れた。</li> <li>・圏域別多職種連携会議（テーマ：精神疾患と内科的疾患の両方を抱えているケース）をハイブリッド（参集・オンライン）形式で開催した。</li> <li>・花見川団地地域ケア会議を計画、6月・9月に実施した。団地における支援事例や地域支援者から見えている課題を基に会議を進め、参加団体も定着されてきている。（民生員、自治会、UR、高齢障害、社協、障害基幹、生活自立、介護事業所）</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<p>花見川団地地域ケア会議を12月・3月に実施した。団地における支援事例を挙げて意見交換し、地域支援者から見えている課題（身寄りがいない、いても疎遠の高齢者、認知症高齢者、障害者、若年層世帯の生活困窮、外国人問題、その他）を挙げ、課題の解決に向けて話し合いをした。地域からの声を吸い上げ、11月と3月にUR主催にて花見川団地を対象に障害事業、生活困窮事業の専門機関と合同相談会を開催した。また、団地住宅自治会からのゴミ出し支援の問題では、自治会独自のサービス創設に向けて取り組む方向となり、仕組みを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携会議では、6センター合同開催で救急搬送の頻回利用の現状の説明と事例の検討を行った。</li> <li>・11月天戸地区社協より212地区民生委員を対象とした勉強会の依頼があり、介護保険制度や利用方法、介護施設の種類等の説明を行った。民生委員が介護保険等の制度を学ぶことで、地域に困った方がいた場合や些細な相談等を受けた際に、民生委員も対応できるようにと思いを込めて実施した。これは、213地区民生委員を対象としても同様の取組みを行った。しかし、結果的に、あんしんケアセンターに来る相談件数の減少には至らなかった。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 地域ケア会議を継続開催することにより、住民意識の変化とインフォーマルサービスの創設への取り組みを生み出すことができた。例えば、花見川団地住宅自治会のゴミ出し支援の問題では、他人事のように捉えていた自治会が、自分たちでどうにかしなければならぬ問題と捉えるようになり、自治会独自のサービス創設に向け、取り組みが始まった。対象者を高齢者だけでなく、子供から大人までの住民全体として考える意識を持ち始めており、成果と捉えた。
	次年度に向けた展望	花見川団地の地域ケア会議やその他の運営推進会議に参加する中で、地域住民や地域支援者との関わりがなく、困っている状況等を把握していることから、継続して地域ケア会議を開催し、地域関係者（住民と介護事業所）のマッチングを含め、その解決に向けて、検討と取り組みを行う。	

6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に資する広報誌の作成を毎月継続し、ラジオ体操参加者や自治会、いきいきセンター等に対して、普及啓発を行った。</li> <li>・センター主催のラジオ体操の周知活動を強化し、昨年度と比べ延べ利用者数が4年度4月～9月1036名→5年度4月～9月1664名と大幅に増加した。参加状況と健康等の管理をする目的で「いきいき活動手帳」を参加者へ配布し、体力管理の一環として、握力測定会も実施した。</li> <li>・シニアリーダー立ち上げ支援を継続し、作新台、長作台付近での活動拠点を増やすことができた。(SLコープ花見川)</li> <li>・看護職とSCが主になり、花見川団地のイベント時に健康サロンを開催した。6月はヤマシタと協力し、「トルト」を使用して、歩行時の姿勢などの測定を実施した。また、転倒予防の啓発と福祉用具の展示を行った(地域高齢者33名参加)。その他団地外からの参加者もあり、自身の地域でも開催してほしいと要望があった。9月にシルバーとつぐ、徳武産業、シンエンスと協力をして、セニアカー体験、足のサイズ測定、福祉用具の展示を行った(地域高齢者10名参加)。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に資する広報誌作成と配布・普及活動を継続し、前期に報告した諸団体の他、地域で取り組まれているカフェや花見川団地商店街へ配布先を拡充した。</li> <li>・ラジオ体操を継続し、参加延べ人数は、10月1日から3月11日までで1,596名であった。令和4年度後期1,482名と比較し、参加延べ人数は、増加した。</li> <li>・体操教室(シニアリーダー体操含む)31回、地域主催の高齢者サロン10回、地域イベント11回(餅つき会、カフェ、花見川団地ワークショップ)に参加した。</li> <li>・地域支援者、いきいきセンターより依頼を受けた高齢者向けセミナーは、「介護予防」、「介護保険制度」、「介護サービス」をテーマに講話した。10月は、40名、1月は、2回開催し、各30名の参加であった。介護保険制度等についての理解は、地域高齢者にまだまだ広まっていない事を痛感した。</li> <li>・花見川団地のイベント時に、あんしんケアセンター主催の健康サロンを開催した(12月)。明治安田生命の協力を得て、血管年齢測定とベジチェック(推定野菜摂取量測定)を実施し、75名の地域高齢者が参加された。</li> <li>・10月にあんしんケアセンター6センターと地域包括ケア推進課にて、花見川区民まつりに参加し、どこシル伝言板を活用した体験型の声掛け訓練を実施した。合計306名の方が体験された。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 地域支援者等が主催するサロンやクラブ活動への参加やあんしんケアセンター主催の健康サロンの開催、関係機関からの依頼による介護予防普及啓発、介護保険の仕組み、福祉施設についての講演を実施し、見込みを上回る会場数・参加者数について、対応をした。
	次年度に向けた展望	高齢者の活動支援や介護予防普及啓発活動を実践し、地域との関わりを深化する。高齢者の集いの場となる拠点づくりを推進し、また、集いの場に継続性を持たせるような仕組みの構築を図る。	

# 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンターさつきが丘		
担当圏域 地区概況及び 地区課題		<p>1.圏域内において、相談件数が最も多い地域はさつきが丘であり、特にURさつきが丘団地在住の高齢者に関する相談が増えている。相談内容の特徴として、経済的問題や身元保証関係などの生活に苦慮している相談が増えており、相談支援が長期化する傾向にある。また、さつきが丘団地は分譲・UR問わずに独居高齢者が多く、支援が行き届かず既に孤独死に至っていることもある。</p> <p>2.犢橋地区（犢橋町・三角町・千種町）においては、交通機関がほとんどなく、独居高齢者や高齢者世帯を中心に車を所有していない世帯が多い。そのため、遠方への外出時にはタクシーを利用せざるを得ない状況であり、経済面の負担が大きいとの声が増えている。</p> <p>3.犢橋地区にて最も相談が多い千種町においては、8050問題に対する相談が多く、子供に対して関係機関を紹介しても相談する意志がなかったり、面談を拒否したりなどして問題解決に至らないことがある。また、地域活動においては、長年継続している団体が多いものの、地域活動を支える担い手の高齢化により、担い手が不足している団体もある。</p>		
活動方針 (総合)		<p>1.相談が長期化しているケースについては、必要時に行政機関と連携し、課題解決を図る。また、独居高齢者の孤独死問題については、引き続き民生委員や町内自治会との連携の他、近隣住民とも連携を図り、安否確認体制を強化する。また、民生委員や町内自治会との連携強化を図るために、各種会合への出席や地域活動への参加頻度を増やす。</p> <p>2.交通不便問題について、買い物に苦慮している高齢者においては、各種関係機関と連携し、買い物支援の頻度を増やすことで高齢者の負担軽減を図る。また、病院受診の問題についても、今後は検討する機会を設ける。</p> <p>3.今年度は千種町を重点的に活動する地域とし、課題解決に向けての役割の一旦を担う。</p>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を含む出張講座を計7回行うことができ、事業所の周知活動に繋げることができた。</li> <li>・関係機関と連携し、前年度に引き続き認知症SOS訓練を行うことができた他、新たに認知症クイズラリーを行うことができた。</li> <li>・事業所主催の犢橋公民館出張介護予防教室については、多種多様な手段で参加者の増員を試みたが、新たな参加者への拡大や増員には至らず、次年度の開催中止を余儀なくされた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あんしんさつきが丘便り」について、内容の充実と発行数を増やす。</li> <li>・認知症高齢者が増え続ける中、認知症施策に重点を置く。具体的には、認知症サポーター養成講座を含む出張講座の機会を増やす。</li> <li>・事業所主催の出張介護予防教室について、今年度末で中止となる犢橋公民館会場の代替として、さつきが丘公民館での開催を検討する。また、事業所主催のイベントをもう1つ増やす。</li> </ul>
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域諸団体の活動の場に参加する際にはチラシを配布し、特に介護予防に関連するチラシを配布することで周知活動を行った。また、事業所作成の「あんしんさつきが丘便り」については、口腔と栄養をテーマとして作成した。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターと協働し、住民主体の場に関する情報量を増やすことで、自立支援に繋がった。</li> <li>・要支援認定者については直営での対応がほとんどであるため、管理者（主任介護支援専門員）より、他の包括3職種やプランナーに対し、インフォーマルサービスを位置付けた自立に資するケアプランを作成するよう、指導を行った。</li> </ul>
後期	具体的な取 り組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に参加する際には、今年度前期に作成した「あんしんさつきが丘便り」を含む介護予防に関するチラシを多く配布した。</li> <li>・要支援認定者の委託ケースについて、地域の介護支援専門員がケアプランを持参する際に、インフォーマルサービスの位置づけを意識するよう、指導を行った。</li> <li>・事業所のプランナーが担当している利用者2名について、第2層生活支援コーディネーターと連携し、利用者の強み（趣味や特技など）を活かして、地域活動におけるボランティアの担い手に繋いだ。</li> </ul>

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に発行できなかった「あんしんさつきが丘便り」を作成し、口腔と栄養の重要性について、地域の高齢者に周知することができた。</li> <li>・公的サービス利用者が地域活動の担い手として、通いの場、交流の場に参加することができた。</li> <li>・要支援利用者のケアプランについて、直営、委託共にインフォーマルサービスの位置づけが徹底されていなかった。</li> </ul>
	次年度に向けた 展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度と同様に介護予防に関連する「あんしんさつきが丘便り」を発行し、介護予防の周知に活用する。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターと連携し、公的サービス（デイサービス）利用者が、サービスに頼りきりにならないよう、地域の通いの場、交流の場の情報提供を行い、住民主体の場の活性化を図る。</li> <li>・インフォーマルサービスについての理解・認知度が不足しているため、地域高齢者や介護支援専門員に対し、第2層生活支援コーディネーターと共に市生活支援サイトの周知を図る。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の包括3職種会議にて、継続相談が多いケースの確認と適宜継続、終結の進捗管理を行い、業務の効率化に繋がった。</li> <li>・困難ケースについては、事業所内で2回野中式事例検討会を行い、多職種による意見交換から課題解決に繋がった他、市生活自立仕事相談センター花見川や区障害者基幹相談支援センター、区高齢障害支援課、区健康課等の行政機関とも適宜連携を図った。</li> <li>・9/1（金）に明治安田生命との共催にて、終活講座と健康測定会を行った。参加者は12名だった。</li> <li>・終活に関する相談が4件あった。</li> <li>・安否確認リストに掲載されている高齢者に対し、訪問や電話にて対応を行った。</li> <li>・民生委員から相談が多かったが、訪問して課題解決を図ることで信頼関係を深めた。</li> </ul>		
	後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の包括3職種会議にて、継続相談が多いケースの確認と2回の継続、終結の進捗管理を行った。</li> <li>・困難ケースについては、包括3職種間でケース検討を行い、適切な支援に繋がった。また、市生活自立仕事相談センター花見川と連携したケースが3件あった。</li> <li>・終活に関する相談が1件あった。</li> <li>・安否確認リストに掲載されている手厚い支援が必要な高齢者に対し、訪問頻度を増やすことで課題解決に繋がった。</li> <li>・家族支援の重要性を確認し、特に家族自身が大きな病気を抱えているケースについては、家族支援を手厚くした。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種（看護職）の人員変更があったものの、後任は滞りなく相談対応を行うことができた。</li> <li>・事業所主催では初めて終活講座を行うことができた。また、終活に関する相談が5件あり、講座開催が一定の成果を示すことができた。</li> <li>・安否確認について、事業所近く在住の高齢者宅での訪問は多く行うことができたが、遠方在住の高齢者宅への訪問頻度は少なめであった。</li> </ul>
	次年度に向けた 展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難ケースについては、その都度、野中式事例検討会や包括3職種間でのケース検討を行い、課題解決を図る。</li> <li>・必要時には、地域の諸団体を含めた各種関係機関と連携する。</li> <li>・安否確認リストに掲載されている高齢者については、ほぼ独居高齢者であるため、緊急時の連絡先や対応方法を決めて、滞りのない支援を行う。</li> <li>・今まで以上に終活や家族支援を重視する。</li> </ul>		

4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待が疑われるケース4件に対し、行政機関や医療機関と連携して支援を行った。</li> <li>・金銭管理が困難な高齢者に対し、成年後見制度に2件、日常生活自立支援事業に2件繋がった。</li> <li>・区認知症初期集中支援チームと協働し、認知症高齢者2名の支援を行った。</li> <li>・さつきが丘、宮野木台地区部会福祉まつりにおいて、6/11（日）に認知症サポーター養成講座を開催した。</li> <li>・あんしんケアセンターこてはし台と協働し、8/11（金）に花見川いきいきプラザにて認知症クイズラリーを行った。</li> <li>・認知症地域支援推進員2名は、高齢者見守り班と認知症カフェ班の活動に参加した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待が疑われるケース1件に対し、行政機関やサービス事業所と連携して支援を行った。</li> <li>・金銭管理等が困難な利用者に対し、日常生活自立支援事業に2件繋がった。</li> <li>・12/6（水）に千葉市グループホーム連絡会に所属する家族等、2/6（火）に花見川区内郵便局の職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。また、区高齢障害支援課の依頼にて、1/30（火）に犢橋小学校6年生を対象にキッズ認知症サポーター養成講座を開催した。</li> <li>・あんしんケアセンターこてはし台と協働し、12/16（土）に花見川いきいきプラザにて認知症SOS訓練を行った。</li> <li>・1/22（月）に事業所内で消費者被害についての勉強会を行った。</li> <li>・認知症地域支援推進員2名は、前期と同様に高齢者見守り班と認知症カフェ班の活動に参加した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待については、相談直後に区高齢障害支援課に連絡し、連携を図ることができた。</li> <li>・成年後見制度と日常生活自立支援事業については、市成年後見支援センターを中心に各種連携機関と連携し、適切な支援に繋ぐことができた。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を計4回開催することができた。</li> <li>・前年度に引き続き、認知症SOS訓練を行うことができた。</li> <li>・権利擁護に関する出張講座（後見人、保証人を知ろう）を1回行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度及び日常生活自立事業の利用促進を図り、専門機関との連携機会を増やす。</li> <li>・消費者被害だけでなく、成年後見制度や高齢者虐待においても研修機会の確保に努める。</li> <li>・高齢者虐待について、発見が遅くなることもあるため、早期発見、早期対応、早期解決に努める。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の内容充実を図る。</li> </ul>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民より、認知症高齢者の対応に苦慮しているとの相談を受け、9/19(火)に個別課題の地域ケア会議を開催した。出席者は9名であった。</li> <li>・あんしんケアセンターにれの木台と協働し、7/25（火）に多職種連携会議を開催した。出席者は主催者を含めて40名であった。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターとサービス事業所と共に、9/7（木）に自立促進ケア会議に出席した。</li> <li>・地域密着型サービスの運営推進会議について、7ヶ所の事業所より出席依頼があり、都合のつかなかった1回を除き、計11回の会議に出席した。</li> <li>・区内のあんしんケアセンターと協働し、偶数月の計3回、区あんしん主任ケアマネ会議と区主任ケアマネの会を行った。</li> <li>・4/24（月）に圏域内の居宅介護支援事業所訪問を行い、地域の介護支援専門員同士と意見交換等を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内のあんしんケアセンターと協働し、2/20（火）に多職種連携会議を開催した。出席者は主催者を除き72名であった。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターとサービス事業所共に、12/7（木）に自立促進ケア会議に出席した。</li> <li>・地域密着型サービスの運営推進会議について、8ヶ所の事業所より出席依頼があり、計15回全ての会議に出席した。</li> <li>・区内のあんしんケアセンターと協働し、計3回の区あんしん主任ケアマネ会議と区主任ケアマネの会を行った。また、区主任ケアマネの会ではケアマネジメント班に属し、班の中心的な役割を担った。</li> <li>・11月に圏域内の居宅介護支援事業所（9ヶ所）を訪問し、管理者の介護支援専門員等と面談を行った。</li> <li>・地域の介護支援専門員からの相談が多く、その都度、主任介護支援専門員2名が対応した。</li> <li>・今年度の重点的活動地域としていた千種町自治会にて、高齢者の見守り支援をテーマに地域課題に向けた地域ケア会議を開催予定である（3月中）。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域のネットワーク拡大を図ることで、地域高齢者の支援を強化することができた。</li> <li>・事業所主催にて、個別課題、地域課題の地域ケア会議を各1回ずつ行う予定である。</li> <li>・地域密着型サービスの運営推進会議について、10ヶ所の事業所より出席依頼があり、都合のつかなかった1回を除き、計26回の会議に出席することができた。</li> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所訪問の他、適宜圏域内外の介護支援専門員からの相談対応を行い、指導助言を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携強化を図り、地域の諸団体に対する支援の他、顔の見える関係づくりに力を入れる。</li> <li>・事業所主催で行う地域ケア会議の開催回数を増やす。特に個別課題から地域課題に発展させることを意識していく。</li> <li>・包括3職種4名中、主任介護支援専門員のみ2名体制であるため、地域の介護支援専門員に対する後方支援を強化する。具体的には圏域内の介護支援専門員向けに勉強会等を行う。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/21（水）に花見川いきいきプラザ、6/30（金）にさつきが丘いきいきセンターにて開催された健康フェスティバルに参加し、基本チェックリストの実施といいきき活動手帳の配布を行う等で地域高齢者への生活相談を行った。</li> <li>・8/6（日）にひばりが丘自治会より出張講座の依頼があり、講師を務めた。参加者は30名であった。</li> <li>・花見川いきいきプラザにて偶数月の計3回、生活相談会を行った。</li> <li>・月1回、事業所主催にて犢橋公民館において出張介護予防教室を開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12/12（火）にさつきが丘いきいきセンター、1/27（土）に花見川いきいきプラザにて開催された健康フェスティバルに参加した。基本チェックリストの実施といいきき活動手帳の配布を行う等で地域高齢者への生活相談を行った。</li> <li>・11/28（火）にURさつきが丘団地との共催イベントにおいて、講座の講師を務めた。参加者は16名であった。また、さつきが丘西団地（分譲）地区担当の民生委員より依頼があり、出張講座の講師を務めた。参加者は17名であった。</li> <li>・買い物に不自由している地域高齢者に対し、花見川いきいきプラザと第1層・第2層生活支援コーディネーターと連携し、11/28（火）に買い物支援を試行した。</li> <li>・花見川いきいきプラザ、さつきが丘いきいきセンターより依頼を受け、生活相談会を計4回行った。</li> <li>・事業所主催にて、月1回程度で犢橋公民館において出張介護予防教室を開催した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計4回の健康フェスティバルにて、圏域内の高齢者にいきいき活動手帳を配布し、普及啓発活動を行うことができた。</li> <li>・介護予防の内容を含めた出張講座を計3回行うことができた。</li> <li>・買い物支援の試行が1回のみであり、来年度以降の定期運行は未定となっている。</li> <li>・生活相談会は計7回行ったが、相談者数は伸び悩んだ。</li> <li>・犢橋公民館出張講座については、参加者が少なく、顔ぶれもほぼ同じであった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼のあった健康フェスティバルや生活相談会については、全てを引き受けて普及啓発活動に繋げる。</li> <li>・出張講座については、各種関係機関からの依頼待ちではなく、アプローチを行うことで機会を増やす。</li> <li>・犢橋公民館出張講座については、参加者数が伸び悩んだこともあり、来年度の開催はなしとなったが、代わりに多くの参加者が見込めるさつきが丘公民館において、教室の開催を検討する。</li> <li>・新たに配置される第2層生活支援コーディネーターとの連携し、新たな地域資源の開発に向けた土台作りを行う。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンターにれの木台		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の高齢化率は36.0%と、千葉市の中でも高齢化率が高い地域。</li> <li>・UR「にれの木台団地」や「西小中台団地」はEVなしの大規模な団地。どちらの団地も建設当初からの入居者が多く住み、独居や高齢者世帯が増えている。この地域は特に高齢化率40%を越えており、介護予防の普及啓発活動や認知症予防についての活動、集いの場の周知活動や新規開拓など必要性を感じている。</li> <li>・朝日ヶ丘1丁目～3丁目、5丁目は戸建てが多い地区で事務所から比較的近く、相談件数も多い。民生委員からの情報も多い地区である。</li> <li>・宮野木台1丁目は高台の戸建てと低層のマンションやアパートが混在している地域。</li> <li>・圏域の約半分の面積を有する畑地区は農地が広がり人口が少ない地域と、都市整備された地区とに分かれる。古くからの地域には徒歩圏内にスーパーや商業施設がないが、娘や息子との同居世帯が多いため買い物などにはそれほど困っていない。一方、昔からの風習が多く残っている地域では、家族だけで献身的に介護を行っているケースが多い。高齢化率は30%とそれほど高くはないが介護保険認定者が多く要介護認定の割合が高くなっていることから重度化してから介護保険の申請をしている事が予測されるため介護予防についての活動や介護保険制度についての情報提供が必要。</li> </ul>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンターの周知活動を継続する。</li> <li>・地域住民が住み慣れた地域で安心して生活を送ることが出来るように医療・介護・福祉と連携を図る。</li> <li>・包括3職種それぞれが専門分野を活かした対応や支援ができるようスキルアップに努める。</li> <li>・複合的な問題を抱えているケースに対しては高齢障害支援課や関係機関と連携し対応していく。</li> <li>・自治会や民生委員と情報共有し地域課題に取り組む。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会関係者や民生委員などと顔の見える関係性ができ、あんしんケアセンターの周知がされてきている。相談件数も年々増加している。</li> <li>・URや福祉用具を取扱う企業との連携によりイベントを開催し、あんしんケアセンターの周知活動が出来た。</li> <li>・西小中台出張相談会を継続して行った。</li> </ul>	
2 第1号介護予防支援事業			
前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に基本チェックリストを行い利用者本人が自己の目標を明確にできるよう支援を行った。</li> <li>・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理した上で個々の状況に合わせたサービス利用に繋げた。</li> <li>・職員間での情報共有を図り、利用者にはフォーマル、インフォーマルサービスに関する情報提供を行った。</li> <li>・自立促進ケア会議に事例提供を行い、専門職からの助言を受け事例の検討を行った。</li> </ul>	
	後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理した上で、個々の状況に合わせたサービス利用に繋げた。</li> <li>・ケアプラン作成時には、介護保険サービスだけでなく、住民主体の通いの場やインフォーマルサービスサービスの情報提供を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域のゴミ出し支援などの情報を確認し、情報提供を行った。</li> <li>・自立促進ケア会議での事例に関して、専門職からの助言をセンター内で共有し、知識を深めた。</li> </ul>

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が抱える課題の整理を行い、個々の状況に合わせたサービスにつなげることができた。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスを位置付けることができた。</li> <li>・介護支援専門員に地域資源の情報発信ができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体の集いの場やインフォーマルサービスについて生活支援コーディネーターと連携し、情報収集を行う。</li> <li>・集いの場やインフォーマルサービス情報や生活支援サイトの活用など、住民や委託の居宅介護支援事業所にも情報提供を行う。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
年度 総括	前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小中台の出張相談所は定期的で開催している。</li> <li>・地域の集いの場や民生委員の定例会に参加し、介入が必要な方の情報収集を行い個別に対応した。</li> <li>・多種多様な相談に対応できるよう初任者研修や専門職の研修会に参加し、スキルアップに努めた。</li> <li>・定期的に包括3職種によるケース検討を行い、情報の共有と課題分析を行いながら相談に対応した。</li> <li>・西小中台や東部自治会の敬老会に参加し、あんしんケアセンターの周知活動を行った。</li> </ul>	
	後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回相談や困難ケース相談に関して、包括3職種間で情報共有を図り、複数の職員で対応を行った。</li> <li>・複合的なケースにも対応できるよう、スキルアップに向け、研修に参加し、知識を深めた。</li> <li>・民生委員の会や自治会の活動に参加し、地域の実態把握に努めた。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回相談や困難ケース相談に対して、複数人で対応した。</li> <li>・困難事例に関して、事業所内でタイムリーに情報共有を行った。</li> <li>・高齢障害支援課や自治会、民生委員などの関係機関と連携して対応した。</li> <li>・生活支援コーディネーターが収集した情報を相談者に発信した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きあんしんケアセンターの周知活動を行う。</li> <li>・初回相談、困難ケース相談に関しては、今後も複数人で対応を継続する。</li> <li>・所内会議を活用し、困難事例ケースの情報共有や方針の共有を図る。</li> <li>・センターだけでは解決できない相談には、関係機関と連携し、対応する。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホットスペース畑（認知症カフェ）の開催支援を行った。</li> <li>・認知症のため、適切な契約が出来なかった相談者に対し、適切な部署と連携し問題解決に努めた。</li> <li>・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、意見交換を行うことが出来た。</li> <li>・若年性認知症班会議に参加し、若年性認知症に対する知識を深めることが出来た。</li> <li>・区内の社会福祉士会議に参加し、権利擁護に関する知識を深め、またセンター内で情報の共有を図った。</li> </ul>	
	後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑小学校でキッズ認知症サポーター養成講座を開催した。</li> <li>・みかんの会に所属し、若年性認知症班チーム員として活動を行った。</li> <li>・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、意見交換を行った。</li> <li>・虐待疑いのケースに関しては、高齢障害支援課と連携して対応した。</li> <li>・身寄りのない高齢者世帯の方に、日常生活支援事業や成年後見制度へつなげた。</li> <li>・地域住民に向け、消費者被害に関する講話を行い、注意喚起を行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生に向け認知症サポーター養成講座を開催できた。</li> <li>・みかんの会にも積極的に参加することができた。</li> <li>・地域の集いの場や民生委員の会などで、消費者詐欺や特殊詐欺の発生状況の発信をした。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者被害や詐欺被害防止に向け、関係機関と連携し、注意喚起や対策についての周知活動を行う。</li> <li>・虐待の予防、早期発見のため関係機関との連携を図る。</li> <li>・成年後見制度や日常生活自立支援事業について、周知活動を行う。</li> </ul>		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所を訪問し困りごとや知りたいことなどの希望を聴取し今後の勉強会開催に向け情報収集を行った。</li> <li>・さつきが丘圏域と連携し多職種連携会議をZOOM、参集のハイブリッド方式で開催し意見交換を行い医療や介護、行政とのネットワーク構築を図った。</li> <li>・個別困難事例に対し所内で検討し、今後の支援に対する助言・協力を行った。</li> <li>・区内の主任ケアマネの会で事例検討会を行いスキルアップを図った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見川区内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に、障害サービスについての勉強会を開催した。</li> <li>・困難ケースについて、利用者情報やサービス状況の確認をし、介護支援専門員の後方支援を行った。</li> <li>・区内あんしんケアセンターと連携し、多職種連携会議を開催して、多職種間でのネットワーク構築を支援した。</li> <li>・居宅介護支援事業所へ業務委託をしているケースのプランチェックや書類管理を適切に行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の介護支援専門員と相談しやすい関係性ができ、支援困難者の同行訪問や問題解決に向けた対応策を一緒に考えることが出来た。</li> <li>・地域の介護支援専門員の質向上に向けた勉強会を開催することが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の介護支援専門員が、円滑に活動が行えるよう、個別に課題を聴き取り、支援を行う。</li> <li>・支援困難者に対して、同行訪問や必要時ケア会議を実施し、解決に向けた対応策を一緒に考える。</li> <li>・多職種連携会議を開催し、関係機関とのネットワーク構築を支援する。</li> <li>・ケアマネジメント業務に必要な研修に参加し、スキルアップを図る。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に向け、毎朝（月～金）にラジオ体操を継続して実施した。</li> <li>・にれの木台健康教室、西小中台健康教室において、地域の薬局や住民と連携し、健康に関する情報提供や体操を行った。</li> <li>・総合相談者や地域住民に、シニアリーダー体操や地域で実施している集いの場の情報提供を行った。</li> <li>・西小中台の敬老会で、セルフケアの必要性を説明し、体操を行った。</li> <li>・自治会が開催している集いの場に参加し、自治会との関係性を深めた。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に向け、毎朝（月～金）にラジオ体操を継続して実施した。参加者も増えている。</li> <li>・にれの木台健康教室や西小中台健康教室を定期的に開催し、介護予防に関する講話や運動を行い、地域住民にセルフケアの必要性を発信した。</li> <li>・自主活動組織やシニアリーダー体操教室の支援を継続するとともに、総合相談者などへ情報の提供を行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操や健康教室など、参加者も増え、介護予防に関する意識の向上が図れた。</li> <li>・自主組織やシニアリーダー体操教室関係者と関係性が深まった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にれの木台ラジオ体操を継続して行う。</li> <li>・にれの木台健康教室や西小中台健康教室を継続して行い、介護予防普及啓発を行う。</li> <li>・圏域内で活動しているシニアリーダー体操やお散歩倶楽部などの情報を発信する。</li> <li>・既存のサロンや集いの場に参加して、セルフケアの必要性を発信する。</li> </ul>	

# 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター花園			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、40年以上前に建てられた住宅が多い。独居や高齢者世帯も多く、地域によっては住民同士の関係性が希薄である。高齢化率も上がっている為、認知症や高齢者サービス等の周知活動が必要である。また、地域活動の場所はあるが、駅周辺の交通の便が良いところに集中しており、周辺部に行くにしたがって、坂が多く道幅が狭い箇所もあり移動手段が限られてしまう。そのため活動を利用したくても利用しにくい地区もある。			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が安心して地域に住み続けられるように、民生委員や自治会、その他の関係機関と連携を図る。</li> <li>・住民組織やサロン、地域住民の方と話す機会を継続的に持ち、それぞれの問題点や意向を確認しながら活動していく。</li> <li>・感染対策をしつつ、活動の場を増やす。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度重点地区である朝日ヶ丘4丁目の民生委員と、地域の課題等の話し合いの機会を持ち、問題に対するの解決策を話し合うことができた。</li> <li>・生活支援コーディネーター、および自治会（検見川町5丁目）と連携し、シニアリーダー体操を継続的に行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い地域では、複合的な問題を抱える事例が多いため、包括3職種・関係機関や地域の関係者との連携を強化し、相談や支援を行う。</li> <li>・地域住民が住み慣れた地域で生活を続けられるように、地域の関係者や生活支援コーディネーターと連携を図りながら、地域ニーズの把握やインフォーマル資源の発信を行う。</li> <li>・民生委員や町内自治会と連携を図り、各会の出席および活動への参加の機会を持ち、地域の問題や課題解決に取り組む。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターや所内職員との情報共有を随時行い、利用者にフォーマル、インフォーマルサービスに関する情報提供を行った。</li> <li>・民生委員へ依頼し地域の方へアンケートを実施し、地域のニーズについて、情報収集をすることができた。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援に向けて、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスもできるだけケアプランに位置付けられるよう、所内で情報共有を行った。また、委託ケースに関しても、問い合わせに応じて情報提供を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	D	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターより、移動スーパーや地域の通い場の情報提供が随時あったため、インフォーマルサービスの情報が共有できた。</li> <li>・直営、委託ケース問わずケアプランへのインフォーマルサービスの位置づけが少なく、インフォーマルサービスを位置付けたケアプランの作成を促す支援が十分に行えなかった。</li> <li>・委託要支援認定者に対して、インフォーマルサービスを位置付けたケアプランの作成を促す支援が十分に行えなかった。直営要支援認定者に関しては、個別ではあるが、具体的な資料を用い、利用者に必要な情報を届けることができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントを行い、自立支援に向けたサービス調整を意識して対応していく。</li> <li>・引き続き生活支援コーディネーターと連携し、高齢者、地域住民やケアマネジャーへ、フォーマル・インフォーマルサービスの提案や情報の提示を行う。</li> </ul>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談は訪問を基本として、利用者の生活全般における課題を把握し、支援を行った。</li> <li>・毎日の朝礼の中で包括3職種で課題の共有を行い、必要時には他機関と連携、同行訪問、継続的な関りを行ってきた。</li> <li>・知識や支援の質の向上のために、複数の研修に参加した。研修後には、報告書を作成し、所内で共有した。</li> <li>・困難ケースには、複数人に対応した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的な問題を抱えた相談は、他機関と連携・協議を図り、必要時は協同で支援を行った。</li> <li>・新規相談では、介護認定結果の通知が遅延している現状を相談者に説明し、必要に応じて介護保険外のサービス調整や暫定プランで対応した。</li> <li>・複数の研修に参加し、所内で情報の共有を図った。</li> <li>・センター職員の力量向上のため、対応に課題のあったケースの振り返りと事例検討を行った。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定結果通知遅延に伴い、介護支援専門員に引き継ぐまでの課題整理とインフォーマルを含めたサービス調整を行った。</li> <li>・複合的な問題を抱えた相談は、初期の段階から包括3職種・関係機関と連携し、緊急度に応じた迅速な相談対応を行った。</li> <li>・総合相談でフォローが必要な方については、毎月書面一覧にし、包括3職種で課題の共有を図ったが、十分なアウトリーチが行えなかった。</li> <li>・困難ケースに関しては、所内で情報共有やケース検討を行い、スタッフの力量向上に努めた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談は、緊急度に応じて対応を行い、相談者の訴えだけに捉われず、生活全般を含めた課題の把握に努める。</li> <li>・包括3職種で課題の共有を行い、適宜、行政や他機関、地域の関係者と連携し、対応する。</li> <li>・複数の研修に参加し、所内で共有を図る。複合的な課題を抱える事例は、複数名で対応し、所内でケースの振り返りや事例検討を行う。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活自立支援事業や成年後見制度を提案し、利用につなげた。</li> <li>・虐待が疑われる相談は、早期に高齢障害支援課と情報共有を行い、関係機関と協議・対応を行った。</li> <li>・法人内の虐待研修は複数の職員が参加し、千葉県高齢者虐待防止対策研修にも参加した。</li> <li>・生活支援コーディネーターと共同し、認知症サポーター養成講座・認知症サポーターキッズ養成講座を開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待を疑われる相談は情報を共有し、高齢障害支援課と連携の上、対応した。また、その後の報告も行った。</li> <li>・相談業務の中で、成年後見制度の紹介、説明、手続きの支援を複数行った。</li> <li>・地域の集いの場に出向いて権利擁護の周知・啓発活動を行うことができた。また、花園だよりを作成し、消費者被害に関する情報を掲載、地域の商店等に掲示することにより、広く周知・啓発活動を行った。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度や権利擁護に関する複数の研修に参加し、職員のスキルアップを行った。</li> <li>・成年後見制度や日常生活自立支援事業が必要な利用者に対して支援を行い、千葉市成年後見支援センターや行政書士と連携を図った。</li> <li>・消費者被害について、「花園だより」での発信と、地域の集いの場に出向いての周知を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者被害に関する情報を「花園だより」に掲載し、圏域内の公民館、商店等に掲示して、注意喚起を行う。また、所内でも情報を共有し、相談業務の中でも注意喚起を行う。</li> <li>・虐待が疑われるケースに関しては、区高齢者支援課や関係機関と連携し、早期解決に努める。また、地域の中で早期発見ができるよう、民生委員や介護支援専門員と連携を図っていく。</li> <li>・職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業の理解を深め、必要な利用者に対して支援が行えるよう努める。</li> </ul>	

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括、区、圏域内の主任ケアマネの会を2カ月に1回開催、参加をし、センター間で情報共有を図った。</li> <li>・圏域内の特定事業所ケアマネジャーの事例検討会に参加し、問題点や課題、社会資源の情報交換を行った。</li> <li>・あんしんケアセンター幕張と共同で、ICTを活用した多職種連携会議を開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期と同様に、対面で包括、区、圏域内の主任ケアマネの会を2カ月に1回開催・参加をし、勉強会や情報共有を図った。</li> <li>・圏域の居宅事業所に対しては、対面や電話でニーズや困り事の把握を務め、困難ケースでは地域ケア会議を行った。</li> <li>・2月20日に、区が多職種連携会議をハイブリット方式で開催した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面での主任ケアマネの会の開催が定着し、スムーズに情報交換を行うことができた。</li> <li>・9月12日は幕張・花園圏域、2月20日は花見川区全体で、多職種連携会議の企画や開催を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は介護保険制度改定となり、情報の理解と発信が必要となるため、正確な情報を収集し、発信を行えるようにする。</li> <li>・専門機関や職種の役割を理解し、多職種連携会議や地域ケア会議を開催し、情報交換や問題解決、連携を行う。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の4か所のシニアリーダー体操に不定期に参加し、地域住民にとって有意義な情報の共有、介護予防に役立つ情報の発信を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内のシニアリーダー体操等介護予防活動に参加し、必要に応じて活動の支援を行った。</li> <li>・健康や介護に関するタイムリーで有意義な情報を広報誌やパンフレットを活用し、地域住民へ発信した。また、民生委員や自治会等に、広報誌の配布、回覧を依頼し、協力いただいた。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内のシニアリーダー体操に生活支援コーディネーターと積極的に参加し、短い時間でも介護予防普及啓発活動を行うことができた一方、認知症カフェや地域サロンへの参加は、あまりできなかった。</li> <li>・活動への参加に加え、必要に応じて健康課によるフレイル予防の出張講座、地域リハ支援事業によるリハ専門職の派遣を実施し、活動支援を行った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと協力し、認知症カフェや地域サロン、町内自治会、シニアリーダー体操など、地域で行われている活動に参加し、より多くの地域住民が、介護予防の活動等に継続的に参加できるよう、必要に応じて運営の支援を行う。</li> <li>・介護予防普及啓発につながる広報誌を季節ごとに年4回作成し、掲示する。また、民生委員や自治会などの協力を得て、配布し、地域へ発信する。</li> <li>・生活支援コーディネーターや自治会、民生委員との情報交換により、活動が不足している地域に対し、地域の介護予防推進に向けた役割の一端を担い、支援を行う。</li> <li>・健康課や生活支援コーディネーターと共に、介護予防に関する出張講座を開催する。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター幕張			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	JR幕張駅北口の区画整理と開発とともに、戸建て住宅や集合住宅が新たに建築され、子育て世代の方々の転入が続いている。新規加入者が増えている自治会もあるが、就労世帯が多いこともあり、自治会活動の活性化にはつながっていない。駅から徒歩圏内の集合住宅は単身者用住宅が多く、学生や転勤などによって短期間で入居者が変わる物件も少なくない。 圏域内の高齢化率は、18.5%。後期高齢化率は、9.6%。ともに割合は高くないものの、各人口数は花見川区内の約30%を占める（令和4年12月末現在）。花見川区内のセンターのうち、花見川に次いで2番目に高齢者人口が多い。加齢に伴う身体機能低下に伴い、移動手段を自転車や自家用車から公共交通機関の利用へと変更を検討するものの、結果的に外出をあきらめ、買い物や外来通院の回数減少にもつながっている。活動量の低下と健康状態の確認が不十分な状況から、フレイル進行や病状悪化を招いている。単身高齢者や高齢夫婦世帯において、近親者が不在もしくは疎遠になっている方々に関する連絡は多く、コロナ禍の影響も重なり、事態が困窮した状態で相談が入ることが繰り返されている。			
活動方針 (総合)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施にあたり、健康課や生活支援コーディネーターとの情報共有や共同を意識的に実施し、活動場所や支援団体の活用について、地域住民へ情報提供していく。</li> <li>2.行政機関や各専門機関の他、自治会や民児協などの地域住民の代表者と連携し、高齢者が安心して暮らし続けられる環境整備を目指す。</li> <li>3.相談対象者の意思決定支援を大切に、権利侵害にならないよう対応する。</li> </ol>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	介護認定申請から認定通知までの待機期間の長期化に対し、生活支援コーディネーターと、活動団体や市場サービスなどの情報共有を強化してきた。保険外のサービス利用は、相談対象者の経済的状況に大きく左右されるため、専門的支援を必要としながらも、一時的に民生委員や地域の活動団体の善意に頼らざるを得ない場面もあった。
	次年度に向けた展望	複合的な課題が山積したり、事態が困窮した状態になって、当人以外の他者から相談につながるケースが多い。健康寿命の延伸やセルフケア、人生設計への意識づけを高める啓蒙を図るとともに、早期相談につながるよう、相談窓口である当センターの周知を図る。		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	事業開始当初から、総合事業サービスの調整難航は常態化している。加えて、介護認定申請から結果通知までに60日以上を要する現状の影響は大きい。終末期の新規申請者においても、認定調査が申請日から30日以降に設定される場合もあり、担当ケアマネの調整に時間を要することもあった。利用者へ状況説明と情報提供を丁寧に行い、生活課題の解消や解決に向けた工夫などを考え、提案を繰り返した。		
後期	具体的な取 り組み状況	介護認定申請日から認定調査までに30日以上を要し、結果通知までに90日以上を要する場合が増加した。年度当初より、申請日から結果通知までの時間がさらに長期化した。特に、状態変化に伴う認定区分の見直し申請においては、申請日と調査日まで時間差から、見直し申請時の状態が調査に反映されにくく、サービス導入とその調整に大きく影響した。更新時の暫定利用は、支給限度額超過を想定した説明を加え、対応に苦慮した。		
年度 総括	自己評価	D	自己評価を 選択した理 由	介護認定通知の待機期間中に市場サービスや有償ボランティア等の代替サービスを提案するも、経済的理由から、必要性よりも支払い可能な範囲のサービス利用となり、介護体制の構築に課題が残存するケースがあった。また、セルフプラン対応や市場サービスと保険サービスの提供内容の差異に対して、利用者の理解に混乱を招くこともあった。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護認定通知の待機期間の長期化は、当面続くと推測されることから、介護サービスの必要な対象者に対しては、引き続き丁寧な説明と必要性の判断を実施しながら、対象者の不安軽減を図れるよう情報提供に務める。</li> <li>・地域包括ケア推進課や介護保険事業課と実情を共有しつつ、各事業所への対応の協力を求めるアプローチを継続する。</li> </ul>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	4月から9月の総合相談対応件数の月平均は、新規67.5件、延べ265.8件。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したものの、感染者数は一時増加したため、引き続き感染予防対策を徹底しながら相談対応を実施した。朝礼と毎月の会議でケース支援の進捗確認を行い、主担当者への助言とともに精神的な抱え込み防止や複数視点での課題分析を実施し、センターとしての方針協議を行った。	
後期	具体的な取り組み状況	10月から1月の総合相談対応件数の月平均は、新規40件、延べ272件。複合的な課題が山積したり、事態が困窮した状態になって、当人以外の他者から相談につながるケースが多く、対応回数も支援期間も増加した。相談対象者の属する世帯員への支援が必要な場合もあり、10月に開設した千葉市福祉まるとサポートセンターへ協力を求め、協同して支援にあたった。	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染予防対策の実施は継続した。 重篤な状態や生活課題が複雑になってからの相談が増加傾向にある。相談対応の主担当は選任するが、朝礼や定例会議にて、ケース支援の進捗報告と支援方針を包括3職種で都度、協議しながら対応した。
	次年度に向けた展望	・相談窓口である当センターの周知活動を継続し、早期相談を呼びかける。 ・包括3職種の相談対応能力の向上と平準化を図るため、研修や事例検討には、積極的に参加する。合わせて、他の相談対応窓口との連携強化を意識して、対応する。 ・職員の顔が見え、声をかけやすい機会として、毎月15日にセンター前で実施しているまちかど相談を継続する。	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	特殊詐欺被害の件数と金額の最悪記録更新が続いており、注意喚起のチラシ配布や呼びかけを実施した。高齢者虐待防止法の分類には該当しないが、セルフネグレクトや対象者自身の意思決定の不慣れから、生活状況の悪化と悪循環の回避が困難な状況が続く方がいる。対象者の周囲地域住民や支援者が、事態の改善が望みにくい状況に困惑する場面が度々発生した。	
後期	具体的な取り組み状況	・圏域内のスポーツジムより、会員の加齢に伴う事前説明や規約の失念などに対し、複数回・長時間の対応を要している現状について相談を受け、スポーツジムスタッフを対象に認知症サポーター養成講座を開催した。 ・セルフネグレクトの状態から生活が暗転したり、生活状況悪化の悪循環からの脱却が難しい相談が複数あった。対象者の意思尊重と権利侵害への視点の両方を意識しながら、包括3職種間で支援方針を協議して、対応した。	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 ・高齢者虐待の定義と予防対応に関する研修を開催し、包括3職種とプランナーが参加した。 ・特殊詐欺への注意喚起や予防対策について、地域の活動団体へチラシを配布したり、講話の機会を設定した。 ・認知症キャラバン・メイトのスキルアップ研修に参加し、知識習得と研鑽の機会にした。
	次年度に向けた展望	・職種を問わず、制度理解と権利侵害・権利擁護の意識を高めるため、虐待防止研修を繰り返し受講する。 ・相談対象者が、自身の意思を自覚し、決定できるような関わり方を基本姿勢とし、支援する。 ・認知症の学習会やサポーター養成講座の開催にて、地域住民の認知症の理解促進を図る。	

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花園圏域と合同で、多職種連携会議を1回開催した。地域の情報把握と分析を目的に、町丁を区切った地域ケア会議と、ケアマネ支援を目的とした個別事例の地域ケア会議を開催した。障害者の世帯員を含む家庭の相談事例が複数重なり、障害者基幹相談支援センターとの協議を繰り返した。</li> <li>・主任CM会では班毎に活動し、生活支援コーディネーターと情報共有しながら地域課題を抽出した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見川区6センター合同で、他職種連携会議を1回開催した。世帯支援が必要な家庭について、千葉市福祉まるごとサポートセンターをはじめ、複数の相談機関と連絡調整や地域ケア会議を開催し、世帯支援を進めた。</li> <li>・生活支援コーディネーターからの情報を活用し、対象者の支援体制構築にあたり、保険サービスや行政事業以外のインフォーマルサービスによる支援を組み入れた。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	D	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議の企画と運営にあたり、担当者を選出して実施した。輪番で担当・経験することにより、各職員の会議運営と司会能力の平準化を図るとともに、包括業務の理解促進の機会とした。</li> <li>・地域ケア会議は、年間4回開催したが、年度当初の計画回数より2回少ない開催となった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスでの支援調整が難航しやすい買い物やゴミ捨ては、日常生活の維持に必須の事柄であるため、生活支援コーディネーターと情報共有を図りながら、地域課題の抽出と対応策の考案や創造を目指す。</li> <li>・民生委員、自治会、地域活動団体、生活支援コーディネーター等と、気がかりな事柄や課題について情報収集し、圏域内の居宅介護支援事業所と課題共有しながら、介護サービスや生活支援のあり方について協議を行う。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	今年度、生活支援コーディネーターが中心となって立ち上げたつどいの場2か所について、認知症当事者、家族介護者、趣味の披露や他者交流を望んでいる方などへ案内した結果、世代を問わず多様な方が顔を合わせる場所となった。プレーパーク運営者との定例会議において、地域行事の案内や参加依頼の声掛けもあり、多職種へ共同を求めながら、行事への参加や講話の企画をした。	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集いの場として、ふみこさん家とたんぼ広場の活動を開始し、毎月定期開催した。活動継続にあたり、地域住民から運営役員を選出し、ともに協議しながら企画運営を進めた。認知症当事者の他、介護認定に関わらず、近隣住民も参加する場となり、散歩中の保育園児との交流場面にもなった。</li> <li>・高齢者の活動の場創出で、プレーパーク運営者との打合せを重ねたが、相互のイメージ像の差異から、実現に至らなかった。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集いの場の定期開催にあたり、運営役員との協議を丁寧に行い、属性を問わず、多世代で交流できる場を提供することができた。</li> <li>・高齢者の新たな活動の場の創出には至らなかったが、各種催しへ参加し、多世代への当センターの周知機会となった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の実情や内容把握について、職員間で認識や関心に差がある現状がある。包括3職種のチーム支援能力の向上のためにも、職種を問わず、企画担当を分担する。</li> <li>・集いの場を通して、フレイルや病気理解の講話など、介護予防の普及啓発に努める。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター山王			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山王町、小深町、六方町は四街道市に隣接した地域で、戸建てが多い。</li> <li>・稲毛駅、四街道駅にもバスがでているため 交通の便は良いが、市の境目でフォーマルサービスが届きにくい。</li> <li>・長沼町、長沼原町はスーパーや商業施設が点在している。長沼町は利便性は良いが、高齢化が進んでいる。</li> <li>・長沼原町は農地や工場が多く、利便性の悪い地域もある。</li> <li>・宮野木町は高齢化率は低いが、75歳以上の高齢者が多い。</li> <li>・坂が多いため、移動・買い物などが難しくなる方も多い。</li> <li>・柏台、小中台町は集合住宅が多い。</li> <li>・小中台町は高齢化率が低く、柏台は高齢化率が高いが、地域コミュニティが機能している。</li> <li>・圏域の戸建住宅、集合住宅においても地域コミュニティが機能している地域は多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。自治会のない集合住宅、新型コロナウイルスの影響から地域活動が中止するなど、要支援者の把握が難しい地域がある。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、生活支援コーディネーターとも連携して地域課題の抽出・解決を目指す。</li> <li>・ICTの活用などにより、会議や地域活動を継続し、関係機関や地域とのつながりが保持できるようにする。</li> <li>・地域活動や民生委員などとの連携により、要支援者の把握に努める。</li> <li>・宮野木出張所においても自治会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指す。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク構築のため地域のケアマネジャーや民生委員、生活支援コーディネーターなどとオンラインにて話し合いを行った。ICTを活用することで、顔合わせや意見交換を行うことができた。</li> <li>・地域課題抽出を目的とした圏域における地域ケア会議は開催することができなかった。</li> <li>・地域活動などへ積極的に訪問し、要支援者の把握や活動支援を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の把握やネットワークの構築を目指す。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携して地域組織の活動を支援する。</li> <li>・行政と連携し、効果的な運営が行えるようにする。</li> <li>・宮野木出張所においても自治会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指す。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携してインフォーマルサービスの把握に努め、情報提供を行った。</li> <li>・千葉市自立促進ケア会議を千葉市と協力して開催し、後期の開催に向けての準備を行った。</li> <li>・委託ケースに対して書類等の管理を行い、適切な介護予防ケアマネジメントが行われるよう工夫した。</li> </ul>		
後期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携してインフォーマルサービスの把握に努め、様々な課題を持つ世帯に対して適切な情報提供を行った。</li> <li>・稲毛区では市や稲毛区の主任ケアマネジャーと連携して自立促進会議を開催した。また、センターでは委託ケースの書類管理を継続することで、適切な介護予防ケアマネジメントが行われるように工夫した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携することで、個人だけでなく各々に異なる課題をもつ世帯に対しても、適切な情報提供を行うことができた。</li> <li>・千葉市自立促進ケア会議を行政や稲毛区の主任ケアマネジャーと協力して開催し、自立支援に資する介護予防ケアマネジメントへの認識を深めることができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携してインフォーマルサービスなどの情報把握を継続し、適切な情報提供を行う。</li> <li>・市や稲毛区の主任ケアマネジャーと連携して自立促進ケア会議を開催する。また、委託ケースの書類管理を継続することで、適切な介護予防ケアマネジメントが行われるよう工夫する。</li> </ul>		

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合的な課題を持つケースに対してチームアプローチを行った。また、生活自立・仕事相談センターや千葉市ひきこもり地域支援センター等、他機関と連携した対応を行った。</li> <li>24時間電話相談を受ける体制を維持し、相談内容から地域課題の抽出ができるよう努めた。</li> <li>医療機関や障害者事業所、生活自立・仕事相談センター等と会議を通じたネットワーク構築を図った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携会議や地域ケア会議を開催した。他機関が主催する会議等へ参加し、様々な機関との連携を図った。</li> <li>複合的な課題を持つケースに対して包括3職種によるチームアプローチを行った。また、生活自立・仕事相談センターや千葉市ひきこもり地域支援センター等、他機関とも連携して対応した。</li> <li>相談内容のスクリーニングを行うとともに、夜間休日を含めた緊急時にも対応できる体制を維持できた。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間の電話相談対応や相談に対しスクリーニングを行う体制を維持し、民生委員との会議にて相談における地域分析の情報共有を行うことができた。</li> <li>地域ケア会議や連携会議を通じて様々な機関と連携を図り、複合的な課題を持つケースに対しては、包括3職種によるチームアプローチや他機関と協働して対応できた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や様々な機関との連携を深め、更なるネットワークの構築を図る。</li> <li>様々な課題を持つ人や世帯に対して適切に対応できるよう包括3職種によるチームアプローチや他機関の専門職と連携した支援を行う。</li> <li>夜間休日の相談体制を維持し、緊急時にも対応できる体制を維持する。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待や支援困難ケースに対し、高齢障害支援課などと連携して対応した。</li> <li>成年後見制度利用を検討するケースに対し、成年後見支援センターと連携して対応を行った。</li> <li>『認知症の方に対する意思決定支援』をテーマとした研修会を介護保険事業所向けに開催した。多くの人に知ってもらえるように、2日間の録画配信を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待ケースに対し、ケアマネジャーや高齢障害支援課と連携して対応した。</li> <li>成年後見制度利用が必要と思われるケースに対し、制度の説明など利用に向けた支援を行った。</li> <li>事例検討会を開催した。福祉まるごとサポートセンター、病院、生活自立・仕事相談センターなどと意見交換や連携について話し合いを行った。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待や支援困難ケースに対して高齢障害支援課などと連携して対応を行うことができた。</li> <li>成年後見支援センターなどと連携し、支援が必要なケースへ対応することができた。</li> <li>権利擁護を目的とした研修会を稲毛区のおんしんケアセンター合同で開催した。ICTを活用して配信を行うことで、権利擁護の啓発活動を広く行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待や支援困難ケースに対して高齢障害支援課や関係機関等と連携し、適切で迅速な対応を図る。</li> <li>成年後見制度が必要な人に対し、成年後見支援センターなどと連携して対応する。</li> <li>権利擁護を目的とした研修会を開催する。</li> <li>消費者被害を防止するため、消費者被害に関する情報を把握し、地域住民へ適切な情報提供を行う。</li> </ul>		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲毛区のおんしんケアセンター合同で、主任ケアマネジャー会議、ケアマネ研修会、事例検討会の開催とケアマネ通信を発行した。圏域においても民生委員を交えたケアマネ連絡会を開催した。</li> <li>生活支援コーディネーターと一緒にケアマネジャーと面会し、地域資源に関する情報共有を行った。</li> <li>支援困難ケースに対して、助言や同行訪問などによる支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲毛区のおんしんケアセンター合同で、主任ケアマネジャー会議、ケアマネ研修会、事例検討会の開催とケアマネ通信を発行した。圏域においては、生活支援コーディネーターと一緒にケアマネジャーと面会し、地域資源に関する情報共有を行った。支援困難ケースに対して、助言や同行訪問などによる支援を行った。</li> <li>地域包括ケア推進課や稲毛区高齢障害支援課と協働して自立促進ケア会議を開催した。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	稲毛区の主任ケアマネジャーと共に研修会や事例検討会、自立促進ケア会議の開催、ケアマネ通信の発行などを行い、ケアマネジャーへの情報提供やスキルアップを図ることができた。圏域内においても会議等を通して民生委員や生活支援コーディネーターとのネットワーク構築を図る等の間接的な支援、支援困難事例に対する会議の開催や同行訪問による直接的な支援を行った。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のおんしんケアセンター合同による主任ケアマネジャー会議、ケアマネ研修会、事例検討会の開催とケアマネ通信の発行を行う。支援困難ケースを担当するケアマネジャーに対し、助言や同行訪問などによる支援を行う。</li> <li>・行政と協働して自立促進ケア会議を開催し、ケアマネジャーの自立支援に資するケアマネジメント力の向上を図る。</li> <li>・多職種連携会議や地域ケア会議を開催し、地域課題の把握や切れ目のないサービス提供体制の構築を図る。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
年度 総括	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のおんしんケアセンターの保健師職が協働して、各圏域の公民館等で測定会を開催した。</li> <li>・地域活動においては、2ヶ所の公民館で月1回体操教室を開催した。サロンや老人会などで介護予防についての講話、地区部会との共催で終活に向けた講座を開催した。</li> <li>・千葉県保険医協会との共催で訪問診療医による講演会を開催した。</li> </ul>		
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のおんしんケアセンターの保健師職が協働して、各圏域の公民館等で測定会を開催した。</li> <li>・地域活動においては、2ヶ所の公民館で月1回体操教室を開催した。サロンや老人会などで介護予防についての講話、地区部会との共催で終活に向けた講座を開催した。サロンや体操教室などでニーズ調査を行った。</li> <li>・稲毛区健康課と会議などで連携強化を図り、講座を開催した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のおんしんケアセンターで協働して測定会を各圏域で開催すると共に、稲毛区健康課と連携して高齢者の保健事業と予防活動の一体的な取り組みの推進を図ることができた。</li> <li>・介護予防イベントを4年ぶりに開催、体操教室の継続、地域のサロンなどでの講話を行い、圏域における介護予防の普及・啓発を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健福祉センター等と連携を図り、効果的な介護予防の推進を目指す。</li> <li>・稲毛区のおんしんケアセンター保健師職が協働で測定会の開催や区民祭りへ参加することにより稲毛区における介護予防の普及啓発を行う。圏域においては、公民館での体操教室や地域活動の中での講話、介護予防の普及・啓発を図る。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、認知症カフェなど地域活動組織への立ち上げ・活動継続支援を行う。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター園生			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや会議などは昨年度より開催しやすい状況になりつつある。また、ICTなどを活用して住民同士で交流するための方法を模索する自治会なども増えてきた。それに比例し、ICTについての問い合わせなども増えてきており、これまでの介護相談だけでなく、住民同士の交流や、イベント開催のツールに関すること等、介護分野以外の相談も増えてつつある。</li> <li>・圏域内団地の高齢化率が高いのは変わらずだが、それ以外の地域でも昭和40年代頃から建築されたマンションが多く立ち並ぶ地区では、住民の高齢化が進み、老々介護世帯も多くなっている。本人や家族が精神的な障害を抱えているケースも多く、65歳未満の方が第一窓口として相談することも多くなってきている。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護や高齢者分野に捉われず、地域の方がどのようなことも気軽に安心して相談できる第一窓口を目指していく。</li> <li>・相談に対し伴に向き合う「withの精神」を持って対応する。</li> <li>・介護保険サービスなどの公的サービスだけでなく、民間サービスなども活用し、官民一体となった、地域作りを行っていく。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護分野だけでなく、どのような相談に対しても「まずは何う」という意識を持って、職員全員が対応することができた。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域資源などを活かした支援を行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種の強みを活かし、地域の身近な相談窓口として、どのような相談にも対応できるセンターを目指す。</li> <li>・民生委員や自治会と連携しながら、地域の力を活用し、公的サービスのみに捉われない支援を行う。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなのマルシェ園生にて、健康測定会、相談会を実施し、多世代交流の場を設けた。</li> <li>・あやめ台いきいきセンターの健康フェスティバルに参加し、介護予防普及に努めた。</li> <li>・あやめ会にて介護予防、防犯についての講話、社労士による終活、成年後見制度についての講話を行った。</li> <li>・UR千葉住まいセンターと共催で介護予防講座、あやめ台いきいきセンターにて認知症サポーター養成講座を開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のアんしんケアセンターや区健康課と協働で介護予防教室や体力測定を開催した。</li> <li>・あやめ台いきいきセンターで地域交流サロンアイリスを毎月1回開催した。地域の医療機関の医師によるガン予防、検診の重要性等の講演会を実施した。</li> </ul>		
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康測定会や介護予防教室などを積極的に開催し、日ごろからの運動やセルフケアの重要性について意識を持つことの重要性を発信することができた。</li> <li>・軽度の介護状態（事業対象者や要支援者）にある方が、インフォーマルサービスを活用できるよう、生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の発掘等を行った。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が自立した楽しい生活が送れるよう、地域資源の発掘や立ち上げを行う。</li> <li>・公的サービスでは対応できない部分をできるだけカバーすることができるよう、生活支援コーディネーターと連携し、民間企業などとも連携を図る。</li> </ul>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全員が「まずは話を伺う」という姿勢で対応できた。介護や高齢者分野以外の相談に対しても、主訴を整理した後に関係機関へつなげるなど相談者の問題解決に向けた対応を心がけてきた。</li> <li>包括3職種と生活支援コーディネーターが連携し、片付け業者との連携や体操教室の提供を行った。</li> <li>難病、ACP、認知症研修等へ積極的に参加し、スキルアップを図った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期同様、どのような相談に対しても「まずは話を伺う」ということを職員全員が意識を持って対応することができた。</li> <li>蜂の巣の駆除の相談、剪定相談、近隣トラブルなど直接的に介護分野とは関りのない相談に対しても、生活支援コーディネーターや福祉まるごと相談センター等と連携し、対応を行った。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数や内容から、地域の方が「まずは気軽に相談できる身近な場所」として認知していると判断した。</li> <li>多くの関係機関と地域ケア会議や個別ケース検討会議などで連携し、相談や問題に対し、協力して対応することができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談に対しての向き合い方はこれまで同様、どのような相談でも「まずは聞く」という姿勢は大事にする。</li> <li>相談内容が多様化してきていることもあり、介護分野以外の知識や連携が必要となっている。そのため生活支援コーディネーター等と連携し、どのような相談にも対応できるセンターを目指す。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待相談に対し、千葉県高齢者虐待防止マニュアルに従い、区高齢障害支援課をはじめとする関係機関と速やかに連携を図り、適切に対応することができた。</li> <li>「認知症の方の意思決定支援」に関する研修会を民生委員やケアマネ向けに実施した。</li> <li>成年後見制度の説明会を行い、利用促進等の啓発活動を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待が疑われるケースについては区高齢障害支援課と連携し、老人福祉法による「やむを得ない事由による措置」など、必要な対応を図ることができた。</li> <li>成年後見制度の利用が必要な方に対しては、成年後見支援センターだけでなく、土業関係者とも連携を行い対応した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>虐待ケースについては、関係機関と速やかに連携を図り、適切な対応をすることができた。</li> <li>成年後見制度については土業関係者などとも連携を図れたが、周知活動の部分では足りない部分があった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで同様、区高齢障害支援課と密な連携を図っていく。</li> <li>専門職だけでなく、地域住民に対しても成年後見制度の講座などを行い、周知活動を行っていく。</li> </ul>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月と7月に圏域ケアマネ連絡会を開催し、災害や感染への対応やインフォーマルサービス等の社会資源についての勉強会と情報共有を行い、連携強化を図った。</li> <li>区あんしん主任ケアマネ主催で外国人への対応（言語問題）に関する事例検討会を開催し、スキルアップを図った。</li> <li>6月に稲毛区地域ケア会議を開催し、介護難民への課題抽出、対策等の意見交換を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期同様、圏域ケアマネ連絡会を開催し、ケアマネジャーや民生委員とともに地域課題を把握し、今後の対策や地域資源の把握等をおこなった。</li> <li>あやめ台にて地域ケア会議を開催し、URと協働で地域課題（ごみ捨て問題等）への対応を検討した。</li> <li>稲毛区全体の地域ケア会議を3か月に1回開催した。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	・地域ケア会議や圏域ケアマネ連絡会などを通じて、情報交換や勉強会を開催できたが、介護分野以外とのつながりをもう少し増やしていければ良かった。
	次年度に向けた展望	・今年度同様に圏域ケアマネ連絡会や稲毛区地域ケア会議などは定期的（3～4か月に1回）に開催する。 ・介護分野以外の企業や関係機関とも積極的に連携し、地域共生社会の実現を目指す。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取 り組み状況	・いーね草野（体操教室）を月1回開催し、音楽や脳トレなども組み合わせながら、楽しくできる運動を行ってきた。 ・区健康課と協力し、運動だけでなく、口腔ケアや栄養をテーマに講習を実施、総合的な介護予防活動に取り組んだ。 ・サロン活動ではICTを活用した音楽鑑賞などに取り組み、どこからでも参加できる活動を目指した。		
後期	具体的な取 り組み状況	・前期同様、いーね草野、美その体操を月1回開催し、運動や健康に関する情報を発信した。 ・ウエルシア薬局や区健康課と連携し、サロン等で口腔ケアや栄養に関する講話を行った。 ・稲毛中学校、緑町中学校で認知症ジュニアサポーター養成講座を開催した。 ・10月に生活支援コーディネーターと連携し、多世代交流を目的としたマルシェを開催した。		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	・体操教室やサロン活動は定期的を開催することができた。参加者が固定されており新たな参加者を増やしていくことが今後必要である。 ・民間企業や区との連携したことで、内容の濃い教室などを開催することができた。
	次年度に向けた展望	・地域の中で、健康で楽しく生活できることを目標に体操教室やサロン活動を定期的で開催する。 ・他分野、多世代が交流出来るよう教室やイベントの開催方法を検討し進めていく。		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター天台		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千草台は大規模な団地地域であり高齢化率も高い。身元保証人不要で入居できる為、身寄りのない高齢者も多く緊急連絡先が無い方や、孤独死している状態で発見される事も多く、見守り体制の構築が必要となっている。また、近年は外国人居住者も増え、文化の違いから住民トラブルに至る事も増えている。</li> <li>・天台地域は自治会活動が熱心な地域と活動していない地域との差が大きく、活動していない地域では地域課題もあがりにくい。賃貸アパートが多く、経済困窮に置かれた高齢者や精神障害を抱えた高齢者が自治会に加入しておらず、実態把握が難しい。</li> <li>・萩台地域は比較的経済的に恵まれた高齢者の子どもがひきこもりとなっていたり、8050問題が顕著となっているが、周囲に相談できずに家族だけで抱えてしまい、問題が表面化しにくいといった問題が起きている。</li> <li>・作草部地域は近年大きなマンションが増え、管理組合はあっても自治会には所属しておらず、災害時等の対応や高齢者の実態把握等が難しい現状がある。また、マンション等における現役世代の住民は平日の昼間にイベントを行っても参加が難しい。</li> </ul>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において活動がストップしていた地域活動が再開できるように、自治会や町内会等に働きかけていく。</li> <li>・高齢者のみならず、若年世代や外国人居住者の問題等についても、関係機関と連携を図り、誰もが住みよい地域を作る事が出来るようにセンターとしての機能強化を図る。</li> <li>・2025年問題を前に、介護保険だけではなく様々なインフォーマルサービスの構築に向け、生活支援コーディネーターと連携しながら地域作りに取り組んでいく。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通じて認知症声掛け訓練や健康測定会、地域ごとに地域ケア会議を開催、地域活動の活性化や地域課題の抽出を行うことが出来た。</li> <li>・障害者基幹相談支援センターや生活・自立仕事相談センター、地域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員や生活支援コーディネーター、行政職等と協力しながらセンターの運営を行った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も地域課題をきめ細かく抽出する為、圏域内を4つに分けて地域ケア会議を開催する。</li> <li>・認知症になっても安心して生活を送れる地域作りの為に認知症サポーター養成講座や声掛け訓練を実施する。</li> <li>・地域住民が自分自身の健康をセルフプロデュース出来るように、健康測定会や介護予防教室を開催する。</li> <li>・福祉や介護の専門職だけでなく、様々な機関と連携を図り、地域包括ケアシステムの深化を図る。</li> </ul>
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のサロンからの要請で、7月に介護保険講座を開催。制度の概要やサービス利用の実情などを説明した。</li> <li>・認定を持っている相談者や委託の居宅介護支援事業所に対して、多方面にわたる社会資源の情報提供を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと共に、各種会議を通じて居宅介護支援事業所から、利用者の生活に必要な新たなサービス創設等について情報共有を図った。</li> </ul>
後期	具体的な取り組み状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・URと公民館からの要請を受けそれぞれ10月と1月に介護保険講座を開催し、住民に対して制度の概要やサービス利用の実情などを説明した。</li> <li>・要支援者や居宅介護支援事業所からの相談に対して、介護保険サービスや、ゴミ出しボランティア、有償サービス、通いの場など社会資源の情報提供を適宜行い、随時関係機関につなげた。</li> </ul>

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	要支援認定者の相談を受けても、予防プランを担当できるケアマネジャーに限られており、迅速な対応が難しくなっている。インフォーマルサービスは経済的な理由や、提供されるサービス内容に偏りがあり生活課題の解決とならないこともあり、新規の相談を受けるたびに心苦しい思いをしている。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険講座などでインフォーマルサービスの活用についての説明を加えることで、介護保険サービスを必要とする人が必要な時に利用できるよう、幅広く周知活動を行う。</li> <li>・行政、生活支援コーディネーター、関係機関と共に、地域特性に応じて住民に必要な社会資源の情報共有を図り、新たなサービス創設の手立てを検討していく。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難病や高次脳機能障害等の疾患の研修や、センター職員の初任者研修に参加し、各自が資質向上に務めた。</li> <li>・朝ミーティング時に全ケーススクリーニングを行い課題把握や継続ケースの進捗を管理し、個別に対応会議も開催した。</li> <li>・区内のあんしん社会福祉士主催で、引きこもり支援センターや障害者基幹支援相談センター等と事例検討会を開催し、意思決定支援について協議した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害や精神疾患等の疾患の研修や、課題別研修に参加し、各自が資質向上に努めた。</li> <li>・前期に引き続き、朝ミーティングにて全ケースのスクリーニングを行うことで、包括3職種間で課題の把握や継続ケースの進捗状況を共有でき、個別に対応会議も開催できた。</li> <li>・社会福祉士連絡会にて、福祉まるごとセンターや医療機関と事例検討会を開催し複合的な課題への対応を協議した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職員が、昨年度よりも多くの研修に参加し、年度当初の目標を上回ることができた。</li> <li>・社会福祉士主催の事例検討会では、前期後期ともに新たな関係機関に参加してもらうことで、相談対応の実情について情報共有を図ることができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化や多文化化が広がることで生じる複合的な課題に対応できるよう、今後も幅広い分野の研修に参加し知見を深めていく。</li> <li>・今後も、ケースごとにスピード感や寄り添い方を変えるなど柔軟な対応を心がけることで、その人らしい生活を取り戻せるような支援をしていく。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア研修会「認知症の人の意思決定支援」を9月21日（再放送を9月28日、29日）に実施。</li> <li>・センターお便り春号、夏号を発行した。</li> <li>・みかんの会の活動に参加し、認知症地域支援推進員全体研修会を6月、認知症サポーターステップアップ講座を8月、9月、認知症カフェ主催者交流会を8月に開催。認知症SOS声掛け訓練を5月に千草台団地で開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア研修会「認知症の人の意思決定支援」の講演を聞いた参加者によるグループワークを10月19日に開催した。</li> <li>・センターお便り秋号、冬号を発行した。</li> <li>・認知症高齢者のジュニア認知症サポーター養成講座を千草台中学校で開催した。</li> <li>・みかんの会活動に参加し、認知症地域支援推進員全体研修会を3月、認知症カフェ主催者交流会第二回を11月、第三回を2月、認知症カフェの開設支援を12月に開催した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア研修会のグループワークでは参加者に意思決定支援の重要性を再認識頂いた。</li> <li>・おたよりの発行、団地の自治会だよりに「千葉市あんしんケアセンター天台」の紹介記事を掲載してもらう等、積極的に情報発信に務めた。</li> <li>・みかんの会の活動に積極的に参加した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度開催の地域ケア研修会で意思決定支援を扱い、基本的人権、自己決定権、尊厳の保持の重要性を啓発する活動の継続が必要と認識した。</li> <li>・基本的人権、自己決定権、尊厳の保持の実現の為、成年後見制度の周知を進めたい。</li> </ul>		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区全体で介護支援専門員対象の研修会を1回、事例検討会を1回、主任介護支援専門員連絡会を1回、自立促進ケア会議を1回、地域ケア会議を1回開催した。</li> <li>・圏域の介護支援専門員連絡会、圏域の介護支援専門員と民生委員の交流会をそれぞれ1回ずつ開催した。</li> <li>・認知症声掛け訓練や圏域の地域ケア会議に主任ケアマネが参加し地域住民との交流の場を作った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区全体で介護支援専門員対象の研修会を1回、事例検討会を1回、主任介護支援専門員連絡会を2回、自立促進ケア会議を1回、地域ケア会議を1回、多職種連携会議を1回開催した。</li> <li>・圏域の介護支援専門員と民生委員の交流会を行い、関係性を深めることが出来た。</li> <li>・圏域の介護支援専門員と連絡会を通じて情報共有や連携を図ることが出来た。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していたことは全て行うことが出来た。また、勉強会や研修会、交流会等にて、主任ケアマネに企画の段階から参加してもらう事で、主任ケアマネが地域支援に積極的に取り組むことが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員向けの研修会、事例検討会、勉強会を開催し、介護支援専門員のスキルアップを図る。</li> <li>・圏域における連絡会や、稲毛区全体での主任介護支援専門員連絡会、自立促進ケア会議、地域ケア会議、多職種連携会議を開催し、介護支援専門員の関係性の強化を図る。</li> <li>・圏域の主任介護支援専門員と共に地域支援についての具体的な取り組み内容を決め実践する。</li> <li>・</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4ヶ月に1度のペースでシニアリーダー体操や自治会サロンに参加し、介護予防のミニ講話を実施した。</li> <li>・5月に都賀公民館にて健康測定会を実施。高齢障害支援課や健康課の協力を得て個別相談にも対応した。</li> <li>・い〜ねの会、グリーンカフェは感染対策をとり、継続出来た。</li> <li>・6月に健康課協力のもとオーラルフレイルについてのミニ講話を実施した。</li> <li>・ヤックストラックにて毎月介護予防や介護保険に関する講座を実施、高齢者向けのスマホ講座も実施した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3〜4か月のペースでシニアリーダー体操やい〜ねの会にて介護予防のミニ講話実施した。</li> <li>・11月に千草台公民館にて健康測定会を実施し、稲毛区保健師職共催にて体力測定やいきいき活動手帳の使い方についての講座も併せて行った。2月にもUR千草台にて天台単独にて企画したが悪天にて中止となった。</li> <li>・ヤックストラックにて毎月講座実施し、かかりつけ薬局についてや冬の健康管理、終活について等のテーマにて開催した。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナが5類へ移行し、様々な活動が徐々に戻るなか、体操教室に参加する人数も増えた。健康測定会やシニアリーダー、い〜ねの会では100冊を超えるいきいき活動手帳を配布し、使い方についての講座も行うなど介護予防のセルフマネジメントに向けた啓発活動が出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会やシニアリーダー体操など地域の集まり等に参加し、随時介護予防やいきいき活動手帳についての周知をする。</li> <li>・健康測定会などの単発イベントを数カ所にて企画し、介護予防に取り組めるようミニ健康講話を実施する。</li> <li>・フレイル予防や閉じこもり予防のため、い〜ねの会とグリーンカフェを継続する。参加者にはいきいき活動手帳の活用支援をし、セルフマネジメントできるよう促す。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター小仲台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小仲台圏域では地区によって町会・自治会の自治意識に差が生じている。自治意識が高い地域(小仲台、穴川)は自助、互助への意識が比較的高く、高齢者同士の助け合いや見守り活動へとつながっている。</li> <li>・自治意識が比較的低い地域(轟町、弥生町)に対しては、コロナウイルス感染拡大を機に地域住民同士の関係性の脆弱化が進み、公助、共助へ依存する傾向にある。また、圏域全体的に民生委員の世代交代も重なり、あんしんケアセンターと民生委員と新たな関係づくりが進んでいる。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も新型コロナウイルス感染予防に留意しつつ、地域住民主体で運営されているサロンや体操教室の後方支援や、当方主催の講座の開催を引き続き実施する。</li> <li>・2025年に向けて、圏域全体で自助、互助への意識をさらに広めていきたい。そのために元気な時からこれからも自立した生活が送れるような具体的課題について住民一人一人が取り組めるように、介護予防普及啓発と合わせて働きかける。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年 度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	地区課題に対し、関係機関と連携しながら計画通りに活動できたため。
	次年度に向 けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体で運営されているサロンや体操教室の後方支援や、当方主催の講座の開催を引き続き実施する。</li> <li>・2025年に向けて、圏域全体で自助、互助への意識をさらに広めていく。住民一人一人が具体的課題について取り組めるように、介護予防普及啓発と合わせて働きかける。</li> <li>・2024年度から各事業所での策定が義務付けられたBCPについても、地域で運用していけるように関係職種と連携を図る体制づくりに努める。</li> </ul>
2 第1号介護予防支援事業				
前 期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座開催、敬老会出席など地域特性に合わせて情報発信の方法を工夫し、介護予防やエンディングサポートなど興味のある分野を選び講演した。</li> <li>・あんしんケアセンター小仲台よりは計画通り発行した。集合住宅や町会、自治会で掲示してもらった他、発行月にあわせて新たに掲示してもらえる場所を所内で確認している。</li> <li>・介護予防活動を継続している団体に半年～1年に1回のペースで基本チェックリスト実施し、事業対象者も多いことから[いきいき活動手帳]の利用を呼びかけ、セルフマネジメント力向上の意義を伝えた。</li> <li>・事業対象者でサービス利用希望があった場合、担当者をすぐ決められない場合でもSC（6月～配置）がインフォーマルサービスでつなげるよう支援している。</li> </ul>
後 期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会や社協祭りをはじめ、コロナ感染に関する制限がなく開催された自治会や自治体のイベントでは、参加者が多世代に渡るため、幅広い方にあんしんケアセンターの普及啓発ができた。</li> <li>・あんしんケアセンター小仲台よりは、予定通り秋号と冬号を発行した。</li> <li>・サロンや体操教室などに出向き、基本チェックリストを行い事業対象者の抽出を行った。稲毛区健康課でフレイル該当者を抽出した際に対象者の情報共有を行い、セルフマネジメントの向上ができるよう当センターからもアプローチした。</li> <li>・今年度の「重点的に活動する」対象地区にあげている轟町2丁目において、10月から集いの場を開催した。月1回の開催が定着し始めている。</li> </ul>

年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	あんしんケアセンター小仲台だよりの発行、セルフマネジメントの向上を目指した サロンや体操教室など介護予防活動を継続している団体への講座の開催など、計画通り実施できたため
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターを中心に地域住民のニーズ把握を行う。そして地域のネットワークを活用し、社会資源の活用や人材発掘などを進め介護保険サービス先行で情報提供するのではなく、インフォーマルサービスや社会活動の場の情報提供ができるよう体制を構築する。		
3 総合相談支援				
年度 総括	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の総合相談窓口として小仲台便り配布、民生委員定例会に対面で出席するなど周知に努めた。</li> <li>・総合相談件数は前年比で135%を超えている。新規相談も平均146件/月と多く、虐待、権利擁護は前年と大きく変わらないが、介護保険の相談や認知症に関する相談が増加傾向にあった。</li> <li>・所内会議で職員のスケジュールやケースについて全職員で共有し、なるべく早い対応日で相談を受けるように努めている。また総合相談で介入が難しい方などへ自宅に投函したり定期訪問の理由付けとしてもお便りを利用し、見守りが途切れないような関わりをしている。</li> </ul>		
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンター小仲台だよりを秋号・冬号を計画通りに発行し、圏域内の主要施設への掲示や、自治会や民生委員へも配布継続した。また総合相談で支援が長引いている対象者宅へお便りを投函し、見守り体制を作った。</li> <li>・総合相談の件数は前年比137%増しで、傾向として独居世帯に関する相談が増加傾向であった。</li> <li>・あんしんケアセンターが相談窓口であるとの周知の為、地域活動への参加、出席を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	・相談内容は所内会議で共有し、どの職員でも早期に対応ができるようにしたため。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンター小仲台だよりを年4回発行を継続する。同時に掲示させてもらえる医療機関や薬局などには、あんしんケアセンターのパンフレットを置かせてもらうよう依頼する。</li> <li>・相談内容を所内会議で毎朝共有し、職員が誰でも対応が行えるようにする。</li> <li>・生活コーディネーターと情報共有し地域住民のニーズに合わせた地域資源の情報提供を行う体制を作る。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のアんしんケアセンター社会福祉士により、5月に高齢、障害分野の関係職種、行政を交えての事例検討会を行った。顔の見える関係性作りに取り組めた。</li> <li>・9月に介護サービス事業所、居宅介護支援事業所に向けて意思決定支援についての1回目の研修を開催した。研修は参加できない方でも録画配信で内容確認できるように開催方法を工夫した。</li> <li>・詐欺被害防止や事案の早期発見ができるように、相談窓口の小仲台よりを活用し周知や普及啓発を行った。</li> </ul>		
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のアんしんケアセンター社会福祉士連絡会では12月に事例検討会を実施した。</li> <li>・前期に引き続き、介護サービス事業所、居宅介護支援事業所にむけて2回目の「認知症の人の意思決定支援」について10月に研修会を開催した。</li> <li>・虐待疑惑に関する情報については行政と情報共有し継続的に見守りを行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	・稲毛区のアんしんケアセンター協働で事例検討会、研修会を開催できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、介護サービス事業所や民生委員に対し消費者被害防止についての研修会を開催する。講師は千葉県警に依頼しており、対面研修で行い顔の見えるネットワーク作りに繋げる。</li> <li>・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、在宅訪問して介護サービスを行う訪問介護事業所が研修の参加が少ない傾向にある為、権利擁護に関する早期発見に繋がるように、形式に限らず新たな周知の方法を検討し啓発活動に努める。</li> </ul>		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が地域で暮らせるようにインフォーマルサービスなどの地域資源の情報収集と、新たな課題について研修会や自立促進ケア会議等で具体的な事例を通して検討した。</li> <li>・地域課題を地域住民で共有するために、重点的活動地区に指定している地区にて地域ケア会議を開催した。</li> <li>・9月に稲毛・小仲台圏域の主任介護支援専門員が集まり、圏域の介護支援専門員との連携を深める方策について話し合った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区内のあんしんケアセンター合同で主任介護支援専門員連絡会の通年で3回開催し、稲毛区の介護支援専門員に配布するケアマネ通信の通年で4回発行、1月は事例検討会開催した。</li> <li>・稲毛、小仲台圏域の介護支援専門員との連携が図れるように、2月に交流会を開催した。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	地域ケア会議の開催、圏域の介護支援専門員との連携のための検討会など、予定通りの活動できたため
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年の超高齢社会を目前に高齢者が介護保険サービスに依存せず暮らしていけるようにインフォーマルサービスの充実、地域住民との課題の共有など、介護支援専門員とともに各関係機関や地域の介護事業所と検討の場を企画、開催する。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に資する講座は27回実施した。</li> <li>・今年度は稲毛区あんしんケアセンターの保健師職で各圏域で体力測定会を開催した。小仲台圏域も9月に開催した。</li> <li>・自主サークルの後方支援は毎月1度必ず訪問し、いきいき活動手帳を使いセルフマネジメントを行う住民には個々に声をかけ、支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会単位の介護予防活動は24回行った。</li> <li>・稲毛区のアんしんケアセンター合同で9月に体力測定を行い、10月に測定結果の振り返りを行った。いきいき活動手帳に測定結果を記入したものと、一般高齢者の平均の値を見比べた。健康課が実施したフレイル調査の結果も含め、自らの虚弱な部分や生活習慣を振り返り、セルフマネジメントについて今一度考える機会を作った。</li> <li>・轟町中学校と千葉大学附属中学校の1年生を対象に、認知症サポーター養成講座を行った。認知症ステップアップ講座受講者と一緒に、認知症の人への対応方法を寸劇を使って示した。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	自治会単位およびいきいきサロンにて介護予防活動を行うなど計画通り実施できたため。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンや体操教室などの集いの場では生活支援コーディネーターと協力しながら、介護予防普及啓発活動を行う。また住民1人ひとりがセルフマネジメントに対する意識をもてるよう「いきいき活動手帳」の交付や説明、モニタリングを行う。</li> <li>・認知症サポーター養成講座については、定期的に開催し幅広い世代へ認知症への正しい理解を伝えていく。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター稲毛			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>圏域における65歳以上の人口は7000人近くとなるも、新しく大型マンションが建設され若い世代の転入も年々増加傾向となり高齢化率は20.5%に留まっている。公共交通機関の利便性が良いことから、利便性を求め、高齢者のマンションへの転入も見受けられる。しかし、転入後世代格差や地域のつながりが築きにくい傾向であったり、地域によっては交流が深められず孤立化していることもある。同居世代でも子世代が就労により日中独居となり、他者との交流がないまま孤立した時間を過ごし、不活動になることもあるため、引き続き地域活動の促進を急務に進める必要がある。相談の大半は介護保険（認定の申請）の問い合わせが多いが、認知症の悩みや金銭トラブル、高齢者虐待の疑いも少なくないため、各関係機関との連携・支援体制が一層必要となっている。</p>			
活動方針 (総合)	<p>地域資源を有効活用し全世代が暮らしやすい地域を創り出す。                  関係機関と連携し、地域住民のニーズ把握から地域課題を発掘する。専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。また地域課題を発掘するために地域ケア会議を実施しネットワークを構築する。高齢者に必要な情報を講座や情報誌等で発信し、幅広く啓発ができるよう進めていく。                  個別訪問を繰り返し、高齢者との信頼関係を構築しながら、自立支援に向けた支援を実施していく。</p>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<p>民生委員や自治会と共に、介護予防教室の必要性を確認し、協力し合いながら開催に向けて準備を実施した。参加者が低迷している理由について意見交換を行い、主に参加率を上げるための課題対策に協力を頂いた。より身近な場所で介護予防教室の開催ができるよう関係機関と話し合い、場所の確保や担い手の確保を検討してきた。</p>
	次年度に向 けた展望	<p>・1人暮らし世帯や高齢者世帯が孤立化しないよう、専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。                  ・圏域の全世代に地域課題やその解決に向けた取組み、介護予防等の情報の発信、啓発を行い速やかに支援が行き届くようにする。</p>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 組み状況	<p>・地域の通いの場に出向き、介護予防普及啓発や地域活動への参加を呼びかける等を行い、高齢者が自ら介護予防に取り組めるような活動を実施した。                  ・要介護状態にならないように、高齢者の置かれている生活状況や心身状況を把握し、適切なサービスが提供されるようケアマネジメントを行った。                  ・いきいき活動手帳の普及や継続的な利用を促進できるようにチラシによる呼びかけや介護予防講座での普及啓発を行った。</p>		
後期	具体的な取 組み状況	<p>・地域ケア会議や地域の通いの場を通して、自治会や民生委員から支援が必要な住民に関する情報提供を受けることが多かった。実際に支援が必要な方を早期発見しサービスに繋げることが出来た。                  ・介護予防・日常生活支援総合事業の利用者に対して、それぞれのおかれている状況を把握し適切なサービスが提供されるよう支援した。また地域の介護予防教室などへの参加を促すよう努めた。                  ・地域の通いの場などに出向き、介護予防の重要性やあんしんケアセンターが介護の相談窓口であることを周知することが出来た。</p>		

年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会や民生委員の協力の下、支援が必要な方を早期発見し、必要なサービスに繋げることが出来た。</li> <li>・地域の通いの場などを通して介護予防普及啓発活動を行う事が出来た。</li> <li>・高齢者の状況に応じて公的なサービスの利用だけでなく、地域資源の活用にも繋げることが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室の開催や地域の通いの場へ参加する。</li> <li>・社会福祉協議会、民生委員、生活支援コーディネーター、自治会、シニアリーダーとともに住民主体の活動を推進する。</li> <li>・自治会や民生委員との情報交換を継続し、支援が必要な高齢者の早期発見と、介護予防の普及啓発を行う。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取 組み状況	毎朝のミーティングや月1回開催の包括3職種会議にて、支援についての意見交換を行い、進行状況の確認や必要なサービスに繋げる為の話し合いを実施。困難事例については高齢障害支援課・民生委員・認知症初期支援チーム等の関係機関と連携し、支援を行うことができた。5月26日稲毛区社会福祉士連絡会主催にて、事例検討会をオンラインを活用し実施。対応に苦慮した困難ケースについて関係機関との横のつながりを意識し、話し合いをすることができた。		
後期	具体的な取 組み状況	毎朝のミーティングで新規相談や継続対応中のケースについて情報を共有し、支援方法の検討や確認を行った。また、月1回の包括3職種会議にでもケースに関する協議を行い、特に終結については包括3職種間で重点的に確認した。支援困難事例は内容によって行政機関や他支援機関、地域住民等と連携を図り、解決へ向けた支援を実施した。社会福祉士連絡会が開催した事例検討会では他支援機関を招き、今後の連携の必要性を確認した。		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	前年度と比較し相談件数が倍近い月もあったが、包括3職種で連携し対応を行った。社会福祉士連絡会では、総合相談における支援ネットワーク拡大を目的として事例検討会を継続的に実施しており、今後増加が見込まれる世帯支援を見据えて、新しく創設された福祉まるごと相談センターやひきこもり相談支援センターとの連携体制が構築できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の包括3職種会議による情報共有、ケース検討、課題抽出と、毎朝のミーティングを行う。</li> <li>・あんしんの周知を主な目的とした健康測定会の実施や各地域行事へ参加する。</li> <li>・社会福祉士連絡会は毎月定例日を設けて実施する。その他に、支援困難ケース検討会を行う。</li> <li>・地域ケア会議、個別地域ケア会議を随時実施する。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月26日に圏域内施設にて認知症SOS声かけ訓練を実施。子どもから高齢者まで幅広い層の参加があり、どこシル伝言板の啓発やGPSの活用、福祉用具の案内を行うことができた。</li> <li>・後期（9・10月）に開催する稲毛区社会福祉士主催の地域ケア研修会「意思決定支援」について、講師や千葉市との連携を図りながら準備を進めることができた。</li> </ul>		
後期	具体的な取 組み状況	稲毛区社会福祉士会で「認知症高齢者の意思決定支援」をテーマにした研修会を開催した。2日間の日程で行い、考え方から実際の支援で活かせる具体的な方法までを取り入れており、意思決定支援の重要性について理解を広めた。次年度に消費者被害防止を目的とした研修会を開催する企画を立案し、講師を千葉北警察署へ依頼する等準備を開始している。虐待等の個別事例については、関係機関と連携しながら対応を行った。		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	権利擁護への関心や理解を深め、実践に活かすための研修会を継続的に実施しており、権利擁護に関する理解が深まった。虐待に関する相談については、高齢障害支援課と連携を密にして対応しており、対象者の重大な権利侵害が予防できた。
	次年度に向けた展望	消費者被害の拡大防止を目的とした研修会を開催し、参加対象者を民生委員やケアマネ等の介護保険事業所職員とすることで、消費者被害に関する理解を深めるだけでなく、対象者を支援する関係者間のコミュニケーションやネットワーク作りの場とする。個別の相談事例については、迅速かつ適切な対応を行い、被養護者だけでなく養護者支援も積極的に行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	稲毛区地域ケア会議は、ケアマネ不足からテーマを「介護難民」に絞り、必要な支援が受けられるよう各機関と話し合い、連携を深めた。すぐに改善とはならないがそれぞれの立ち場で考えられるよう認識を深めた。主任介護支援専門員とは常に連携を図り、研修会や事例検討等年間計画を立て継続した取り組みを実施。圏域内では地域ケア会議を開催し、各自治会での課題を共有し改善へと取り組めるよう話し合い取り組めるよう体制を整えた。	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛区地域ケア会議（12月）「ハラスメント対策」、稲毛区多職種連携会議（10月、3月）「ストップ！介護難民」・「災害が起こった場合に私達専門職は何をすべきか」をテーマに意見交換を実施することができた。</li> <li>・前期に引き続き、稲毛区内の主任ケアマネジャーと共に、稲毛区事例検討会、自立促進ケア会議、ケアマネ研修会、並びにケアマネ通信の発行を企画し、連携を深めることや専門職としての知識を深めることができた。</li> <li>・稲毛東1～4丁目（10月）、稲毛台町（12月、2月）にて、地域ケア会議の実施し、地域の状況に確認した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 昨年度開催できなかった圏域のケアマネ交流会をZOOMにて開催することができた。災害対策に向けてケアマネジャー同士で不安や対策など意見交換を行い、次年度に向けて対策を講じていきたいと意欲をもつことができた。主任ケアマネジャーが参画する研修会なども主任ケアマネジャーとしてのスーパーバイザーを発揮することができた。
	次年度に向けた展望	稲毛区多職種連携会議、地域ケア会議、その他主任ケアマネジャーで企画した会は例年通り目的を持った内容で開催することができているため、引き続き次年度も開催する。圏域内においては、ケアマネ交流会の意見をもとに、災害時の訓練を取り入れる。	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛公民館では「よくばり講座」を開催し、毎月テーマ毎に介護予防普及啓発活動を実施した。昨年度のよくばり講座でのアンケートを基にテーマを設定し実施した。</li> <li>・あんしん黒砂体操ではボランティアを中心に介護予防運動を実施した。チラシによる参加呼びかけや黒砂公民館の協力もあり新規の参加者を増やすことが出来た。</li> <li>・シニアリーダー体操の活動支援やメール登録者には講座案内や健康情報の配信を継続した。</li> <li>・いなげまちづくり研修会や介護予防講座を開催し、いきいき活動手帳の普及や継続的に活用することによるセルフマネジメントを高める取り組みを行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲毛公民館で「よくばり講座」を開催し、創作活動や体操等テーマを決めて介護予防普及啓発活動を行った。</li> <li>・稲毛区健康課やいきいきプラザ、中央介護福祉専門学校との協力を得て、骨密度測定会（3か所）を実施した。個別に健康相談を行うことで健康意識向上に繋げることが出来た。</li> <li>・老人会主催の敬老会に参加し、体力測定や介護予防講座を行った。介護予防講座ではいきいき活動手帳の普及も合わせて行った。</li> <li>・黒砂老人会からの依頼で介護施設についての講座を外部の紹介会社の協力の下行った。その地域のニーズにあったテーマだった為、多くの参加があった。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 地域住民のニーズに合った講座などを開催し介護予防活動を展開できるように努めた。今年度は昨年度に比べると老人会や公民館の文化祭活動が活発でそれらのイベントに参加することが多かった。地域の通いの場に出向き骨密度測定会や体力測定会など開催することで介護予防普及することに繋がった。また介護予防講座への新規参加者を増やし、取り組みを広げることが出来た。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座受講者のアンケートを用いて様々な地域住民のニーズや地域の特性を把握し、介護普及啓発活動を行う。</li> <li>・シニアリーダー体操など住民主体の活動が継続的に行われるように支援する。</li> <li>・介護予防体操や活動について発信し、新規参加者が増えるような取り組みを実施する。</li> <li>・いきいき活動手帳の活用が継続できるような取り組みを行う。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンターみつわ台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの長期化により、高齢者、民生委員の方の地域活動が慎重になり、これまでの繋がりが希薄になる可能性がある。</li> <li>・自治会の数が多く、地域が細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障を来している。</li> <li>・支え合い活動が充実している地域とそうでない地域の差異がある。</li> <li>・地域福祉を推進する次世代の担い手が不足している。</li> <li>・医療、福祉、教育等の各分野間の連携が十分ではない。</li> <li>・エレベーターが設置されていない団地の高齢化が進み、買物等の生活支援を要する世帯が増えている。</li> <li>・コロナ禍により活動を休止していた通いの場(運動やサロン等)の活動が少しずつ再開されているが、未だに休止中の団体がある。感染症を恐れて参加を控えている住民も多い。</li> <li>・孤独死や空き家が目立つ。</li> <li>・令和3年度から令和4年度の1年間においても担当圏域内各町丁において高齢化率が上昇している。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の民生委員、生活支援コーディネーターと連携を図りながら、NPO、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。(今般の感染状況の長期化が生活にどのような影響を及ぼしているのかも加味していく。)</li> <li>・感染症予防を徹底し、地域ケア会議等で、地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の抽出、実行性のある目標立てをする。</li> <li>・高品町や原町等の高齢化率の低い地域との関係性を構築していく。民生委員や地域住民等と協議の場を持ち、課題の把握を行っていく。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<p>新型コロナが5類に移行し、地域活動の機会を次第に取り戻してきた。新規の認知症カフェの創設により、気軽に立ち寄り、相談が出来る場も生まれた。その反面、多様な課題を抱えるケースの増大により、公的制度に繋げることが難しかったり、支援期間の長期化が懸念されることもある。そのため各職種の対応力の向上、チームマネジメントを深化させていく必要性がある。</p>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防の視点と支える視点をより強固にする。介護予防普及啓発活動の継続や複合課題ケースにおける多機関連携を強化する。地域住民や民生委員と地域課題解決に向けた協議の場を重ねる。</li> <li>・包括3職種の共通基盤である相談援助技術の向上を図れる様、日々の実践や研修の機会を重ねる。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座や認知症ステップアップ講座の修了者に声掛けし、自ら出来ることは何かを考えられるよう実現プランシートを用いるなど地域づくりに意欲を高めるられる工夫をした。また、生活支援コーディネーターと民間企業等と連携し、住民主体とした認知症カフェを開催した。</li> <li>・生活支援コーディネーターが収集した地域の情報を介護予防ケアマネジメントに還元する機会が多くあった。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立促進ケア会議では精神的な不安を抱えている方への社会資源等を検討し、新たな交流の場の推進が出来た。</li> <li>・生活支援コーディネーター、地域企業、地域ボランティア団体等と連携を図り、幅広い年齢層の交流を目的とし、みつわちゃんマルシェを開催した。また、地域ボランティア団体の絆が深まるよう支援した。</li> <li>・支え合いの会の定例会に参加し、インフォーマルサービスの情報交換を行い、通いの場の周知等を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<p>社会福祉協議会、民間企業、生活支援コーディネーター等と協力し、地域のボランティア団体と連携を図り、通いの場の立ち上げや継続的な交流の機会を構築することが出来た。</p>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域のケアマネ連絡会及び地域の支えあい団体の定例会などにて、介護支援専門員と地域のリーダーと顔の見える関係を作り、個々のニーズに合わせて、適切なインフォーマルサービスに繋げていく。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携を図り、対象者の心身や環境にあった住民主体の通いの場や交流の会などの地域資源に繋がられるよう努める。</li> </ul>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	昨年度と比べても多様な課題を抱えた相談ケースが増えてきている。ケースごとの交通整理と連携先への繋ぎ、継続的な支援に取り組んでいるケースも多かった。日々のミーティング等でケースの進捗を追っているが、並行して予防の視点及び若年層からの備えに対する普及啓発の必要性があると捉えている。東寺山の出張相談にミニ講座を加え、地域住民に関心を持ってもらえるような工夫をした。	
後期	具体的な取り組み状況	複合的で複雑な相談が増えてきており、高齢障害支援課や警察等の行政機関、サービス事業所等との連携を図りながら支援を行うケースが多かった。毎朝センター内でケースの情報共有を行い、対応する専門職や対応方法等を検討した。また、近隣のスーパーやドラッグストア、コンビニなどにあんしんケアセンターのパンフレットを設置しあんしんケアセンターの周知を行った。	
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 複合的なケース対応が増えてきており、様々な機関と連携を図り支援を行う事ができたが、8050問題が少しずつ増えてきており相談援助力の向上や密な情報共有が求められる。また、あんしんケアセンターを知らない方が多く周知が多いため今後も継続的に周知活動を行っていく。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的かつ複雑な相談が増えてきているので、専門職で情報を共有し、必要に応じケース会議を開催し担当する職種も含めて支援方針を検討しながら対応する。また、行政やサービス事業所等の関係機関と連携が図れるよう、日頃より情報共有を行う。</li> <li>・あんしんケアセンターを周知する為、スーパーやドラッグストア、コンビニ等にパンフレットの設置を依頼する。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	地域で開催されているサロンやカフェに参加し詐欺被害防止や権利擁護の講話を行った。また介護技術の向上を目的とし、認知症の方等に対するの対応力の向上を図った。虐待疑いの通報や相談を受けた際は速やかに行政に報告、相談を行い課題解決に取り組むことができた。若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、相談業務担当者のストレス解消法等を話し合いネットワーク形成・強化を図った。	
後期	具体的な取り組み状況	東寺山県営住宅で終活についてのミニ講座を開催し、認知症になった際の金銭管理や死後の相続、家族信託と成年後見の違いについて周知を行った。地域のシニアリーダー体操教室に参加している高齢者に対し認知症サポーター養成講座を開催し、認知症当事者の気持ちや認知症に対する正しい知識を周知した。若葉区ソーシャルワーカー連絡会では、アンガーマネジメントをテーマとして開催し、よりよい相談援助につながるよう自身のストレス解消方法について学んだ。また、みつわちゃん便りを作成し、熱中症やヒートショック等の周知活動を行った。	
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 感染症対策を行いながら地域で開催されているサロンやカフェに参加し、消費者被害や終活、認知症等のミニ講話を開催することができた。またサロンに参加した際に総合相談に繋がったことがあった。みつわちゃん便りを作成し熱中症やヒートショックなどその季節に必要な情報を地域住民に対して周知することができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者被害が増えているので、支えあいの会や民生委員向けに消費者被害等の講話を開催する。</li> <li>・地域のサロン等で終活についての質問を受けることがあるので、エンディングサポートのミニ講話を開催する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、みつわちゃんカフェで認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい知識と対応方法について周知する。</li> </ul>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	高品ハイツ地域ケア会議を開催後、安否確認時に使用される「無事ですカード」を補充するなど活性化が図れた。地域の居宅介護支援事業所との連携において、総合相談からの継続支援ケースが増えている。そのほとんどが8050問題等の複合課題ケースである。またケアマネジャーが来所した際はケースの進捗状況を確認した。圏域の介護支援専門員連絡会は、ケアマネジャー側もケース対応に追われており、参加が難しいことも増えている。	
後期	具体的な取り組み状況	地域住民が抱えている課題とケアマネジャーが抱えている課題を集約出来るよう、生活支援コーディネーターや関係各所との連携や同行訪問をすることによって、擦り合わせを行った。8050に該当するようなケースがおおよそを占める中で、他機関と連携しながら関わるケースが増えている。	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	各ケース、ケアマネジャーと連携を図っているが、特に複合課題ケースへの関わりにおいては継続的に時間を掛けながら関わる機会が多くなっている。相談援助技術において、確証をもって関わられているか疑問に感じることもあり、より研鑽していく必要性を感じた。
	次年度に向けた展望	若葉区や圏域のケアマネジャー連絡会において、支援を終了したケースの検討や相談援助技術に特化した内容の研修を開催する。 地域の支援者とケアマネジャーの協議の場を持ち、チーム間でのケアマネジメントの質を高めていけるよう努める。		
6 一般介護予防事業				
年度 総括	前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO美助っ人クラブ主催の体操教室の開催に協力し、いきいき活動手帳を用いてセルフマネジメントの手法を伝えた（4月）</li> <li>・地域のサロンに出向き、企業と協働でフレイル予防の啓発を行い、自身にあった運動法を促した。（6月）</li> <li>・健康課とみつわ台公民館との共催で、口腔教室開催及び千葉市における介護予防の取り組みを周知した。（7月）</li> <li>・一体化実施事業を活用し、地域サロンにてフレイル予防の啓発に務めた。また、低栄養対象者の支援として健康課に依頼し、管理栄養士の個別訪問等へ繋げた。</li> <li>・生活支援コーディネーター、地域企業、就労支援団体等と協力し、健康測定会やマルシェの開催の準備を進めている。</li> </ul>	
	後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーター、地域企業、地域ボランティア団体等と協力し、マルシェ開催時に健康測定会を実施。高齢者に限らず、若年層の方にも健康増進を呼びかけることができた。</li> <li>・オーラルフレイル予防のため、サロン、体操教室、施設等へ出向き動画を活用した介護予防啓発を行うことで、口腔機能の重要性を理解し、日常において口腔体操を行っているという声が聞かれるようになった。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	生活支援コーディネーター、健康課等と連携し、高齢者に限らず幅広い年齢層への介護予防啓発を行い、さらに日常でも継続的にできるよう支援を行うことができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課や企業等と連携し、健康測定会等を実施しながら、自治会や地域サロン等へフレイル予防、オーラルフレイル予防を啓発する。</li> <li>・地域のサロンや体操教室に出向き、セルフケアマネジメントの手法を啓発し、地域参加や生きがいがいづくりに繋がるよう、地域資源の情報を住民に提供する。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター都賀		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【都賀の台】 高齢化率は40%台後半を推移しているが徐々に若い世代も流入している。地域住民の介護予防に対する意識が高く、住民主体のサロンや食堂、体操等の活動が盛んだが、単身や高齢世帯は増加傾向にある。</p> <p>【西都賀】 駅から近く商業施設は多数あるが、坂が多く外出の妨げになっている。戸建てと集合住宅が混在しており、集合住宅の高齢者は地域との繋がりが希薄で、問題が深刻化する事がある。</p> <p>【若松台】 高齢化率は40%台後半を推移。同時期に移り住んだ住宅地では、高齢化率が急速に高まりつつある。徒歩圏内に商業施設が少なく交通手段が限られているため、買物等の生活支援を必要とする世帯が増えている。</p> <p>【若松町】 南北に長く、若い世帯と高齢世帯が混在しており、地域全体の結びつきが希薄である。交通量は多いが道路が狭く、歩道も整備されていない地区があり、外出の妨げになっている。</p> <p>【都賀】 駅から近く高齢化率も比較的低いが、単身や高齢世帯は増加している。自治会館が閉鎖された地区もあり、住民の活動拠点の確保が必要になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区ともボランティアやサークル活動の中心メンバーが高齢化し、担い手が不足している。</li> <li>・8050問題等、高齢者のみの相談ではなく、複合的な問題を抱えているケースが増加している。</li> </ul>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑化、複合化した相談に対応するため、高齢者支援以外の様々な関係機関とも連携し、課題の解決を図る。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、介護予防講座や地域の活動団体への支援を行い、地域住民や関係団体とのネットワーク構築を図る。</li> <li>・広報誌を作成して高齢者に必要な情報を発信し、住み慣れた地域で生活が継続できるよう支援する。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、介護予防講座を開催し、関係団体との繋がりを持つことができた。</li> <li>・支援困難ケースでは、関係機関と連携して対応した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の総合相談件数は増加傾向にある。複雑・複合化した多様な相談に対応するため、高齢者支援以外の関係機関とも連携し、課題の解決を図る必要がある。そのためにも、各団体主催の会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行い、連携の基盤を構築する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域の活動団体への支援を行い、インフォーマルサービスの活動定着と、地域住民や関係団体とのネットワーク構築を図る。</li> </ul>
2 第1号介護予防支援事業			
前期 後期	具体的な取り組み状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立促進ケア会議にサービス事業所と参加し、専門職からの助言を得て広く共有し、支援した。（7・9月）</li> <li>・生活支援コーディネーターと情報を共有するとともに、新たな地域の協力者を発掘する等、地域づくりに努めた。</li> <li>・地域住民、利用者のニーズを見極め、公平中立の立場から、情報提供を行い支援した。</li> <li>・センター会議で事例検討し、視野を広げ知識を得る等、職員個々の自己研鑽を図った。（毎月）</li> <li>・介護予防に関する意見交換会に参加した。（4月）</li> </ul>
	具体的な取り組み状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと連携して地域の会合やサロン、体操教室の情報を収集し、地域住民に周知し、地域参加を希望している方へ、同行訪問も行った。</li> <li>・センター内で事例検討を行い、スキルアップに努めた。（毎月）</li> <li>・直営と委託の利用者に適切なサービスが提供されているか確認し、必要な支援を行った。</li> <li>・自立促進ケア会議にサービス事業所と参加し、専門職からの助言を得て広く共有し、支援した。（11月）</li> <li>・介護予防に関する意見交換会へ参加し、関係機関と介護予防の普及啓発に関する情報共有を行った。（12月）</li> </ul>

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターと連携して地域活動に参加し、必要に応じて地域住民に情報提供し、地域住民を地域の通いの場に繋ぐことができた。</li> <li>利用者に対して適切なサービスが提供できるよう、職員のスキルアップを図った。</li> <li>インフォーマルサービスについて、情報量と知識不足により時宜にかなった情報提供ができないことがあった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターとの連携を深化し、関係機関とも連携してインフォーマルサービスの活動状況の把握に努め、適切なサービスの提供に努める。</li> <li>利用者に対し、適切なアセスメントに基づき、公正中立の立場で適正なサービス利用に繋ぐようにマネジメントする。</li> <li>居宅介護支援事業所に委託している利用者について、適切なサービス提供が行われているか確認するとともに、書類管理を適切に行う。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
年度 総括	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取り組み状況</li> <li>適切な総合相談支援のため、毎夕カンファレンスを継続し、相談内容の共有をおこない適切な支援に繋げる。</li> <li>出張相談会を開催する。(若松公民館10月、都賀いきいきセンター1月)</li> <li>複合的な課題のあるケースは、関係機関と個別地域ケア会議を開催する等、連携を図りながら対応する。</li> <li>引き続き、あんしんケアセンターの周知に努める。</li> </ul>		
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取り組み状況</li> <li>毎夕カンファレンスを継続し、相談内容の共有と意見交換を行い、適切な支援に繋げる。</li> <li>出張相談会を開催した。(若松公民館10月、都賀いきいきセンター1月)</li> <li>社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を作成し、高齢者に必要な情報発信に努めた(隔月)</li> <li>出張相談会や区民祭り等、地域に出向き、あんしんケアセンターのリーフレット等で周知した。</li> <li>様々な相談に対して、必要な情報提供を行い、必要に応じて他機関に繋いだ。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎夕のカンファレンスでその日の相談事例と継続している相談の情報共有を行い、対応方法について検討して、職員のスキルアップを図った。</li> <li>社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を作成し、個別訪問や地域の会合時に配布して高齢者に必要な情報提供とあんしんケアセンターの広報に努めた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎夕のカンファレンスを継続し、相談ケースの情報共有と対応方法について専門性を活かして検討し、スキルアップを図る。</li> <li>各種研修会に参加し、OJTを通じて職員全体のスキルアップを図る。</li> <li>支援困難ケースは関係機関と連携して対応する。</li> <li>広報誌の作成を継続し、あんしんケアセンターの周知を図る。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取り組み状況</li> <li>認知症サポーター養成講座を開催した。(都賀いきいきセンター9月)</li> <li>千葉東警察との情報交換会に参加した。(6月)</li> <li>住民主体の教室や利用者宅訪問時に、消費者被害のチラシを配布する等、権利擁護に関する普及啓発、注意喚起を行った。</li> <li>区内5センター共催で若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催した。(6月)</li> </ul>		
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取り組み状況</li> <li>認知症サポーター養成講座を開催した。(山王中学校10月、セクト2月)</li> <li>区内5センター共催で若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催した。(12月)</li> <li>成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワーク協議会に参加した。(2月)</li> <li>地域住民に消費生活センターの消費者被害注意報を配布し、注意喚起を行った。</li> <li>虐待の疑われる事例について、高齢障害支援課と情報共有した。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を開催し、若年層を含む地域住民や一般企業に対して、認知症に関する正しい知識が持てるよう支援した。</li> <li>・消費生活センターの注意報を様々な場所で配布し、権利擁護の普及啓発を図った。</li> <li>・あんしんみつわ台と共催予定の権利擁護に関する研修会は開催できなかった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の早期発見に努め、若葉区高齢障害支援課へ速やかに報告し、連携して対応する。</li> <li>・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活が継続できるよう、住民に対して認知症に対する正しい知識と対応方法について、普及啓発活動を行う。</li> <li>・地域の体操等に参加する際に、消費生活センターのチラシを使うなどして権利擁護の普及啓発を図る。</li> <li>・あんしんみつわ台と共催で、権利擁護に関する研修会を開催し、権利擁護の普及啓発を図る。</li> </ul>
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若葉区5センター共催で若葉区介護支援専門員連絡会を開催した。(6月)</li> <li>・区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員連絡会を開催し、情報共有と研修内容を討議した。(6・9月)</li> <li>・圏域介護支援専門員ネットワーク会議を開催した。(8月)</li> <li>・あんしんケアセンターみつわ台と共催で、圏域の多職種連携会議を開催した。(9月)</li> </ul>
後期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内5センター共催で若葉区介護支援専門員連絡会(12月)、若葉区多職種連携会議(2月)、若葉区定例地域ケア会議(毎月)、区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員連絡会(2月)を開催した。</li> <li>・介護支援専門員からの相談に対し、後方支援を行った。</li> </ul>
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援困難ケースでは、介護支援専門員からの相談に対し、助言や同行訪問等の後方支援を行った。</li> <li>・年度途中から人員配置不足のため、圏域の介護支援専門員ネットワーク会議を開催できなかった。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう地域の介護支援専門員や多職種と連携を図り、事例検討を通じてネットワーク構築できるよう努める。</li> <li>・介護支援専門員からの相談に対して、同行訪問、情報提供、個別地域ケア会議の調整等の後方支援を行う。</li> <li>・民生委員児童委員会や地区社協と連携を図り、地域の課題を把握する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、居宅介護支援事業所にインフォーマルサービスについて情報提供する。</li> </ul>
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若松公民館でフレイル予防教室を月1回開催した。(4～7月)・出張相談時等に介護予防のパンフレットを配布したり握力測定を行い、地域住民の介護予防に対する意識向上を図った。・地域住民立ち上げの体操教室継続のため、後方支援を行った。(ミニデイわかまつ月2回)</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、既存の体操教室の活動状況の把握と、地域の体操教室に出向いて季節毎の注意喚起、感染症対策や地域の情報提供を行い、活動の継続を支援した。</li> </ul>
後期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若松公民館で地域住民を対象にフレイル予防教室を月1回開催した。(11～2月)</li> <li>・介護予防に関する意見交換会に参加した(11月)</li> <li>・あんしん桜木と協力し、住民主体の体操教室の活動支援を行った。(毎週1回・毎月)</li> <li>・住民主体の体操教室に出向き、進行の助言や関係機関に講座を依頼する等、活動が継続できるよう支援した。</li> <li>・出張相談等で介護予防のパンフレットを配布し握力測定を行う等、介護予防に対する意識向上を図った。</li> </ul>

年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若松公民館で毎月フレイル予防教室を開催し、地域資源を活用したり健康課と連携を行うことで、地域住民に対して介護予防についての意識づけに繋がった。</li> <li>・介護予防教室や地域の通いの場で、「いきいき活動手帳」を活用し住民が自立した生活を目ざせるよう支援した。</li> <li>・既存の体操教室を定期的に訪問し、必要に応じて季節毎の注意喚起や権利擁護、介護保険の講座を行い、活動が継続できるよう支援した。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での講座や体操等に参加し、基本チェックリストや「いきいき活動手帳」を活用して、地域住民が自主的に介護予防の意識が持てるよう啓発活動を行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターや若葉区健康課と連携し、地域の介護予防活動が継続できるよう、後方支援を行う。</li> <li>・昨年度の利用者アンケートに基づき、若松公民館でのフレイル予防教室を継続する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、住民活動の拠点として協力いただける場の開拓と活動を希望する住民とのマッチングが円滑に進むよう、後方支援を行う。</li> </ul>

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター桜木		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>①高齢者世帯、独居高齢者が増えるなか、本人、家族、民生委員等からの福祉に関する相談が多くなっている。また、地域差や個人差もあり、内容により時間をかけた対応が必要とされ、関連機関との連携が重要である。</p> <p>②個別ケース相談では、認知症、精神疾患、身寄りのない高齢者、複雑な家族関係、金銭問題、虐待等も絡む複合的な内容に長期的に関わるなか、関係機関や地域との円滑な連携、迅速で細やかな対応が必要である。</p> <p>③福祉活動の支援者が高齢となり、次に引継ぎたくても担い手不足である。</p>		
活動方針 (総合)	<p>①地域の状況に応じた、迅速で丁寧な対応を行い、地域に理解され、信頼される活動を展開する。</p> <p>②地区の特性や抱える課題を、関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムを推進する。</p> <p>③研修会参加、事例検討会等で職員の援助技術の向上を図る。また、個々の総合相談に対し、必要時は地域住民と協働し、関係機関との連携を迅速に図り活動する。</p> <p>④自然災害や感染症、不審者等不測の事態の発生に備え、適切な運営ができるよう職員間、関係機関との連絡、連携体制を整えておく。</p>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由
	次年度に向 けた展望	<p>地域の会合等が増え、積極的に参加することができた。コロナ感染症拡大前と開催頻度などが同様になってきたが、集合参加、ハイブリッド方式参加等状況に応じて対応することができた。地域住民の相談等、迅速に対応し、必要に応じ関係機関と連携を図り対応することができた。困難事例については時間をかけて対応し、行政、関係機関との情報共有、連携を図り長期的な支援体制を継続している。不測の事態に備えた連携体制を検討することができた。</p> <p>①支援内容や状況に応じ複数の職員体制で対応し、迅速で丁寧な活動を展開する。</p> <p>②地域の特性や抱える課題を、関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムを推進する。</p> <p>③研修会の参加、事例検討会等で職員の援助技術の向上を図る。また、個々の総合相談に対し、必要時は地域住民と協働し、関係機関との連携を迅速に行動する。</p> <p>④自然災害や感染症対策、不審者等不測の事態発生に備え、適切な運営ができるよう職員間、関係機関との連絡、連携体制を整え継続していく。</p>	
2 第1号介護予防支援事業			
年度 総括	前 期	具体的な取 り組み状況	<p>①委託事業所、または利用者からの相談には迅速に対応し、状況に応じ訪問や会議を行う等支援した。②自立促進ケア会議に参加し（7月、9月）事例提供を行った。③生活支援コーディネーターの資源把握に情報提供し、地域会合（5月2か所、6月2か所、9月）に参加し、介護保険、生活支援コーディネーターの役割、緊急通報装置設置の周知活動を行った。④住民主体型サービスについては継続して支援している。⑤「気楽に桜木」（毎月第3水・第1土）「本人ミーティング」（5月、7月、9月木）を実施した。</p>
	後 期	具体的な取 り組み状況	<p>①委託事業所、利用者からの相談（ケアマネジャー交代）には迅速に対応し、状況に応じ訪問や会議（2件）を行う等支援した。②自立促進ケア会議に参加し（11月）事例提供を行った。③生活支援コーディネーターの資源把握に情報提供し、地域会合（2月2か所）に参加し、介護保険、生活支援コーディネーターの役割、緊急通報装置設置の周知活動を行った。④住民主体型サービスについては継続して支援している。（毎週金）⑤「気楽に桜木」（毎月第3水・第1土）「本人ミーティング」（11月、1月、3月木）を実施した。3月は、動物公園にて開催し支援した。また、千葉市家族介護者研修交流会を企画し支援した。（2月）</p>
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由
	次年度に向 けた展望	<p>具体的な取り組みについては、迅速に対応することができた。その他生活支援コーディネーターと地域会合に参加し、交流を深めることができた。また、講演会の依頼も増え対応した。生活支援コーディネーターと「気楽に桜木」、「本人ミーティング」の継続を支援し、家族介護者交流会を初めて開催することができた。</p> <p>①委託先居宅介護支援事業所からの相談や会議等で、介護予防ケアマネジメントについて千葉市介護予防ケアマネジメント手引き（第2版）に基づき支援する。②千葉市自立促進ケア会議に参加し事例提供を行い、実践力を養う。③生活支援コーディネーターの地域資源把握に協力し、周知活動や情報提供を支援する。④住民主体型サービスの支援を継続する。⑤「気楽に桜木」「本人ミーティング」を継続して支援する。</p>	

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努めた。②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化した。③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要に応じて個別事例の地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努めた。④あんしんケアセンターから遠い地域は、加曽利公民館等で出張相談を行った。(4月、6月、8月) ⑤終活相談には、冊子等渡して対応した。	
後期	具体的な取り組み状況	①施設内の研修は、動画研修等を活用して定期的に行っている。その他研修会にも積極的に参加し、援助技術の向上に努めた。②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化した。(安否確認、困難事例等) ③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等をもらい、必要に応じて個別事例の地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努めた。④あんしんケアセンターから遠い地域は、加曽利公民館等で出張相談を行った。周知活動等工夫しているが、相談件数は少ない。(1件)(10月、12月、2月開催) ⑤終活相談では、成年後見制度に繋ぐことができた。(3件)	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 施設内外の研修会には積極的に参加した。総合相談では、長期的な困難事例や安否確認の相談に対し、関係機関への連携と共に、複数体制の職員で関わることで迅速に対応することができた。困難ケースについて、関係機関との相談、アドバイスをもらい、丁寧に対応した。センターから遠い地域への出張相談は、相談件数は少ないが今後も継続して開催する。
	次年度に向けた展望	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努める。②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化する。③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要に応じて個別事例の地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努める。④あんしんケアセンターから遠い地域は、公民館等で出張相談を行う。⑤終活相談では、本人、家族のニーズに対応しながら、民間企業と協働し支援する。	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心に、ソーシャルワーカー連絡会を開催した。(6月) ②5センター合同で東警察署との情報交換会を開催した。(6月) ③高齢者虐待については、関係機関と連携や弁護士等からのアドバイスをもらいながら、継続して慎重に関わっている。④消費者被害を防止するため、情報を把握し、介護支援専門員に向け情報提供を行った。特にグリスロの走行について地域住民への周知に努めた。(8件) ⑤認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深めた。(桜木公民館6月)	
後期	具体的な取り組み状況	①社会福祉士を中心に、ストレスマネジメント(アンガーマネジメント)について学んだ。(1月) ③高齢者の虐待については、高齢障害支援課、居宅介護支援事業所等関係機関と連携を図り、適宜情報共有を図ることができた。④消費者被害防止のため、情報等についてはタイムリーに圏域内居宅介護支援事業所に提供することが出来た。(5件) ⑤認知症サポーター養成講座(若葉区こどもカプロジェクト)を開催し、認知症に対する理解を深めた。(貝塚中学校1月) ⑥成年後見制度の活用について相談しながら対応した。(3件)	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 ソーシャルワーカー連絡会では、仕事上の抱えるストレスに向き合うことができた。高齢者虐待については、高齢障害支援課、ケアマネジャーと連携を図りながら対応し、長期にわたる対応となっている。成年後見制度の利用についての相談に関わり、迅速に対応ができた。
	次年度に向けた展望	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心に、ソーシャルワーカー連絡会を開催し連携と専門知識の向上を目指す。②5センター合同で東警察署との情報交換会を開催する。③千葉県高齢者虐待防止マニュアルに沿って、関係機関と対応する。④成年後見制度の利用促進に取り組み、適切な利用に繋がられるよう、関係機関との連携を図る。⑤消費者被害を防止するため、情報を把握し地域住民、介護支援専門員等に向け情報提供を行う。	

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区地域ケア会議については、後半実施に向け進行中である。②5センターでの定例地域ケア会議、自立促進ケア会議は、ハイブリッド形式や集合形式で行うことができ、情報共有を図ることができた。③小さな圏域（桜木、千城台、大宮台）での多職種連携会議は、オンラインで行うことができた。（9月）④生活支援コーディネーターとの連携を図り社会資源の情報を活用することができた。⑤介護支援専門員の支援として、5センター合同で研修会（5月）を開催した。居宅介護支援事業所の事例検討会に参加した。（7月）⑥認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深めた。（桜木公民館6月）	
後期	具体的な取り組み状況	①5センター合同での若葉区地域ケア会議をハイブリッド形式で開催した。（11月）②定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催した。その他自立促進ケア会議（11月）、若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議（3月）に参加した。③若葉区多職種連携会議をオンラインで開催した。（2月）④生活支援コーディネーターとの連携を強化し、社会資源、資源開発等の情報を共有した。また、活動の協議体に参加した。（2月）⑤介護支援専門員の支援として研修会開催（1月）や居宅介護支援事業所の事例検討会（2箇所）に参加した。個別地域ケア会議を相談時迅速に対応した。（3件）⑥認知症サポーター養成講座を開催し、担当圏域の中学生向け講座（若葉区こどもカプロジェクト）を実施した。（1月）	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 5センター合同の定例地域ケア会議、自立促進ケア会議は、予定通り開催することができた。若葉区地域ケア会議、若葉区多職種連携会議、若葉区生活支援コーディネーター第一層協議体会議等予定通り参加することができた。介護支援専門員の支援について、研修会の開催や、事業所開催の事例検討会を支援し、個別地域ケア会議を開催して介護支援専門員の支援に努めた。
	次年度に向けた展望	①5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催し、地域課題の検討、情報共有を図り、地域ケア会議としての役割を果たすようにする。その他自立促進ケア会議、年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議とする。②在宅医療・介護連携支援センターの支援を受けながら多職種連携会議を開催する。③認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を図る。担当圏域の中学生向け講座（若葉区こどもカプロジェクト）を実施する。④生活支援コーディネーターとの連携を強化し、社会資源、資源開発等の情報を積極的に活用する。⑤介護支援専門員に対し研修会開催や居宅介護支援事業所の事例検討会、困難事例に助言等行い支援する。	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	①行政の一般介護予防を地域に紹介、普及啓発活動を実施した。（小桜薬局にてフレイル予防講演会8月、10月）②シニアリーダー体操を支援し、地域住民に広報活動を行った。③地域の体操教室を、継続してあんしんケアセンター都賀と合同で支援した。④都賀コミュニティーセンターにおいて、出張相談会を実施した。（9月）若葉区民祭りは、あんしんケアセンター桜木が中心となり、開催に向けて準備中である。⑤生活支援コーディネーターからの情報提供から支援に繋げることができた。（グリス口走行開始、ゴミ捨て等）⑥看護職会議に参加し、連携を図っている。（4月）	
後期	具体的な取り組み状況	①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行った。（小桜薬局にてフレイル予防講演会（12月、2月））②シニアリーダー体操教室の支援（毎月）や地域住民への広報活動を支援した。（3月2か所）③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で継続して支援した。④都賀いきいきセンター祭り等で広報活動に努めた。（1月）若葉区民祭りが開催され参加した。（11月）⑤生活支援コーディネーターの情報から必要な情報を適宜提供できた。（ゴミ出し、動物引き取り事業）⑥若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加した。（12月）5センターの保健師、看護師で、口腔ケアのビデオを作製し、口腔体操の大切さを広めた。（3件）	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 小桜薬局では、フレイル予防について紹介することができた。口腔ケアのビデオも積極的に見てもらい、普及啓発に努めた。シニアリーダー体操については積極的に参加し、情報提供に努めた。地域の体操教室、都賀いきいきセンターでの介護相談についても継続して支援することができた。
	次年度に向けた展望	①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行う。②シニアリーダー体操教室の支援や地域住民への広報活動を実施する。③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で支援する。④区民祭り、都賀コミュニティー祭り、都賀いきいきセンター祭り等で広報活動に努める。⑤生活支援コーディネーターの情報から必要な情報が適宜提供できる体制を整える。⑥小桜薬局でフレイル予防の勉強会を継続する。⑦若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加し、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」について連携する。	

# 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター千城台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【担当圏域概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉都市モノレール沿線や御成街道沿いの地域は人口密度が高く、圏域総人口の約9割が居住、郊外の更科地区が田畑が多く農業が盛んだが、人口密度の低い地域に分類される。</li> <li>圏域総人口、高齢者人口ともに近年は減少傾向だが、千葉都市モノレール「千城台北駅」「小倉台」駅周辺は住宅が整備され、平成15年度と平成30年度の比較で夫々、年間約7万人、約11万人の駅利用者が増加している。</li> <li>千葉都市モノレール「千城台駅」は上記期間の比較で、年間利用者が約18万人減少、通勤通学でモノレールを利用する世代が激減、令和2年以降は小学校5校が3校に統廃合される等、少子高齢化が顕著となっている。</li> </ul> <p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度高齢者実態調査では、1,358人の単身高齢者が居住、令和2年9月の75歳以上単身高齢者割合が19,2%で、地域との結びつきが希薄な高齢者も多く、コロナ禍における外出や交流機会の減少による社会的孤立も散見されており、認知症やうつ等が顕在化する前の早期発見、早期介入が課題である。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々多様化、高度化する総合相談に対応するため、包括3職種の専門性を高める。また関係機関と連携を図りながら支援を必要とする高齢者などの個別課題の解決を図りつつ、地域包括ケアシステムの深化を図る。</li> <li>コロナ禍における地域活動の縮小、フレイルの発生といった現状に対して、地域住民が介護予防や健康づくりに関心を持つことで、積極的な自立支援、重度化防止を促す取り組みを行う。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談は包括3職種が個々の相談内容を共有しながら進捗状況の管理を行い、居宅介護支援事業所、医療機関、地域団体等と連携しながら対応することができた。</li> <li>適切な感染対策を行い介護予防活動等を再開、直営体操教室や地域サロン訪問、体力測定会等を行い、健康づくりに関する意識付けを行うことができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々多様化、複雑化する総合相談は包括3職種が個々の専門性を活用しながら課題解決に向けて必要な支援が行えるよう、関係機関と連携の上、対応する。</li> <li>センター主催の健康づくりの場の充実や情報発信、介護予防に関する普及啓発、地域団体が行う活動への支援を実施し、健康寿命の延伸が図れるよう支援を行う。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1号介護予防支援利用者が、生きがいを持って自分らしい生活を続けられるよう、また自立支援につながるよう介護予防ケアマネジメントを行った。また、委託した地域のケアマネジャーに対しても、助言・情報提供を行った。</li> <li>前年度作成した口腔体操動画や既存の地域の通いの場が、インフォーマルサービスとして活用されセルフケアマネジメントにつながるよう、利用者およびケアマネジャーに情報提供した。また、インフォーマルサービス提供者側との連携を深めた。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までに作成した“若葉食べよう体操”や“これくらいやらなきゃな体操”が、インフォーマルサービスとして認知され、活用されるように、利用者だけでなく、ケアマネジャー・介護サービス事業所への啓蒙活動を行った。</li> <li>利用者本人がセルフケアの意欲を持ち、自立につながるよう介護予防マネジメントを行った。また、委託のケアマネジャーに対しても、助言や情報提供を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<p>介護認定率が上昇している現状の中で、要支援者が自立につながったり、インフォーマルサービス・民間サービスにつながるケースは増えなかった。</p> <p>介護申請における認定までの期間の遅延やケアマネジャー不足のために、支援の停滞があった。</p>
	次年度に向 けた展望	<p>介護予防ケアマネジメントの中にインフォーマルサービスや民間サービスが浸透し、利用者本人が自立への意欲を持ってセルフケアができるように支援する。そのために、地域高齢者に対してセルフケアマネジメントの啓蒙活動を行ったり、インフォーマルサービス・地域資源の充実や情報発信を行う。また、地域のケアマネジャーに対しても、介護予防・自立支援に関する知識を深め、実践できるよう、ICTを活用しながら情報提供・連携を深める。</p>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若葉区内の相談員連絡会を開催し、各職種の相談員が日常の業務での悩みや解消方法を共有し相互的に交流を行った。</li> <li>・口腔機能動画の普及活動と連携し、社会資源マップ作成のため薬局に出向き活動報告と講座協力の案内を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと協同し、マチナカ菜園・小倉ファームの活動状況の確認を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防・社会資源の把握の目的と合わせ、社会資源マップ作成と出張講座のご案内で介護施設や通所施設に出向き、周知活動と次年度に向けた講座開催の協力体制を整えた。</li> <li>・若葉区内の相談員連絡会を開催。相談員のメンタルヘルスについて考え・解消に向けた取り組み過程を共有した。</li> <li>・高齢・障害・司法・医療等の分野と協力し、多問題ケースに対し連携して対応を行った。</li> </ul>	
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 今年度は地域の社会資源への周知活動で直接出向き話した事で、改めてあんしんケアセンターの周知と医療・介護施設での相談や利用者層の実情を伺う事ができた。講座の開催も反響が大きく、既存の社会資源と他分野の既存の社会資源と繋ぐなど地域に向けた発信が行えた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設などへの講座案内の反響から個別講座の開催を計画し、定期開催に向けて認知症サポーター養成講座などの権利擁護事業などとも連携しながら進める。</li> <li>・若葉区内の相談員連絡会を継続し、各相談員が主体性をもって柔軟にソーシャルワークが行えるような基礎作りを行い医療・介護・障害・司法などのあらゆる分野への連携により相談幅が上げられるよう努める。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を更科中学校、千城台高校剣道部（ステップアップ講座）、地域ボランティア会において開催した。</li> <li>・虐待（疑い含む）ケースの相談時には、行政機関や医療機関、各事業所等の関係者が集まり、情報共有や検討会の開催を行い適宜連携した。また、司法専門職との関係性を構築し、成年後見制度の利用や相談につなげた。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を千城台西中学校、市新人職員向けに開催した。また、次年度開催に向けて圏域内の病院、薬局、施設、サービス事業所を回り、認サポや成年後見制度の講座開催の案内を行った。</li> <li>・司法関係者とのネットワークを構築し、個別ケースにおいて協力して取り組むことができた。</li> <li>・消費者被害に関する情報をセンター内に掲示し、被害防止に努めた。</li> </ul>	
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 認知症サポーター講座では当事者を招いたり、グループワークを取り入れる工夫をした。個別ケースにおいて司法専門職と連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用につなげることができた。その過程においてエンディングサポートの必要性を感じた。高齢者虐待や消費者被害の発見時には関係者と連携し速やかに対応することができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症になっても住み慣れた街で暮らしていけるよう地域住民や学校、関連機関に対して認知症の正しい理解や成年後見制度等の普及啓発活動を行う。</li> <li>・エンディングサポートの取組みとして、エンディングノートの活用や講演会を開催する。</li> <li>・高齢者虐待や消費者被害の早期発見に努め、発見時には速やかに情報を確認し関連機関と連携し対応する。</li> </ul>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅向けの研修情報や、多職種連携や地域ケア会議の参加周知を例年通り継続して行った。介護予防支援又は介護予防ケアマネジメントについての自立促進に向けた社会的自立支援を居宅介護支援が行えるよう参加してもらった。</li> <li>・地域密着型サービスの運営推進会議の開催状況に鑑みながら、都度検討を行ったものの交流の場の企画にまでは至らなかった。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域の居宅介護支援事業所などに対して連絡会を、ケアマネジメントに関する内容での情報交換や、他機関との連携などを具体的な事例を活用しながら開催した。</li> <li>・地域密着型サービス事業所などの運営推進会議などを通じて地域の社会資源と事業所間の交流をボランティアなどのコーディネートを生活支援コーディネーターを中心に行うことができた。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	仕事相談や基幹相談など、多制度・他分野・多職種との具体的な連携を事例を通じて情報交換などを行うことができた。 地域密着型サービス事業所の地域での活動のため、地域のボランティアの受け入れや、地域活動をしている社会資源への交流などを促進することができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談の各機関と、居宅介護支援事業所などの連携を深める研修会を次年度も企画しつつ、居宅介護支援の現状をアンケートを実施し情報収集を行い事業所間の交流を促進できる支援する。</li> <li>・地域の社会資源や地域密着型サービス事業所などと居宅介護支援などの相談機関が、より地域生活に密着した支援ができるようネットワーク作りを推進する。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や地域団体と連携しながら地域高齢者に介護予防体操教室や講話会を開催し、介護予防の啓蒙・社会参加の場の提供を行った。また、生活支援コーディネーターと連携し、地域の活動の場の活性化に努め円滑かつ効果的に継続されるよう支援した。低栄養予防、セルフケア・セルフケアマネジメントの知識の普及啓発の一環として“若葉食べよう体操”の普及を関りのある地域資源に加え、関りの少ない地域資源に対しても行った。また継続支援としてICTを活用した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に介護予防教室を開催するとともに、既存の地域の活動の場に対し啓蒙活動を行った。</li> <li>・“若葉食べよう体操”に加え、“これくらいやらなきゃ体操”を制作。セルフケアにつながるように地域高齢者に提供するとともに、地域の医療機関や民間事業所に情報提供と連携のお願いをした。</li> <li>・定期的に体力測定会や介護予防教室を開催し、高齢者がセルフケアの知識を深められるよう支援した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	直営の介護予防体操教室参加者に対し、アンケート調査を実施。体操教室の満足度は高い。“これくらいやらなきゃ体操”は自宅でのセルフケアにつながり、身体に効果を実感できている高齢者も少なくなかった。 地域の医療機関や民間事業所との連携が深まった。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>若葉区内あんしんケアセンターと協働し、“若葉食べよう体操”の評価を行う。利用者に対し、アンケート調査を行うとともに、体操動画の評価・見直しの検討を行う。</li> <li>“これくらいやらなきゃ体操”に関し、定期的にアンケート調査・評価を行うとともに、他の体操メニューも検討する。</li> <li>圏域内の施設や店舗などにも、介護予防に関する情報提供を行い、連携を図る。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター大宮台		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【地区概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若葉区でも面積の広い地域であり、農業が盛んで集落が点在している地域特性がある。</li> <li>・高齢化率46%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方も増えている。</li> <li>・圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くない。</li> </ul> <p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。複合的な問題を抱えたケースの相談が増えている。</li> <li>・買い物や通院、集いの場に出かける際に利用できる移動手段の確保が困難である。</li> </ul>		
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。</li> <li>・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療・介護に関する情報収集や相談支援を行い、医療機関や介護サービス事業者等の高齢者に関わる様々な資源が協働できる体制づくりに取り組む。</li> <li>・コロナ禍においてもICT等を活用することで、関係機関と連携しながら、会議等の開催や地域活動の支援を行う。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 相談件数が増加し、支援困難事例も多くなっているが、包括3職種が連携して対応した。地区部会や民生委員等と相談しながら、地域での介護予防に関する説明会を多く開催することができた。連絡会や会議等についても、区内あんしんケアセンターや在宅医療・介護連携支援センター等と連携し、ICT等を活用しながら、状況に応じた方法で開催できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの体制が変わるので、改めてチームアプローチを実践できるように取り組む。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症は落ち着きつつあるが、感染症や災害の発生等の緊急時においても、事業を継続できるように体制の構築に努める。</li> </ul>	
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターとともに、社会資源や地域の活動状況の把握を行った。地域住民や介護支援専門員等からの相談に対し、ごみ出し支援や移動販売、認知症カフェ、自主サークルの利用につなげる等の支援を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、社会資源や地域の活動状況を把握・共有しながら、適切な事業や活動につなげた。大宮いきいきセンターを訪問し、活動状況や利用者について情報交換を行った。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 適切なアセスメントを行い、適切な事業や活動につなげ、公正・中立性の確保に努めた。しかし、介護支援専門員の不足で、認定が出ても担当ケアマネジャーが見つからないためすぐにサービス提供をすることが出来ないことがあった。第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、社会資源や地域の活動状況を把握・共有することができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携して社会資源や地域の活動状況を把握・共有する。また個々のニーズにあった適切な事業や活動につなげるように努め、廃用症候群や閉じこもりの予防を図る。</li> </ul>	

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種が連携して対応し、継続・終結を含めた進捗管理を行った。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも連携して対応した。認知症初期集中支援チーム員会議に出席した(6回)。</li> <li>・桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(9月)と第1回若葉区介護支援専門員連絡会(5月)、第20回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(6月)をオンライン形式で開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種が連携して対応し、継続・終結を含めた進捗管理を行った。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも連携して対応した。認知症初期集中支援チーム員会議に出席した(6回)。</li> <li>・若葉区多職種連携会議(2月)と第2回若葉区介護支援専門員連絡会(1月)はオンライン形式で開催し、若葉区地域ケア会議(11月)と第21回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(1月)はハイブリット形式で開催した。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	相談件数は新規・延べとも増加した。支援困難事例が多く、包括3職種や関係機関と連携して対応した。またコロナの影響で令和2年度より開催が出来なかった「よろず亭」での出張相談については検討の結果、仕切り直すこととした。連絡会や会議等は、ほぼ計画通り実施できた。認知症初期集中支援チームに依頼したケースは少ないが、チーム員会議には毎回出席した。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種の専門性を活かしたチームアプローチを実践する。また、関係機関とも連携を図る。</li> <li>・会議や連絡会等については、区内あんしんケアセンターや在宅医療・介護連携支援センターと連携し、状況に応じた方法で開催する。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待相談ケースについては、包括3職種や関係機関と連携して対応した。第20回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(6月)をオンライン形式で開催した。区内センター社会福祉士会議を開催した(2回)。</li> <li>・千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会(6月)をハイブリッド形式で開催した。生活安全課へは、代表センターのみ挨拶に行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待相談ケースについては、包括3職種や関係機関と連携して対応した。困難ケースについては、高齢支援班や健康課、社会援護課等と相談や同行訪問等、連携して対応した。</li> <li>・第21回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(1月)をハイブリット形式で開催した。区内センター社会福祉士会議を開催した(1回)。</li> </ul>		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	虐待や困難なケースについては、包括3職種で連携し、高齢支援班の助言・協力を得ながら対応できた。虐待相談は今年度は例年に比べて少なかった。若葉区ソーシャルワーカー連絡会は区内センター社会福祉士が連携して開催できた。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会もハイブリット形式で開催できた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種や関係機関と連携して対応する。権利擁護について様々な場面で普及啓発を行う。</li> <li>・若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、区内センター社会福祉士と連携し、内容や状況に応じた方法で開催する。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会については、千葉東警察署生活安全課と相談して開催方法を検討する。担当センターとして、4月に生活安全課へ挨拶に行く。</li> </ul>		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カスタマーハラスメントへの対応と、社会資源との連携」をテーマに、第1回若葉区介護支援専門員連絡会(5月)をオンライン形式で開催した。区内センター主任介護支援専門員会議を開催した(3回)。</li> <li>・個別事例の地域ケア会議(2回)と定例地域ケア会議(4回)を開催した。桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(9月)をオンライン形式で開催した。自立促進ケア会議(7月・9月事例提供)に出席した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内介護支援専門員対象の情報交換会(10月・3月)を開催した。第2回若葉区介護支援専門員連絡会(1月)をオンライン形式で開催した。区内センター主任介護支援専門員会議(2回)と管理者会議(1回)を開催した。</li> <li>・個別事例の地域ケア会議(1回)と定例地域ケア会議(4回)を開催した。若葉区地域ケア会議(11月)をハイブリット形式、若葉区多職種連携会議(2月)をオンライン形式で開催した。自立促進ケア会議(11月事例提供)に出席した。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	連絡会や会議等は、ほぼ計画通り実施できた。前期に加え、自立促進ケア会議、若葉区支え合いのまち推進協議会、地域密着型サービス運営推進会議(出席21回)、千葉市生活自立・仕事相談センター若葉主催支援調整会議(1回)、SC若葉区第一層協議体、高齢者保健福祉相談ネットワーク連絡会に出席して連携を図った。白井地区地域ケア会議は未開催となった。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会や情報交換会等の開催及び個々のケース対応のサポートにより、介護支援専門員のスキルアップを図り、お互いに相談し合える関係づくりを支援する。</li> <li>・区内あんしんケアセンターや在宅医療・介護連携支援センターと連携し、状況に応じた方法で会議や連絡会等を開催する。関係機関が開催する会議等に出席して連携を図る。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主サークル9カ所の後方支援を行った(36回)。口腔体操の普及啓発のため、4カ所に動画DVDを配布した。</li> <li>・410地区民生委員定例会、若葉いきいきプラザ生きがい活動支援通所、新宮田自治会館でのふれあいサロン、川井団地自治会敬老会、シニア体操高根、白井地区部会、大宮いきいきセンターにて説明会を行った。青空のびのび講座(8月)を開催した。白井中学校にて認知症サポーター養成講座(5月)を開催した。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主サークル8カ所の後方支援を行った(26回)。口腔体操の普及啓発のため、4カ所に動画DVDを配布した。</li> <li>・第一和楽会、第三和楽会、千城小地区部会、白井地区部会(2回)、白井地区部会いきいきサロン豊和会にて説明会を行った。あんしんいきいき測定会(12月)と青空のびのび講座(12月)を開催した。大宮中学校にて認知症サポーター養成講座(12月)を開催した。若葉区民まつり(11月)に参加し、普及啓発を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	自主サークルには定期的に訪問して後方支援を行った。口腔体操動画を活用し、フレイル予防・低栄養防止に努めた。地域での説明会は多く開催することができ、中学生に向けた認知症サポーター養成講座も開催できた。若葉区介護予防事業に関する意見交換会や若葉区シニアリーダー連絡会に出席して連携を図った。「お達者カフェ」は終了とした。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル予防に向けて作成した、口腔体操に関する動画の普及啓発を行う。アンケートを実施し、評価・再検討を行う。</li> <li>・認知症や介護予防に関することなど、住民や中学校の要望に沿った講座を行う。認知症サポーター養成講座については、幅広い世代に向けて開催できるように検討する。</li> <li>・自主サークルやその他自主活動組織の後方支援を行う。若葉区民まつりに参加し、普及啓発を行う。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター鎌取		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	当圏域の高齢化率は市内で最も低いものの、高齢者人口の増加率は最も高い。40代から50代の層が多いことから、今後は急速に高齢化が進んでいく一方、交通アクセスの良さ等から今後も人口の増加が見込まれている。圏域内には連帯意識の希薄化が散見される地域と、従来の地縁関係が残り、住民同士の結びつきが強い地域も数多くみられる。人口構成や連帯意識など地域特性は様々であるが、こうした中で地域包括ケアシステムの構築を目指していくためには、地域特性を踏まえた介護予防や生活支援に関する受け皿、個々の生活状況に応じた住民主体の通いの場が必要である。住民同士の結びつきを強めながら高齢者が安心して生活ができる体制の構築を推進していくことが重要である。		
活動方針 (総合)	①多職種連携や多職種協働による地域ケア会議を開催しながら、高齢者の課題解決に向けた支援を行うとともに、地域包括ケアシステムの構築を目指す。 ②地域住民の自主的な活動が活発に行われるよう、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携を図る。 ③コロナ禍や自然災害の際にも切れ目なくサービスを継続できるように、事業継続計画（BCP）を作成する。		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 ・困難事例に対する地域ケア会議を積極的に開催することができたため。 ・地域の体操教室やサロン、見守り活動を行っている団体に対し、生活支援コーディネーターと連携を図りながら、積極的にアウトリーチを図り、地域の代表者や参加者との関係性を構築することができたため。
	次年度に向けた展望	地域ケア会議を開催しながら、住民構成により変化する地域課題の共有や解決方法について検討を重ねると共に、地域の活動団体へアウトリーチを積極的に図りながら、地域包括ケアシステムの深化・推進を図る。	
2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	要支援認定者に対する相談対応においては、総合事業や介護保険予防給付に関わる情報提供だけではなく、セルフケアや地域の社会資源についての情報提供を積極的に行いながら、介護予防に取り組めるよう努めた。	
後期	具体的な取り組み状況	総合相談利用者や介護予防ケアマネジメント利用者、委託プランを担当する介護支援専門員に対し、生活支援コーディネーターと連携し住民主体の通いの場等、地域におけるインフォーマルな情報や生活支援サイトに関する情報を提供し、利用の提案に努めた。	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 介護保険サービスや高齢者在宅支援サービスなどの公的サービスのみならず、インフォーマルなサービスにおいても提案をする事で、個々のニーズに合わせた自立支援に結び付けることができたため。
	次年度に向けた展望	高齢者自らが介護予防サービスやインフォーマルサービスなどの利用を、自身の選択に基づき行えるよう、生活支援コーディネーターと連携し、個々のニーズに合わせた生活支援や地域活動に関する情報を積極的に発信していく。	

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の医療・保健・福祉に関するワンストップ窓口として相談者の気持ちに寄り添い、丁寧な聞き取りを行い、包括3職種間における情報共有やケース検討会議を行った。</li> <li>・民生委員をはじめとする様々な関係機関とのネットワークを活用し、支援を必要とする高齢者の早期発見、支援方法の協議、課題解決に努めた。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者の気持ちに寄り添いながら丁寧な聞き取りを行い、課題の把握と適切なサービス利用へ繋ぐことができた。また、保健・福祉・医療等に関する制度や地域資源の把握を行い、日頃から他機関との連携を図ることで、より円滑に支援できる体制づくりに努めた。</li> <li>・包括3職種で情報の共有を図り、緊急性を判断しながら適宜必要な機関と連携をして、相談対応を図った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	ワンストップの総合相談窓口として、包括3職種で情報共有やケース検討を行い、迅速な対応を図るとともに、地域の関係機関と連携し相談支援を進めることができたため。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者の気持ちに寄り添いながら悩みや困りごとを引き出し、具体的な支援に結び付けられるよう心がける。</li> <li>・適切な情報提供を行うため、保健・福祉・医療等に関する制度や動向を包括3職種で共有する。</li> <li>・関係機関とのネットワークを活用し、支援を必要とする高齢者の早期発見、支援方法の協議、課題解決に努める。</li> </ul>		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待に関しては、関係者間と連携を密にし速やかに対応することで、適切な支援に繋げることができた。また、虐待連絡会での事例検討や意見交換、他のセンターでの対応を知ることで職員のスキルアップに繋げることができた。</li> <li>・権利擁護に関する相談では、成年後見支援センターなどの関係機関との連携に努め、成年後見制度や日常生活自立支援事業が適切なタイミングで有効に活用できるよう情報提供を行うことができた。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度の利用支援や高齢者虐待に関する対応については、成年後見支援センターや高齢障害支援課など関係機関との連携を図り、支援を行うことができた。</li> <li>・総合相談や高齢者サロン、地域活動団体の定例会など機会を捉え、消費者被害防止のための注意喚起を行った。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	権利擁護に関しては、包括3職種の専門性を活かすため情報共有を行うとともに、関係機関との連携し適切な支援に迅速に結びつくよう、対応することができたため。
	次年度に向けた展望	誰もが住み慣れた地域で尊厳ある生活を送ることができるよう、権利擁護を目的とする制度や仕組みを有効活用するとともに、包括3職種の専門性を活かしたチームアプローチを心掛けていく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、サービス事業所、千葉市生活自立・仕事相談センター緑、緑区基幹相談支援センター、緑区高齢支援班、健康課、援護課などと必要に応じて連携し、支援体制の充実を図り高齢者の支援に結び付けることができた。</li> <li>・緑区の介護支援専門員を対象にBCP（業務継続計画）の講演会を開催した。鎌取・誉田圏域の居宅介護支援事業所と対面、オンラインによる事例検討会を2回実施した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係機関と連携し、支援体制の充実を図り高齢者の支援に結び付けることができた。</li> <li>・緑区の介護支援専門員と障害相談員を対象に「障害サービスから介護保険サービスへの移行」について勉強会を開催した。鎌取・誉田圏域の居宅介護支援事業所との事例検討会を対面4回、オンラインで2回実施した。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 複合的課題を抱える世帯への支援について、地域ケア会議の活用や、各関係機関と連携を図り課題解決に向けた取り組みを行うことができた。生活支援コーディネーターと連携し、地域住民に対しインフォーマルサービスの情報を発信できたため。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・介護・障害及びインフォーマルサービスを含む多様な関係機関の情報収集、情報発信に努め、関係機関との連携強化と充実を図り、複合的な課題を抱える高齢者を適切な支援に繋げる。</li> <li>・各関係機関と必要な協力が得られるよう、日頃から協力体制の確保に努める。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン（5団体）、シニアリーダー体操教室(6団体)へ参加し、熱中症予防、フレイル予防、自律神経症状などの健康に関する講座やあんしんケアセンターの紹介に関する講座などを11回開催した。</li> <li>・緑いきいきプラザと共催し、健康測定会を実施した。</li> <li>・地域の理学療法士と共催し、健康測定会、フレイル予防に関する健康講座を開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン（5団体）、シニアリーダー体操教室（7団体）へ参加し、フレイル予防、認知症予防、低栄養予防、感染症予防などの健康に関する講座やあんしんケアセンターの紹介、介護保険制度に関する講座を計12回開催した。</li> <li>・シニアリーダー体操教室の1団体にて、いきいき活動手帳を配布し、あんしんケアセンターの職員が活動記録を付ける場を設けた。地域住民の介護予防に関する意識調査に繋がり、顔の見える関係性を構築できた。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由 住民主体の通いの場・交流の場に出向き、介護予防に関する講座を開催することができた。加えて、いきいき活動手帳を活用したことで、地域住民の介護予防に関する意識や関心のある分野を把握し、地域住民がより関心を持てる講座を行うことができた。また、講座の際には参加者から質問や意見が出ており、介護予防に対する意識や関心が高まりつつあると考えられる。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体の通いの場・交流の場に出向き、いつでも相談できる、安心できる顔の見える関係性を構築する。</li> <li>・いきいき活動手帳を活用し、地域住民のニーズや活動状況の把握に努め、地域住民の関心に合わせた講座を開催することでより効果的な介護予防普及啓発活動を実施する。</li> </ul>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター 誉田			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>地区概況： 圏域の高齢者数は約6400人、高齢化率は約26%である。ごく一部の地区は開発が進み、若い世代の転入もみられるが、多くの地域では後期高齢化が進みつつある。圏域を東西に幹線道路とJRがほぼ並行して走っており、生活に必要な機関や施設もその沿線に集中している。多くは農村地域で、地縁は強く、住民同士の連帯意識は高い。半面、新しいことへの抵抗感が強く、また新しく転入してきた住民との交流はほとんどない。</p> <p>地区課題： ①外出が困難な地域が多い：地区の多くは交通が不便なため、幹線道路の沿線から少しでも離れると移動の手段がない。また坂道が多く徒歩での外出がしにくく、歩道が狭いため歩行器やシニアカーを使いにくい。 ②介護予防のための受け皿がない：‘体操より畑仕事’という高齢者も多く、改めて集まって運動をしようという意識が育たない。ゆえに、そのような活動の中心となるという人材が少ない。またここ数年は感染症の広がり、活動を中止してしまった団体もあり、再開に向けた後押しが必要である。</p>			
活動方針 (総合)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2層生活支援コーディネーターとともに、介護予防のための通いの場を創設したり、その活動を担ってもらえる人材の発掘に力を入れる。</li> <li>2. 多問題を抱えるケースが増えているため、民生委員や自治会、さらに介護保険事業所などと連携を図り、課題を抱えている世帯の早期発見に努める。</li> <li>3. 各種の広報や出張活動を増やし、住民の介護予防への意識を高めていく。</li> </ol>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が増えたが、地域住民や関係団体からの協力をいただきながら、支援の量や質を落とさず業務にあたることができた。また、出張相談会や障害者領域の相談員との交流会を持つなど、新たな取り組みもできた。第2層生活支援コーディネーターとの協力体制が構築されてきたため、年度当初に決めた「重点活動」が実施できた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への参加及び他分野との連携を強化することで、相談支援業務の質を高める。</li> <li>・広報や出張活動を増やし、あんしんケアセンターの周知に繋げ、地域高齢者の抱える課題の早期発見に努める。</li> <li>・生活支援コーディネーターとともに介護予防に資する情報を収集し、地域住民に周知する。また、地域活動においては、住民が主体となって安定した運営ができるように寄り添い、測定会や講話などの後方支援を行う。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービスを利用していた方が、介護保険を卒業し、移動販売などのインフォーマルな資源を活用し生活できるよう支援した。</li> <li>・様々な場で広報紙を配布し、フレイルの改善に繋がる講座や体操などについて周知した。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のケアマネジャーや介護保険サービスの利用を希望していた相談者に対して、インフォーマルサービスの利用を提案し、自立促進に繋がる多様な資源の提供に努めた。本人の選択によりインフォーマルサービスの利用に繋がったケースもあったが、アセスメントの結果、介護保険のサービス利用が適当と判断するケースも多く、ケアプランの作成数が増加した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス利用者に対して、セルフケアの意識を高めるための活動ができなかった。</li> <li>・担当するケアマネジャーがすぐに見つからない場合など、地域の活動を紹介し、本人の持っている力や意欲を維持できるよう促し参加につなげることが出来た。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙に地域の活動の場について情報を多く掲載し、関係機関だけでなく居宅介護支援事業所や介護保険サービスの利用者に配布することで、地域の活動の場を周知、参加を促していく。</li> </ul>		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張相談会を緑いきいきプラザ、公民館、集会所で実施することができた。</li> <li>毎月包括3職種と第2層SCで会議を行い、総合相談の内容を確認し、継続フォローか終結かなど支援内容を検討した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張相談会は1つの地区で開催した。他の地区では町内会との話し合いがまとまらなかったり、総合相談に業務が集中したため開催できなかった。</li> <li>広く意見を求める必要のあるケースが続き、個別ケース会議を6回（4ケース）開いた。</li> <li>毎月包括3職種と第2層SCで会議を行い、総合相談の内容を確認し、継続フォローか終結かなど支援内容を検討した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>出張相談会の開催回数が少なかったが、町内自治会へ出向いて話をする中で、地域住民の意識や実情の把握につながり今後の活動の足掛かりとなった。</li> <li>個別ケース会議を通して住民と介護保険事業者との地域のネットワークを作ることができた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮、障害者あるいは引きこもりなど多問題を抱える高齢者世帯に対して、担当機関との連携を図りながら、多角的な支援を提供する。</li> <li>より多くの他分野を巻き込み、'小さな連携の輪'を一つでも多く構築していく。</li> <li>あんしんケアセンターで行う地域包括の活動の周知にさらに力を入れ、'どこに相談したらいいかわからない'という住民の声を減らすことを目指す。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>隔月に開催される緑区虐待対応連絡会で情報共有を図り、他センターで対応しているケースについて意見交換などを行うことができた。</li> <li>年4回発行している広報紙で、消費者被害防止のための啓発を行った。</li> <li>日常生活自立支援事業や成年後見制度につなぐことができた。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、隔月開催される緑区虐待対応連絡会で情報共有を図り、広報紙を活用しての消費者被害防止の啓発を行った。</li> <li>ケアマネジャーから情報提供された虐待疑いのケースについて、個別ケース会議を行い、情報共有と今後の支援方針について協議する場を設けた。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>虐待と思われる相談があった際には、区の高齢障害支援課と情報共有を行い、関係者と共に対策を考えることができた。</li> <li>今年度、成年後見制度に1件、日常生活自立支援事業に1件、それぞれに繋ぐことができ、認知症高齢者が抱える金銭管理等の問題に対応できた。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>区の高齢障害支援課と適宜情報共有を行い、虐待事案があった際には、迅速に対応できるようにしていく。</li> <li>広報紙などを活用して、消費者被害に遭わないように注意喚起を行う。また、成年後見制度について広報を行っていく。</li> </ul>	
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>誉田あんしんネットワーク会議で地域の主要関係機関と情報共有を図った。複雑なケースについては対応を検討する時間も設けて、継続的なフォロー体制を確認した。</li> <li>個別ケース会議では、行政・介護保険事業所・民生委員だけではなく、地域住民・第2層SC・司法書士にも参加してもらい、幅広い意見をもとにケアの方針を決めた。・圏域居宅事業所連絡会と事例検討会については、前期は1回ずつ開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>誉田あんしんネットワーク会議で地域の主要関係機関と情報共有を図った。必要に応じて個人情報保護に配慮しながら、個別ケースへのそれぞれの意見を求め、新しい情報を得ることができた。</li> <li>家族の会や障害支援者向け連絡会で「あんしんケアセンター」の周知活動を行った。</li> <li>事例検討会や障害領域との情報交換会を開くことができた。多職種連携会議も開催できた。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域の連絡会、他業務の対応に時間を取られたため、開催することができなかった。</li> <li>・障害相談員との情報交換会は大変好評だった。</li> <li>・個別ケース会議で対象者だけでなくケアマネジャーの支援に繋げることができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多岐にわたる関係団体との情報交換会を開催できるよう働きかけを行う。</li> <li>・個別ケース会議の開催に力を入れ、地域課題解決とネットワーク構築に向けた地域ケア会議を開催する。</li> <li>・圏域の連絡会を年2回開き、専門職の連携強化とケアマネジメント力の向上に繋げる。多職種連携会議や地域ケア会議に参加を呼びかけ、地域の課題や介護支援専門員の課題を共有し、解決策を生み出していく。そこで提案された解決策などを、誉田あんしんネットワーク会議でも検討する。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑いきいきプラザの協力を受け、地域住民に対して運動教室を開催した。</li> <li>・ほんだ貯筋倶楽部を毎月開催した。基本チェックリストの他、緑いきいきプラザや緑区健康課、地域NPOの講座や体操を盛り込んだ。</li> <li>・オレンジカフェを再開し、地域住民の集いの場を増やす事ができた。</li> <li>・誉田1丁目団地で再開された通いの場に対して、活動支援を行うことで話が進んだ。</li> </ul>		
後期	具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハのポッチャクラブに依頼し、ほんだ貯筋倶楽部にてポッチャを開催した。</li> <li>・緑いきいきプラザの協力を受けながら、地域のサロンにて健康測定会と基本チェックリストを行うことができた。</li> <li>・オレンジカフェを再開後、第1,3,5土曜日に継続して開催できた。ボランティアも増え、活動が活発化し、地域住民の集いの場の1つとして定着した。</li> </ul>		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハの協力を得て、ほんだ貯筋倶楽部にて、ポッチャを実施し、参加者の興味や活動の選択肢を増やす意味での介護予防に繋がった。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターの協力により、健康測定会を希望しているサロンとあんしんとを繋いでもらい、健康測定会を実施することができた。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に自治会やサロンの地域住民を対象にした健康測定会や講座、基本チェックリストを使用した相談会等を実施し、住民自らが健康や介護予防に興味を持つ機会を定期的に提供していく。</li> <li>・毎月実施しているほんだ貯筋倶楽部を継続し、参加者の介護予防のためのセルフケアの取り組みに繋げていく。</li> </ul>		

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター土気			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【地区概況】 人口44,122人 高齢者人口13,606人 高齢化率30.8%（令和4年12月31日時点） JR外房線を境に北部は旧農村地域で昔から居住する住民が多く、南部は30年程前に開発された新興住宅地と宅地開発され40年経過した戸建ての団地が混在する地域。</p> <p>【地区課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない新興住宅地と宅地開発され40～50年経過し、高齢化率が45%を超えている戸建て団地の地域が混在している地域で、圏域全体に高齢化が進行している。</li> <li>・高齢化率が高い地域は単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死の発生や老老介護の状況が多く見られる。</li> <li>・圏域北部のバス路線が廃止されるなど、圏域全体に交通の便が悪く、通院や買い物、通いの場等への移動に困っている高齢者が多い。</li> <li>・高齢者と同居する家族が精神疾患や障害を抱えている等8050問題や複合的な課題を抱える世帯の相談が増加している。</li> <li>・入院可能な医療機関が1か所しかなく、総合病院ではない為、遠方の医療機関へ入院しなければならない。</li> </ul>			
活動方針 (総合)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者やその家族が抱える複雑多様化する生活課題に対して、関係機関や地域の関係者との連携を強化し、制度横断的対応を行い、家族全体を支援する体制をつくる。</li> <li>2. 地域課題解決に向けた検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、通いの場等地域の活動団体への支援を行う。</li> <li>3. 地域へ出向き、センター（出張所含む）の周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を継続して行う。</li> </ol>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的な課題を抱える世帯の事例について課題解決の為、様々な関係機関や多職種と地域ケア会議を行う等連携を図り、世帯全体を支援する対応ができた為。</li> <li>・地域課題検討の為の地域ケア会議が継続的に実施できた為。</li> <li>・認知症カフェの運営支援地域活動の支援者に対する認知症勉強会が実施できた為。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も地域課題検討の為、関係機関、多職種と連携し、地域ケア会議を継続的に実施する予定。</li> <li>・認知症施策推進の為、地域活動等を通じて認知症に関する知識の普及啓発を継続する。</li> <li>・あんしんケアセンターの周知活動や健康づくり、介護予防に関する啓発活動を継続的に実施する。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前 期	具体的な取 組み状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>①対象者に対して適切にアセスメントし、個々のニーズに合わせ、地域の社会資源を活用したケアマネジメントに努めた。</li> <li>②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の情報収集発信を行った。また、生活支援コーディネーターを中心に地域の活動団体等とインフォーマルな支援について検討するインフォーマルケア会議を毎月実施した。</li> </ol> <p>業務委託可能な居宅介護支援事業所がなく、担当介護支援専門員の調整に苦慮した。</p>		
後 期	具体的な取 組み状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>①対象者の望む暮らしや個々のニーズに合わせ、地域の社会資源を活用したケアマネジメントに努めた。</li> <li>②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の情報収集、発信をした他、地域の活動団体とインフォーマルな支援について検討するインフォーマルケア会議を毎月実施し、資源開発に向けて取り組んだ。</li> </ol> <p>要支援認定者について、介護支援専門員の不足により、業務委託可能な居宅介護支援事業所がなく、介護予防サービスの利用ができない利用者が発生した。</p>		

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントについて、利用者個々のニーズや状況に応じて介護予防サービスや地域のインフォーマルな資源を継続して活用できた為。</li> <li>・インフォーマルケア会議が継続的に実施できた為。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の望む暮らしや個々の状況に応じて、インフォーマル資源等を活用したケアマネジメントを行っていく。</li> <li>・地域の介護支援専門員不足等により介護予防サービスを利用できない利用者があることから、対応策を関係機関と検討し、改善に向けた働きかけを行う。</li> </ul>		
3 総合相談支援				
年度 総括	前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相談事例については緊急性の判断や支援方針を検討し、状況に応じて複数職員によるチームで対応を行った。</li> <li>②8050事例や精神疾患や認知症による暴力行為がある事例等、高齢者だけでなく、その家族への支援も含め、関係機関（行政、障害者基幹相談支援センターや生活自立・仕事相談センター等）と連携し、ケース会議等を実施し、対応した。</li> <li>③圏域内にある4中学校区のうち3地区の民生委員の会議へ参加した。また、地区部会の会議や地域のサロン等高齢者が集う場へ出向き、センターの周知活動を行った。</li> <li>④生活自立仕事相談センター緑と協働し出張相談会を2度実施した。</li> </ul>	
	後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相談事例については緊急性の判断や支援方針を検討し、救急搬送や緊急で施設入所の調整をするなど状況に応じた対応を行った。</li> <li>②8050事例や精神疾患や認知症による暴力行為がある事例等、高齢者だけでなく、その家族への支援も含め、関係機関（行政、障害者基幹相談支援センターや生活自立・仕事相談センター等）とケース会議等を実施し、連携して対応した。</li> <li>③圏域内にある1中学校区の民生委員の会議へ参加した。また、社協地区部会の会議や地域のサロン等高齢者が集う場へ出向き、あんしんケアセンターの周知活動を行った。</li> <li>④生活自立仕事相談センター緑と協働し出張相談会を2度実施した。</li> </ul>	
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	複雑多様化する相談に対して、関係機関と連携しケース会議や地域ケア会議を行い、多機関と連携し対応ができた為。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮、ヤングケアラー、同居家族が精神疾患を抱える等複合的な課題を抱える世帯の相談が増加しており、関係機関、多職種との関係づくりを継続し、連携強化を図る。</li> <li>・民生委員や自治会、社協地区部会など、地域の関係者の会合等へ参加し、あんしんケアセンターの周知活動を継続して行い、相談が繋がりやすい体制をつくる。</li> </ul>		
4 権利擁護				
年度 総括	前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①虐待に関する相談に対して、高齢障害支援課と対応を協議し、連携して対応できた。</li> <li>②身寄りがなく、親族からの協力が得られない認知症高齢者について、高齢障害支援課や法テラス、弁護士、司法書士等と連携し、成年後見制度申立てに複数繋げた。</li> <li>③消費者被害に関する情報について民生委員や自治会、介護支援専門員に対して周知し啓発を行った。</li> </ul>	
	後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①虐待の相談で緊急性が高い事例について、高齢障害支援課と連携して緊急保護対応を行った。</li> <li>②身寄りがなく認知症高齢者や、判断力が低下し債務を抱える事例について高齢障害支援課や法テラス、弁護士、司法書士と連携し、成年後見制度申立てや債務整理等の支援に複数繋げた。</li> <li>③消費者被害情報について民生委員や自治会へは書面、介護支援専門員に対してはメールで周知を行った。</li> </ul>	

年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待事例について高齢障害支援課と連携して緊急保護対応ができた為。</li> <li>・成年後見制度や法的な対応が必要な高齢者に対し、司法の専門職等と連携し必要な制度に繋げることができた為。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待事例について高齢障害支援課と情報共有、連携を図り、必要時迅速に対応を行う。</li> <li>・成年後見制度や法的対応が必要な事例も増えている為、成年後見支援センターや法テラス、弁護士など司法専門職との連携強化を図る。</li> <li>・権利擁護支援に関するセンター職員の知識、技術の向上を図る。</li> </ul>		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取 組み状況	<p>①介護支援専門員が抱える困難事例について個別ケース会議や地域ケア会議を開催し、関係機関と連携し後方支援を行った。②民生委員、町内自治会、社協地区部会、いきいきプラザ・センター、高齢障害支援課、緑区障害者基幹相談支援センター、生活自立仕事相談センター緑と毎月地域ケア会議を開催し、地域課題の共有、検討を行った。③圏域の介護支援専門員に対して5月に消費者被害、8月にBCPIについての研修会を実施した。6月、9月に事例検討会を行った。6月は生活保護に関する事例で、社会援護課による生活保護に関する講義を受講した。9月の事例検討会では障害福祉についての事例で、健康課による講義の他、障害者基幹相談支援センター、千葉リハビリテーションセンター等関係機関にアドバイスをもらった。</p>		
後期	具体的な取 組み状況	<p>①介護支援専門員が抱える困難事例について個別ケース会議や同行訪問を行った。②民生委員や自治会等の地域の関係者や高齢障害支援課等関係相談機関と毎月地域ケア会議を開催し、地域課題の共有、検討を行った。③圏域の介護支援専門員に対する研修会として、10月に民生委員と介護支援専門員との意見交換会、2月には神経内科医による認知症についての研修会を行った。また、12月と3月に土気圏域の介護支援専門員を対象とした事例検討会を実施した。緑区内のあんしん合同で、2月に障害福祉分野の相談支援専門員と介護支援専門員との情報交換会を行った。④圏域の主任介護支援専門員との意見交換会を実施し、事例検討会及び研修について意見交換を行った。</p>		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議において、各月のテーマごとに防災対策課や地域まごサポートセンター、住まいサポートなどの関係機関の担当者へ出席してもらい、業務内容の共有や高齢者支援に関する話し合いが行えた為。</li> <li>・圏域の介護支援専門員に対してオンラインで民生委員との意見交換会や認知症の研修会を実施し、グループワーク等を交えて有意義な研修を行えた為。また、緑区全体で相談支援専門員と介護支援専門員との連絡会を行い、障害福祉サービスと介護保険制度について横出しや上乘せなどや65歳でのサービスの移行などについて確認できた為。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員が抱える困難事例に対して必要に応じて関係機関と連携し、包括的な支援を行う。</li> <li>・地域課題共有、検討する地域ケア会議を定期開催する。</li> <li>・介護支援専門員に対する研修会を開催する。土気圏域研修会年3回、圏域事例検討会年3回、主任介護支援専門員との意見交換会年1回、緑区合同勉強会年2回を予定している。</li> </ul>		

6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	①普及啓発活動訪問10回（サロン6回、地域活動の場4回）健康相談会は4回実施した。 ②地域活動支援事業での訪問は47回（地域活動の場21回、会議12回、地域リハ10回、その他4回）実施した。 ③サロン訪問では転倒予防について様々な媒体を活用して講話等を実施した。 ④訪問時に各参加者やボランティア等との関係づくりを行い地域課題やニーズについて意識して聞き取りを行った。	
後期	具体的な取り組み状況	①普及啓発活動訪問8回（サロン6回、地域活動の場2回）健康相談会は4回実施した。 ②地域活動支援事業での訪問は22回（地域活動の場12回、会議4回、地域リハビリ支援事業5回、その他1回） 地域活動に参加する高齢者向けに薬剤師・医師による講演会を4回実施した。 ③ふるさとまつり、地域のグランドゴルフ大会などイベントへの参加、認知症勉強会などの講演会を4回実施した。 ④緑区健康課による歯っぴー健口教室を、既存の地域活動の中での実施を依頼。4回コースで行った。	
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 地域活動支援において、他団体（地域リハ・薬剤師・医師・いきいきプラザセンター・緑区健康課等）と連携をとり、様々な内容の講演会や運動の実践等を体験していただくことができた為。
	次年度に向けた展望	・サロンや地区活動参加者や担い手となっているボランティアの方からのニーズを聞き取り、より地域活動が活発化でき健康増進・介護予防の知識を普及啓発していける機会を継続的に行う。	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター真砂		
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 独居・高齢世帯の相談が増加している。（令和4年度※1月末時点 世帯別相談割合 独居高齢者↑37.5% 高齢世帯↓36.4% 同居↑20.9% その他↑4.9% 不明↓0.3%）※矢印 令和3年度比</li> <li>● 認知症・精神・知的障害など複数の問題を抱える世帯が増え、多機関・他制度への繋ぎ支援が必要。</li> <li>● 高齢者虐待（疑いも含め）対応の増加。</li> </ul> <p>成年後見制度 令和3年度 延べ326回（新規16名） ⇒ 令和4年度※1月末時点 延べ242回（新規8名）          高齢者虐待 令和3年度 延べ144回（新規8名） ⇒ 令和4年度※1月末時点 延べ242回（新規8名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害の制度や法的な問題に対して、地域住民及び専門職や支援者のサポートが必要である。</li> <li>● 近隣との交流・見守り体制が希薄、相談・支援先を知らない事で問題が潜在化し、事態の重症化を招き易い。</li> <li>● エレベーターのない低中層住宅が約80棟あり、居住する高齢者の閉じこもりや外出困難事例が増加する。</li> </ul>		
活動方針 （総合）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題を住民へ伝え、介護予防及び地域の見守り意識を高める。住民の通報により、要支援高齢者が早期に見えられ、住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメントなど適切な支援につなげる。</li> <li>● 地域包括ケアシステムの推進に向けて、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、1層及び2層生活支援コーディネーターとの連携により地域住民や関係機関・団体とのネットワーク構築を図る。</li> <li>● 在宅医療と介護、障害の情報収集に努め、複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。</li> <li>● 介護予防、地域課題の普及啓発や会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う。</li> <li>● 自然災害や感染症の蔓延など不測の事態においても、適切なセンター運営ができるようにBCP作成に取り組む。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由
	次年度に向けた展望	<p>複合的な課題を抱える高齢者及び世帯に対し適切な支援を行うため、第2層生活支援コーディネーターと連携し、公的なサービスの他、主体の異なる多様な支援に繋げることができた。高齢者虐待への対応や成年後見制度の活用については、行政や専門家と協働で支援を行った。住民向けのミニ講座の開催を通じて地域の課題を伝え、介護予防や地域の見守りの重要性について普及啓発に取り組むことが出来たこと。併せて自治会が無く、民生委員の配置が手薄であった地域に、新しく見守り・集いの場を開拓する為、U R 生活支援アドバイザーと協働で立上げ支援を行えたこと、年度当初の活動計画を概ね実践する事ができた為、B評価とした。</p> <p>①多様な主体から包括的にサービスが選択されるよう介護支援専門員に対する指導助言が重要なポイントであることを踏まえ、包括3職種は、利用者の課題と目標及び、サービス内容・加算との関連性、また、地域の社会資源を活用しているか否かについて、一定の水準を設けチェックできるよう、マニュアルの整備を進め平準化を図る。                  ②ハイリスクな高齢者へ早めにアプローチすることで、より介護予防・重度化防止に取り組む。                  ③認知症ケア推進の為、認知症サポーター養成講座による普及啓発と新たに認知症カフェの立上げ支援を行う。                  ④地域包括ケアシステムの推進の為、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、関係機関とのネットワーク構築、複合的な問題を抱える世帯への相談支援、連携体制の基盤づくりに取り組む。</p>	

2 第1号介護予防支援事業			
前期	具体的な取り組み状況	①ケアプランの作成については千葉市総合事業の他、「ささえあいまさご」、「ケアサポートあいあい」、「ヘルパーリンク」など保険外の自費サービスを位置付けた。委託先のケアマネジャーに対しても幅広い主体からサービスを選択するように指導・助言を行ったほか、ケアマネジャーの紹介は特定の事業所へ偏る事が無いようにケアマネ照会票を確認しながら行った。②相談者に対する社会資源情報の提供については、第2層及び第1層生活支援コーディネーター、UR生活支援アドバイザーと連携し行った。情報提供においては、千葉市の生活支援コーディネーター情報ツール「Ayumu」、地域情報誌「MITT」へ記事を掲載、センター保有の社会資源ファイルを活用した。	
後期	具体的な取り組み状況	①引き続き、ケアプランへ民間の生活支援サービスを位置付けた。ケアマネジャーに対し、ケアプラン及びケアマネジメントチェックなど指導・助言を行うなかで、併せて民間サービスの情報提供を行い多様なサービス主体の選択を促した。ケアマネジャーの紹介は履歴を確認し、偏りが無いよう行った。サービス事業所の選定についても公正中立調査により状況を把握し、特定の事業所に集中しないように注意した。②2層生活支援コーディネーター及び、UR生活支援アドバイザーと連携、千葉市のサイト、当センターのファイルを活用し情報提供を行った。介護予防活動への繋ぎ支援においては、対象者を活動場所まで付添い導入しやすくなるよう工夫を行い、11名の方を活動に繋げた。	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 千葉市総合事業、介護予防支援のケアマネジメントを一体的に実施するとともに、第2層生活支援コーディネーターと連携し、多様な主体から介護予防活動へ繋げるなど支援の充実を図り、利用者の状況に応じて適切なサービスが提供されるように援助を行った。連携を重ねることで地域の介護予防活動団体とのネットワーク構築が進み、また委託先のケアマネジャーにも社会資源の情報提供を行い、ケアプランにインフォーマルサービスを位置づけるよう指導助言を行うことが出来た為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	○介護予防及び日常生活の自立のため利用者の状況に応じて、適切なサービスが提供されるように援助を行う。 ○介護保険サービスなど公的な支援の他、「地域コミュニティの中での孤立・閉じこもり予防」「社会参加」「生きがいづくり」等に配慮し、通いの場やインフォーマルサービスなども個々のニーズに合わせて活用する。 ○繋ぎ支援の在り方、ケアマネジャーへの指導助言に関して、センター内でマニュアルを活用しながら平準化を図る必要がある。	
3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	計画通り実施した。要支援認定を受けた86名の介護保険サービス利用希望者に対して、居宅介護支援事業所へ218回の担当依頼を行い希望者全員にケアマネジャーを紹介した。多様な相談に対して課題を把握し、緊急性を踏まえた上で高齢障害支援課、社会福祉協議会美浜区事務所、生活自立仕事相談センター、千葉市成年後見センター、千葉市動物保護指導センター、法テラス、民間の弁護士事務所と連携し対応にあたった。また、第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域住民を適切な活動やサービスへ繋げた。②総合相談の実績内容を集計分析した結果、増加する地域課題として、独居、高齢世帯の増加及び認知機能の低下により、日常生活の困難さに加え経済的に困窮されている方の相談及び、成年後見制度などの法的な支援を必要とする方の増加を把握した。	
後期	具体的な取り組み状況	計画通り実施した。申請中（41名）・要支援（45名）・要介護（84名）認定の170名に対し334回（78回・141回・114回）担当依頼を行い介護サービス希望者に対しケアマネジャーを紹介した（3/4時点）。多様な相談に対し、課題及び緊急性を踏まえ主治医・弁護士・千葉西警察署、美浜区高齢障害支援課・美浜障害者基幹相談支援センター・生活自立仕事相談センター美浜、福祉まるごとサポートセンターなど関係機関と連携し支援を行った。②月次で総合相談実績を集計した。前期、後期評価のタイミングで対象者の終結の確認を行った。実績を集計した結果、70代以降の比較的若い高齢者であっても、お金が無く、施設などの行き先がない、家族・親族関係性希薄で支援体制が脆弱なお一人様、高齢者世帯が増えている地域課題を把握した。個人の努力だけではなく、地域や社会がどう対応するか考える必要がある。	

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	多様な相談に対し、状況把握を行い、包括3職種及び他の専門職とのチームアプローチにより、適切な機関、制度、サービスに繋げる支援を行った。総合相談の実績内容の集計・分析により地域特性やニーズ・課題を把握したが、課題の解決に至っていない為、C評価とした。
	次年度に向けた展望	○多様な相談に対し、ワンストップで対象者及び家族介護者を含む家族全体への支援を行う。支援にあたり的確な状況把握を行い、支援方針の策定・進捗管理を行う。年2回支援継続・終結の判断を行う。 ○地域特性やニーズ・課題の把握に努めると共に様々な関係者とネットワーク構築を図る。また、複合的かつ支援困難な事例に対しては行政及び関係機関・多職種と連携し対応する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取 り組み状況	①虐待疑いケース8名、虐待と認定された2名に対し、美浜区高齢障害支援課、ケアマネジャー、サービス事業所と連携し対応した。今年度は前期に2名の虐待認定に至った。また既に虐待認定を受けた方1名が施設入所により対応を終結した。②7/20美浜区あんしんケアセンターの主任介護支援専門員、社会福祉士と共催でケアマネジャーを対象に成年後見制度に関する研修を開催し、45名の方が受講した。また当センター専門職は権利擁護、高齢者虐待に関する研修を受講した。③4/13、5/9、5/10に地域住民に対し、詐欺・悪質商法の被害、手口、対策について情報提供、詐欺被害等防止の普及啓発を行った。		
後期	具体的な取 り組み状況	①虐待疑いケース24名（1/31現在）に対し、美浜区高齢障害支援課、ケアマネ、サービス事業所と連携し対応した。後期の虐待認定は3名であった。対象者や養護者が支援を望まない為、継続的な介入ができず経過が追えないケースがあった。成年後見制度の繋ぎ支援を行った方のうち、今年度13名の方が申立てに至った。②未受講であった2名の専門職について2/8「千葉県高齢者虐待防止」研修で受講済み。③地区部会木曜サロン、ラジオ体操、シニアリーダー体操（4/14、5/9、10、10/23、26、11/1）、当センター主催講座（6/14、9/16、9/24、2/13）、真砂いきいきセンター教養講座（11/15-11/21 5回）で詐欺・悪質商法被害防止の普及啓発を行った。居宅介護支援事業所には千葉西警察署へ近況を確認し2/14に圏域のCM・サービス事業所連絡会で対面によりケアマネ、訪問看護師、デイサービス相談員、グループホーム管理者、計画作成者へ配布と説明を行い、注意喚起を行った。		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理 由	虐待（疑い、DV等）ケースに対して、高齢障害支援課、警察、弁護士などと連携し、タイミングを逃さず適切に対応できた。高齢者虐待以外のケースに対しても成年後見制度が必要な方に対し、高齢障害支援課、弁護士、司法書士、行政書士などに繋ぎ、申立て支援を行うことができた。専門職の権利擁護に関する研修を全員受講し、スキルアップを図ることができた。詐欺・悪質商法の予防の普及啓発を地域住民及び介護支援専門員等に対し対面で行うことができた。A評価とした。
	次年度に向けた展望	○高齢者虐待に対し、速やかに行政へ報告すると共に、スクリーニングシートによる客観的な事実確認を行い関係機関と連携し、適切なタイミングで支援する。 ○介護支援専門員に対し、権利擁護に関する研修を実施する。 ○高齢者の詐欺・悪質商法被害を未然に防止するため、地域住民や関係機関に対し情報を提供し注意を促す。 ○高齢者虐待防止 指針、委員会、研修計画を策定、指定介護予防支援事業所、重要事項説明書へ記載する。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	①地域の会議体に参加し、関係機関や団体とのネットワーク構築をはかり、支援環境の整備に取り組んだ。美浜区のあんしんケアセンター協働で圏域の居宅介護支援事業所、主任ケアマネジャーのネットワーク会議を立上げ（10事業所11名＋あんしんケアセンター主任CM8名）、後方支援を行った。②支援困難事例を担当する介護支援専門員の相談、同行訪問、ケース会議の調整などの支援を行った（利用者62名延べ83回）。③ケアマネジャー対象に美浜区あんしんケアセンター主任ケアマネ連絡会で6/9相談支援力向上（参加者41名）、主任ケアマネジャー、社会福祉士共催で7/20に成年後見制度の研修（参加者45名）を対面で開催した。④自立促進ケア会議で事例提供1回行い、地域課題の検討2回（5/9、7/11）を対面開催した。	
後期	具体的な取り組み状況	①12/15美浜区1層協議体、1/21真砂地区地域運営委員会で真砂地区の住民及び関係機関、県・市議員、美浜区議員の方々へ真砂圏域の地域課題について説明した。参加者からは支援者や専門職の業務負担や待遇などについてのご質問を頂いた。真砂圏域の駐車場情報を纏め、ケアマネジャーに提供した。3/2民生委員に対し、8050問題への対応、事例紹介などの研修を実施した。②介護支援専門員からの相談を受け、同行訪問、ケース会議の開催など支援を行った（利用者82名延べ121回2/29現在）。③美浜区あんしん主任ケアマネ連絡会（11/15、12/22）を開催し、研修会の企画、美浜区主任ケアマネネットワーク会議（11/15、12/18事例検討会、1/17）の後方支援について検討した。10/13に「予防ケアプランQ&A」研修会を介護支援専門員20名と美浜区包括職員4名に対し実施した。参加者の8割から好意的な評価を頂き、支援経過、モニタリング、プランの具体的な書き方や暫定ケアプランの取扱いについてより知りたいと要望を頂いた。④地域ケア会議を12/5、12/13、12/14、1/31に個別事例の検討をテーマに開催した。2/14に圏域ケアマネ連絡会で「終活」をテーマに開催した。様々な生活課題に対応する社会資源の見える化、生活支援コーディネーターの活用、支援者の対応力レベルアップや心の不安・負担軽減の研修が必要との提言をまとめた。3/15に美浜区多職種連携会議を「人材不足」をテーマに開催した。	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 地域住民の関係団体の会議体に委員や理事として参加、607地区民生委員へ研修を実施し高齢者及び地域の課題、支援者の関りや他機関との連携について地域住民へ発信することができた。ケアマネジャーへの相談支援、圏域のケアマネ連絡会、美浜区あんしん主任CM連絡会、美浜区主任CMネットワーク会議を通じて資質の向上、ニーズの把握及びネットワークの構築、支援の環境整備に取り組むことができたが、地域ケア会議について「圏域の多職種連携会議」が開催できなかった為、C評価とした。
	次年度に向けた展望	①高齢者の適切な支援の為、地域の関係機関や団体とネットワーク構築・連携を図り、支援の環境整備を行う。 ②介護支援専門員に対し、支援困難事例への助言、指導を行う。 ③介護支援専門員のニーズ把握、資質の向上に取り組む。テーマに沿った専門職を講師として招聘する。 ④美浜区主任ケアマネネットワーク会議の自立支援。	

6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<p>①7/5美浜区あんしん保健師看護師連絡会にて各圏域の総合相談及び医療機関の状況を共有した。8/15健康課真砂地区担当との連携会議を開催。保健事業と介護予防の一体的な実施についての説明を受け、対象者の情報共有などの連携を確認した。②-1 6/14東建折り紙の会「あんしんケアセンターについて（7名）」、6/28東建マンション「骨密度測定、健康講話（20名）」、9/24真砂5丁目五月会敬老会「介護予防・あんしんケアセンター（30名）」を各講座を実施した。②-2 6/2「Kids'認知症サポーター養成講座（真砂西小）」を実施した。9/25認知症サポーターステップアップ講座（中央区13名）に第2層生活支援コーディネーターが講師として参加した。②-3 総合相談支援で2名の方に基本チェックリストを実施、対象者自身が生活リスクへの気付きを得て、介護予防の意識を高めることができた。③UR真砂第2団地にUR生活支援アドバイザーと協働でシニアリーダー体操を新たに立上げた。活動中及び休止中の住民主体の活動団体の現状を把握、相談助言を行った。</p>	
後期	具体的な取り組み状況	<p>①千葉市の低栄養事業の対象者は1名。健康課からの要請で出張先の対象者、気になる方への情報提供を行った。②-1 真砂いきいきセンター（5コマ11/15-11/21 40名）でボランティア活動や介護予防のセルフケアについて講座を実施した。②-2 認サポ養成講座を小学生（真砂西小187名、真砂5小36名、真砂東小160名）、幕張総合高校（38名）及びアルソック警備（11名）に対し実施した。②-3 総合相談支援で3名の方に「基本チェックリスト」実施した。真砂いきいきセンターの講座にて、40名の方に対し「いきいき活動手帳」の説明を行った。③2層SCと協働で6団体6回、2層SC単独で18団体120回の活動に参加し支援を行った。</p>	
年度総括	自己評価	B	<p>自己評価を選択した理由</p> <p>千葉市、美浜区健康課と連携し、介護予防事業へ取り組むことが出来たこと。2層生活支援コーディネーターと連携し、住民主体の活動支援、あんしんケアセンター主催のミニ講座などの開催を通じ地域住民に地域課題を伝え、介護予防や地域の見守り、セルフケア重要性について普及啓発ができた。認知症サポーター養成講座を小学生から高校生、企業など幅広い世代に対し行い、認知症ケアの推進に取組めた。また、新たな集いの場として、真砂3丁目のUR真砂第2団地のシニアリーダー体操の立上げができたことを評価し、B評価とした。千葉市の介護予防のセルフケアの手法として「いきいき活動手帳」の活用、基本チェックリスト実施については十分ではなかった為、引き続き次年度も取組を継続する。</p>
	次年度に向けた展望	<p>①千葉市の高齢者に対する保健事業と介護予防の一体的な実施推進の為、美浜区健康課、保健福祉センター等との連携を強化する。特に健康診査未受診、医科、歯科のレセプトが無い、介護認定を受けていないなどのハイリスクの方へ健康課と同行訪問することを健康課へ提案する。</p> <p>②元気なうちに、自ら健康づくりや介護予防に取組めるよう、セルフケアの基礎知識・活動を周知する。</p> <p>③住民主体の取組みが自主的な実施の為、第2層生活支援コーディネーターと連携、活動団体に対し支援を行う。</p>	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター磯辺			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【高浜・磯辺】一部を除き、低層マンションや戸建地区。ほぼ全域が住居専用地域のため、商店も少ない。戸建地区では高齢化が高く、町丁によっては50%近くになる。マンション地区では、エレベータがない低層マンションが多く、外出や地域活動などでも困難を生じることが多い。</p> <p>【打瀬】オートロックの高層マンション群。ボランティアやサークルなどの社会参加の意識は比較的高いが、気軽な声かけや見守りがしにくいいため、孤立化しやすい。</p> <p>【幕張西・浜田】地域住民が共有して使用できる場所が公民館のみ。そのため地域全体で連携をとりながら活動できる場所がなく、地域全体の結びつきが希薄である。自治会単位での活動になりがちで、活動の差が大きい。これは介護予防などにも大きな影響があるのではないかと推測する。</p> <p>【共通の特徴】圏域全体が埋立地で、地縁が薄い</p>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの維持、さらなる構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会や民間事業者との連携を深め共同して取り組む。</li> <li>・地域で、住民が主体的に介護予防となる活動に取り組めるように、関係機関と連携を図る。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	医療機関や、高齢障害支援課、健康課などと連携をとり活動することに努力した。自治会、民生委員や、ボランティア団体とも連携を図り活動した。しかし、課題の共有や、解決に向けた取り組みはまだ十分ではない。住民が主体的に介護予防に取り組むための支援はまだ十分ではない。
	次年度に向 けた展望	引き続き、各機関と連携をとり、各地区の特性やニーズに合わせた地域システムの構築に向けて、活動する。各地域において、住民が主体的に介護予防に取り組めるように、イメージしながら関係機関と連携を図る。		
2 第1号介護予防支援事業				
前 期	具体的な取 組み状況	委託先が見つからないため、5月1日付、加配で社会福祉士を1名配置し、プラン作成を積極的に行った。委託のプランは、継続してチェックを行っている。 2層生活支援コーディネーターと連携し、地域資源一覧を作成し、居宅のケアマネジャーも通いの場や自費の生活支援サービスが利用しやすいように整備した。 通いの場でケアプランCを利用できる仕組みづくりを住民に働きかけた。		
後 期	具体的な取 組み状況	委託プランだけでなく、センター内でプラン作成ができる体制が整い、迅速に対応できるようになった。直営プラン、委託プラン共に、センター内でチェック、検討を行い、アセスメントの精度をあげるよう取り組んだ。		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	介護予防の通いの場が不足するという問題に直面しつつ、インフォーマルサービスに繋げるためのアプローチが不足していた。
	次年度に向 けた展望	介護予防プランをセンター内で、作成できる体制を維持する。アセスメント力を強化し、利用者を適切な通所施設につなげるプラン作成に尽力する。地域住民にも働きかけ、インフォーマルサービスの重要性を理解していただける働きかけを行う。インフォーマルサービスや地域を視野に入れたプランの作成を意識し、住民の方が、地域で生活することをイメージできるプランを作成する。		

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	センター内での三職種会議を毎月行い（浜田1回、磯辺2回）情報を共有し、各職種の視点で関わられるようにした。高齢者本人だけでなく、その家族が抱えている課題に対しては、障害者基幹相談支援センターや社協、法テラスなどに繋いだり、令和5年10月に新設したふくまるも含め地域ケア会議（4月～9月で5回開催）を活用し、関係機関と支援の方向性を早期に検討し、協働した。	
後期	具体的な取り組み状況	センター内での三職種会議を毎月行うことで、情報の共有、各職種の視点で関わられるように継続している。複合的な課題をもつケースについては、前期同様、障害者基幹相談支援センターや、社協などと、情報交換や情報共有を行いながら進めている。当事者、管理組合、病院、健康課、警察とケース会議を行い、当事者の理解や、対応方法について協議することができた。	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 ケースについては、都度モニタリングをしたり、センター内で必要と判断した時は、介入をしたりしてきたが、年度内、半期内ではあまり進展が見られず、成果が感じられないこともあったため。また、一部の業務に時間がとられ、タイムリーな介入や支援ができたと思えないため。
	次年度に向けた展望	現在構築できている関係（自治会、民生委員や医療機関、健康課や高齢障害支援課、社協など）を維持できるように丁寧な情報共有や、協働を継続し、多面で支援できるようにネットワーク構築をさらに進める。	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	高齢者虐待の疑いについては、高齢障害支援課やケアマネなど関係機関とアウトリーチを行い早期対応に努めた。消費者被害については、住民の通いの場で、リーフレットを配布するなど啓発に努めた。身寄りのいない方や判断力が低下した方等には、成年後見制度利用を促したり、家族の状況によっては、基幹相談支援センターや生活自立・仕事相談センターを紹介するなどした。7月には、社会福祉士と主任ケアマネ合同でケアマネジャーを対象に成年後見制度に関する研修（7月20日開催、計45名受講。千葉県成年後見支援センターへ後見制度の講師依頼）を行い周知することができた。 成年後見支援制度の市長申立に至ったケースについては、美浜区高齢障害支援課、生活自立、家計相談、民生委員、居宅、自費生活支援サービス、介護保険事業者らと地域ケア会議を開催。支援方針や対応を定め、必要な支援に結びつけることができた。	
後期	具体的な取り組み状況	高齢者虐待の疑いのケースへの、チームアプローチができた。（病院、高齢障害支援課、健康課など） 社会福祉士専門職会議を開催し、情報共有と権利擁護に関する勉強会を実施した（定期開催：年4回）	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 高齢者虐待の疑いがあるケースに対して、多職種で連携し、早期に対応することができた。一方、高齢者虐待の啓発や、多職種へのアプローチが十分でなかった。
	次年度に向けた展望	美浜区障害者基幹相談支援センターと定期的な会議を開催する。また、あんしんケアセンター内、ケアマネジャー対象にも情報共有や啓発を行っていく。	

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	ケアマネジャー対象に美浜区あんしんケアセンター主任ケアマネ連絡会で、6月9日相談支援力向上について（46名参加）、7月20日成年後見制度について（45名参加）研修を行った。 7月の研修では社会福祉士と協働し、ケアマネと社会福祉士や後見支援センターとのネットワークを構築した。美浜区内の主任ケアマネネットワーク（10事業所11名＋あんしん主マネ8名）を構築した。隔月で定例会を開催しており、情報の共有や研修の企画に取り組んだ。 地域ケア会議を計5回開催し、7月25日開催の自立促進ケア会議については事例提供を行った。	
後期	具体的な取り組み状況	概ね2か月に1度、美浜区あんしんケアセンター主任ケアマネ連絡会、美浜区主任ケアマネネットワーク定例会を開催した。多職種連携会議にも取り組み、人材不足について、多職種で問題を共有し、各職種や団体での意見交換などを行った。主任ケアマネネットワーク主催の事例検討会を開催できた。圏域内でケアマネジャーの事例検討会を開催した。	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 以前に比べて、ケアマネジャー同士の意見交換もできるようにネットワークの構築が進んだ。地域課題について地域住民、地域関係者と共有するための地域ケア会議が不十分だった。
	次年度に向けた展望	個々のケアマネジャーの相談支援に力を入れる。ケアマネジャーの学びの機会を提供する（研修会・事例検討会の企画）。個別ケア会議、圏域内における事例検討などの開催を通じ、地域課題をケアマネジャーなど支援者と共有できる工夫をする。インフォーマルサービス提供者も含めた地域ケア会議が開催できるように努力をする。	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	健康課が行う出前講座と協力して、地域における効果的な介護予防を実施した(7月12日磯辺7丁目集会所・15名参加) キッズ認サポ（6月27日磯辺第三小学校 5・6年生。9月6日磯辺小学校 5・6年生）実施。コロナで中止していた百歳体操の再開を支援した。既存の体操教室、いきいきサロン、認知症カフェの活動支援、食を通じての集いの場の活動支援は毎月行った。地域の通いの場での認知症サポーター養成講座を9月10日に行った。美浜区や自治会のイベントに積極的に参加し、予防普及啓発につとめた。 磯辺公民館で8月23日に「介護サービスと介護予防サービス」について講義を行った。	
後期	具体的な取り組み状況	体操教室を通して、介護予防に取り組める教室の再開を行った。（毎月毎週水曜日）地域リハ事業を活用し、百歳体操に専門的なアドバイスをもらい、モチベーションを維持し、効果的な運動を継続できるように支援した。体力測定を実施。体操の自主グループに基本チェックリストを実施し、自らの状態を確認し、維持していけるように意識してもらった。いきいきプラザと協力し、骨密度測定、相談に対応した。高浜公民館講座にて、介護保険や介護予防について講義をした。認知症カフェには、ほぼ毎回参加し、参加者や主催者からの相談などに応じた。認知症の人と家族の会とも連携を図り、美浜区での交流会には同席し、当事者たちの話を聞き、必要に応じ情報提供など行った。打瀬に続き、磯辺でも地域住民と食事がとれる場を、磯辺公民館の協力を得ながら、実施している。	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 介護予防活動の参加者が固定化して、対象者が広がりにくい問題について、具体的な行動計画が立てられていない。
	次年度に向けた展望	体操教室や食を通じてフレイル予防にアプローチする一方、通いの場の創設、継続に尽力する。 まずは、一か所、体力測定やいきいき活動手帳を活用し、定期的に介護予防のモニタリングができるように試みる。	

## 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター高洲			
担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンが不在であったり、遠距離に在住していることで認知機能をはじめとする身体・精神症状の変化の発見が遅れ、生活や医療等に対する対応が困難となる事案が増えている。</li> <li>2. 集合住宅で占められている地域で他市、他県から移住してくる方が多く地域の資源が分からない、コミュニティをうまく活用出来ない等により「引きこもり」になっている方が多い。</li> <li>3. サービス事業者、高齢者施設が少ないことで適切なサービスに結びつけていくことが遅くなる傾向がみられる。</li> <li>4. 緊急的に保護等の対応ケースが増えている中、見守り体制を確立し早期発見に努めていく必要性がある。</li> <li>5. コロナ禍において通いの場が随時閉鎖している中、心身ともに予防活動が損なわれ、状態悪化における相談が増えている。</li> </ol>			
活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防が必要とされる中、総合相談の支援、関係機関との連携、介護予防等安全かつ有効に実施する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携を図り、地域資源の調査に努め、情報を住民に提供する事で介護予防の促進に努める。</li> <li>・事務所の来苑者の増加や建物内外での掲示板が有効活用されていることから、引き続き地域の中核機関として積極的な普及啓発に努める。</li> </ul>			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携や建物内の掲示板の有効活用により相談件数が増えているが、急な来所者に対しては対応が遅くなることもある。</li> <li>・新型コロナウイルスの5類移行により地域活動の場が再開し、生活支援コーディネーターと協力し対応することが出来た。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談において積極的に生活支援コーディネーターと関わり、問題解決を図る。</li> <li>・住宅機関と地域の催しを企画、また定期的に行われている通いの場に積極的に参加する。</li> <li>・ケアマネジャー選定が難しくサービスにつながない住民に対し、代替えの支援、サービスを提供する。</li> <li>・成年後見制度が必要とされる住民に対し、早期に対応する。</li> </ul>		
2 第1号介護予防支援事業				
前 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス事業者のリーフレット等をPCに整理し、必要に応じた情報を相談者へ迅速に提供できるよう配慮した。</li> <li>・生活支援コーディネーターとの連携を図り、インフォーマルサービスの開拓に励んだ。</li> <li>・自立促進ケア会議への参加によりケース対応への手法を学んだ。</li> <li>・要支援者のケアマネジャー選定が難しく、介護サービスの開始が遅れていることで苦情対応を行った。</li> </ul>		
後 期	具体的な取 組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーの選定が難しく、介護サービス利用が遅れるケースに対し、地域資源を積極的に活用した。</li> <li>・ケアマネジャーの待機者リストを作成し、緊急性を図り随時状況確認を行った。</li> <li>・福祉用具業者、施設紹介会社との関りが多くなっている中、他のサービス同様に公正中立を心がけた。</li> <li>・第1層の協議体に参加し、担当地域の活動の場の理解を深め、他地域の情報も参考にすることができた。</li> </ul>		

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援者のケアマネジャーの選定が難しく、フォーマルサービスにつなげられないケースが複数みられている。地域資源を掲載した「高齢者生活サポートブック」を活用し、インフォーマルサービスの利用を多く促している。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービスを利用できない方に対し、引き続きアプローチを図りながら適切な支援を提供する。</li> <li>・介護保険改正において正確な情報を指定介護予防支援事業所に伝え、情報共有を行う。</li> <li>・公的サービスや社会資源のリスト整理を実施し、適切なケアマネジメントを目指す。</li> </ul>
3 総合相談支援				
年度 総括	前期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人からの相談が増え、親族、関係機関と連携し適切に対応した。</li> <li>・困難ケースの対応においては高齢障害支援課へ随時相談、報告を行い連携の上解決を図った。</li> <li>・コロナ禍、猛暑により動けなくなっているという相談が多い中、早急な対応・安否確認等、継続的支援を行った。</li> <li>・圏域外からの移住者が多い中、生活支援コーディネーターと連携し地域資源の活用を促した。</li> </ul>
	後期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターと一緒に相談対応する機会が増え、解決方法の選択肢を増やすことができた。</li> <li>・総合相談未終結が300件前後になる月もあり、解決に向け電話連絡等で積極的にアプローチを図った。</li> <li>・独居高齢者における安否確認が多い中、民生委員、UR等の関係機関と連携を図った。</li> <li>・生活自立・仕事相談センターからの相談が増え、情報共有や同行訪問を行った。</li> </ul>
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月新規の相談件数が70件前後ある中、苦情が少なかったことは良く、苦情に対しても迅速丁寧な対応ができた。</li> <li>・センター内で話し合いの場をもうけ、相談の緊急性、支援の必要性を見極め、相談者に対し積極的にアプローチをした。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問業務が多く、急な来所者に対し職員の対応が難しい中、関係機関とのネットワークを広げ、あんしんケアセンター業務の普及啓発を図る。</li> <li>・未終結となっているケース全てに連絡をする。</li> <li>・職員の専門職研修が多い為、スキルアップに努めていくと同時にセンター全体で知識の共有を行う。</li> </ul>
4 権利擁護				
年度 総括	前期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待ケースにおいて個別の地域ケア会議、予防会議を関係機関を集め実施した。</li> <li>・成年後見制度利用者が増え、専門職との接触、医師への情報提供、施設関係者への説明等連携を図った。</li> <li>・生活自立・仕事相談センターとの関わりが増え、複合的な問題に対し解決を図った。</li> </ul>
	後期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待予防会議を実施し被虐待者の安全性を図った。</li> <li>・身元保証人がいない認知症高齢者に対し、高齢障害支援課や病院と連携を図り成年後見市長申立てにつなげた。</li> <li>・成年後見制度を速やか進める為、医師に対し、本人情報シートの作成を積極的に行った。</li> <li>・警察からの消費者被害状況を随時掲示することで注意喚起を行った。</li> </ul>
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後見、虐待ケースにおいては、随時、高齢障害支援課と情報共有し、他の関係機関とも連携の上、解決に向けた動きが出来ている。</li> <li>・後見人の存在が必要でありながら、制度に結びつかないケースが多いことから、今後の普及啓発や個別対応に課題が残った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き虐待の疑いのあるケースに対し、高齢障害支援課と連携を図り対応する。</li> <li>・生活自立・仕事相談センターとの関わりが増えている中、連携強化に努める。</li> <li>・美浜区社会福祉士会の参加により、専門機関との情報共有に努める。</li> <li>・相談や講義、リーフレットの配布により成年後見制度の普及啓発活動を実施する。</li> </ul>

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内で行われたケアマネジャーに対する連絡会やネットワーク会議は総合相談の対応に追われ殆ど参加が出来なかったが、区内あんしんケアセンターとの情報共有や会議当日以外の協力は行った。</li> <li>困難ケースを抱え業務の滞っているケアマネジャーに対し、会議の参加、同行訪問、個別指導等を行った。</li> <li>生活自立・仕事相談センターの講義を圏域の多職種連携会議で行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>美浜区内の多職種連携会議に参加し、関係機関とのかかわりを持つことが出来た。</li> <li>効率化を目指し個別、地域課題の2つの地域ケア会議を連動して行った。</li> <li>困難事例を担当するケアマネジャーの相談に応じ、必要に応じて同行訪問や関係機関との会議の調整を行った。</li> <li>ケアマネジャーに対するの苦情が多くみられた中、事実確認を双方から行い問題解決に努めた。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャー対象の合同研修会が区内で多く開催された中、当センターにおいては総合相談の対応等で参加が難しく、出来る範囲の事務作業に留まり、協力が出来なかった。</li> <li>ケアマネジャーからの個別の相談においては、同行訪問や会議の参加等により指導や助言を与えることが出来ている。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護支援専門員が対応している困難事例に対し、継続的に必要な支援を行う。</li> <li>圏域内の多職種連携会議（9月）、介護支援専門員連絡会（2月）を開催する。</li> <li>外部研修を受ける職員が多いことから、ケアプラン手法や指導方法を学び、センター内で共有し質の向上を高める。</li> </ul>	
6 一般介護予防事業			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>高洲第2団地の通いの場へ定期的に生活支援コーディネーターと参加し予防普及啓発を行った。</li> <li>UR、福祉用具事業者と連携し、高洲地域2カ所で介護保険講座、相談会、福祉用具展示会を開催した。</li> <li>各地域の民生委員会議に出席し、あんしんケアセンターの業務内容を説明、住民の訪問時に渡していただく地域資源リスト（「高齢者生活サポートブック」）を配布した。</li> <li>「高齢者生活サポートブック」を更新し、介護保険を申請せずに利用できるサービスの情報を提供した。</li> <li>認知症キッズサポーター養成講座では、保護者の観覧もあり、工夫した講義を行うことが出来た。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年ぶりの区民フェスティバルは主担当として企画を進め、あんしんケアセンターの普及啓発活動を実施できた。</li> <li>住民の通いの場への訪問や講義等で介護予防普及啓発の機会が少しずつ増えた。</li> <li>地域の食事会に移住者や交流機会がない住民に参加を促したことにより、人数が増えた。</li> <li>認知症キッズサポーター講座は予定通り実施出来た。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の利用が効果的と判断した住民に対し、生活支援コーディネーターが積極的にかかわりインフォーマルサービスの利用につなげた。</li> <li>地域包括職員と生活支援コーディネーターが各々に動いていくという概念が大きく変わり、連携を図ることが出来ている。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>UR団地と話し合いの場をもうけ、介護予防イベントの開催を目指していく。</li> <li>生活支援コーディネーターと積極的に通いの場に訪問し、地域資源マップを作成していく。</li> <li>地域資源リスト「高齢者生活サポートブック」は7000部以上発行し、住民に配布していく。</li> <li>食事会に関しては、毎回参加しあんしんケアセンターの普及啓発を行っていく。</li> </ul>	

# 令和5年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター幸町		
担当圏域 地区概況及び 地区課題		<p>&lt;地区概況&gt; 高層・低層の集合住宅が大部分を占めている。交通手段は電車（千葉駅や千葉みなと駅、稲毛駅や稲毛海岸駅）やバス。坂がない為、自転車も重要な移動手段となっている。急速な高齢化、ひとり暮らし及び高齢者世帯が増加している。町内自治会など地域のつながりが強い地域ではあるが、世代間交流が難しくなっている。</p> <p>&lt;地区課題&gt; ・独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題がある。 ・地域により見守り機能や地域活動に差があり、問題が潜在化しやすい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域活動や社会生活での制限も影響し、生活不活発な状態が常態化し、地域や家族との関係が希薄になっている。 ・高齢化が進むことで地域の社会資源が減少しているが、新たな社会資源の開発が遅れている。</p>		
活動方針 (総合)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、潜在化し且つ深刻化しつつある引きこもり等の問題の早期発見、早期介入につなげる。</li> <li>・小さな声に寄り添いながら、ネットワークのより一層の強化を図り、更なる地域力の向上を支援する。</li> <li>・コミュニティーの少ない地域の実情を把握し、相談支援体制の充実を図る。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域の不足している社会資源の開発に取り組む。</li> </ul>		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参集による会議や活動が解禁され、地域との関係性を深める事ができた。</li> <li>・各専門機関や専門職との連携により、複合的な課題に取り組むことが出来た。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな声に寄り添いながら、ネットワークのより一層の強化を図り、更なる地域力の向上を支援する。</li> <li>・コミュニティーの少ない地域の実情を把握し、相談支援体制の充実を図る。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域の不足している社会資源の開発に取り組む。</li> <li>・大学や民間企業と地域について情報交換・共有を行い連携する。</li> </ul>
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規、継続ともに、介護予防ケアマネジメントCのプランを作成した。</li> <li>・介護予防プランに、生活支援コーディネーターと協力して地域活動を取り入れた。</li> <li>・委託先の居宅介護支援事業所が作成したケアプランの内容の確認、委託先の介護支援専門員からの相談に対応した。</li> </ul>
後期	具体的な取 組み状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託先の介護予防プランの確認を行い助言を行った。</li> <li>・認定調査遅れの影響で認定結果の決定が遅れ、セルフケアプラン対応が非常に多かった。</li> <li>・生活支援コーディネーターの協力により、直営・委託を問わず介護予防プランにインフォーマルサービスを位置づける事ができた。</li> </ul>
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防プランの適正な運用ができた。</li> <li>・委託先の介護支援専門員と介護予防ケアプラン確認を通して、ケアプラン内容へのアドバイスや、顔の見える関係づくりに取り組むことが出来た。</li> <li>・委託先の介護支援専門員だけでなく、センター内での介護予防ケアマネジメントの適正な運用についての意識づけの浸透・定着に取り組むと同時に課題も残った。</li> </ul>
	次年度に向 けた展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者のセルフケアマネジメントの意識を高まられるよう介護予防ケアマネジメントを行い、併せてインフォーマルな社会資源の活用によりケアマネジメントに生かしていく。</li> <li>・地域の事業所との関わりを通して、相談しやすい環境や信頼関係づくりを深めていく。</li> </ul>

3 総合相談支援			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症、経済的な困窮、精神疾患、虐待、家族関係など複合的な課題を抱えるケースに対して包括3職種が連携し対応した。</li> <li>・自治会、民生委員、UR管理事務所など地域の機関や社会福祉協議会、障害者基幹相談支援センター、生活自立仕事相談センターなどの公的機関、高齢障害支援課など行政機関と連携して支援を行った。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括3職種と生活支援コーディネーターが連携し、協力して支援を行った。</li> <li>・自治会、民生委員、UR管理事務所など地域の関係機関と情報共有し、連携を図った。</li> <li>・行政、社協、生活自立仕事相談センター、成年後見支援センター、障害者基幹相談支援センター、医療機関などの関係機関と連携し、協力しながら様々な課題に対応した。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症、経済的な困窮、精神疾患、虐待、家族関係など複合的な課題を抱えるケースに対して包括3職種が連携し対応できた。</li> <li>・自治会、民生委員、UR管理事務所など地域の機関や生活支援コーディネーター、社会福祉協議会、障害者基幹相談支援センター、生活自立仕事相談センターなどの公的機関、高齢障害支援課など行政機関と連携して支援を行った。</li> </ul>
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の支援体制構築のため自治会、民生委員、UR等と連携し、支援が必要なケースを把握する。</li> <li>・包括3職種協働や関係機関との連携により多様な相談に対応し、解決に向けた支援を行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターと協働し地域資源の紹介・活用を通じて支援体制を構築する。</li> </ul>	
4 権利擁護			
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護の絡む相談が増加しているが、センター内及び行政、関係機関と連携を図りながら対応した。</li> <li>・「成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワークの構築に向けた専門調査会」（以下 専門調査会）に出席し、意見交換を行った。</li> <li>・区内センターの社会福祉士と定期的に連絡会議を開催し、情報の共有を図った。また、成年後見支援センター及び区内センターの主任介護支援専門員と協働し、介護支援専門員向けに「成年後見制度」の研修を開催した。</li> </ul>	
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護に関わるケースに対し、高齢障害支援課及び成年後見支援センター等と連携を図りながら迅速に対応することができた。</li> <li>・区内4センターの社会福祉士とヤングケアラーの研修会に参加し、「多世代に関わる地域の課題」に対する学びを深めた。</li> <li>・専門調査会に出席し、関係機関とのネットワークの構築を図った。</li> </ul>	
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由 虐待及び成年後見支援制度等、権利擁護に関わるケースが増えているが、センター職員それぞれが高齢障害支援課や成年後見支援センター等と連携を図りながら、迅速な対応を行うことができた。また、専門職向けに「成年後見制度」の研修を行い、啓発活動も行うことができた。
	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター内職員及び関係機関と連携を図り、権利擁護に関わるケースの対応を行う。</li> <li>・迅速な対応ができるように、関係機関とのネットワークを強化する。</li> <li>・被害の未然防止や早期発見、早期対応に繋げるため高齢者虐待や成年後見制度、消費者被害に関する周知活動及び啓発活動を行う。</li> <li>・障害者基幹相談支援センター、区高齢障害支援課、美浜区内あんしんケアセンター社会福祉士と年4回の連絡会を行い、情報の共有を図る。</li> </ul>	

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美浜区あんしんケアセンター合同で美浜区主任ケアマネネットワークを立ち上げた。</li> <li>・美浜区あんしん主任ケアマネ連絡会を毎月開催し、研修を2回開催した（うち1回はあんしん社会福祉士と合同）。</li> <li>・認知症初期集中支援チーム会議、美浜区自立促進ケア会議2回（うち1回は事例提供）に参加した。</li> <li>・地域活動への参加候補者を生活支援コーディネーターに紹介した。</li> <li>・困難ケースへにおいて担当介護支援専門員への助言、同行訪問など後方支援を行った。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美浜区合同で各種連絡会、研修会を行った（主任ケアマネネットワーク：奇数月開催・12月認知症研修会開催、美浜区あんしん主任ケアマネ連絡会：偶数月開催、10月介護予防ケアマネジメント研修開催、美浜区あんしん：3月多職種連携会議。</li> <li>・毎月認知症初期集中支援チーム会議に参加した。</li> <li>・11月美浜区自立促進ケア会議に参加し事例提供を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと協働して10月、11月地域合同開催の福祉用具体験会を行った。</li> <li>・委託先介護支援専門員へ認定遅れによる暫定ケアプラン作成を助言した。</li> <li>・困難ケースへにおいて担当介護支援専門員への助言、同行訪問など後方支援を行った。</li> </ul>		
	自己評価	B	自己評価を選択した理由	区全体のケアマネジメント向上、地域や多職種との連携に寄与する事ができた。
年度総括	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美浜区あんしん主任ケアマネ連絡会（偶数月）、美浜区主任ケアマネネットワーク（奇数月）を開催し意見交換や情報共有を行う。</li> <li>・美浜区あんしん主任ケアマネ主催による研修会を開催（7月、11月の年2回予定）し、委託先を含む介護支援専門員のケアマネジメントの質の向上に努める。</li> <li>・美浜区主任ケアマネネットワーク主催による研修会を開催（1回。時期未定）し、区内介護支援専門員のケアマネジメントの質向上に努める。</li> <li>・美浜区あんしん合同多職種連携会議を開催（令和7年2月予定）し、医療を含む専門職と地域課題について検討する。</li> </ul>		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策を行いながら健康教室『ゆるり』を定期的に開催した（第3・第4金曜日の13：30～14：30、ちばしいいき体操とミニ講話）。</li> <li>・幸町主催で美浜区あんしんケアセンター看護職会議を開催し、各センターからの看護職の介護予防活動報告の共有、地域活動への課題や今後の取り組みについて検討した。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を2回開催した（地域住民向けに1回、高齢障害支援課と協働で小学校向けに1回）。</li> </ul>		
後期	具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き感染予防対策を行いながら健康教室を月2回開催した。新規メンバーが少数であるが増えた。</li> <li>・美浜区あんしんケアセンター看護職会議を開催し年間の活動報告、地域活動への課題や今後の取り組みについて共有した。</li> <li>・公民館主催の認知症予防講座を開催した。</li> </ul>		
	自己評価	B	自己評価を選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教室『ゆるり』の活動を継続出来ている。</li> <li>・美浜区の看護職会議に司会・書記担当として開催し、他のセンターの看護職と今の地域課題や看護職の活動・今後の取り組みについて情報共有が出来た。</li> <li>・公民館へ出張講座開催を通して、地域住民へ認知症予防への啓蒙活動が出来た。</li> </ul>
年度総括	次年度に向けた展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター内職員及び関係機関と連携を図り、医療に関わるケースの対応を行う。</li> <li>・行政担当者と連携を図り、担当地区高齢者に対する保健活動への取り組みについて検討を始める。</li> <li>・美浜区看護職会議（年2回）へ出席し、地域課題や看護職の活動の情報共有と、親睦を深める。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、あんしん幸町版の『暮らしの保険室』開設に向けた取り組みを開始する。</li> </ul>		